

魅力ある商業教育の実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指して
—個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究的な学習の実践例—

令和4年10月

全国商業高等学校長協会

目 次

| | |
|------------|---|
| はじめに | 1 |
|------------|---|

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

1 基礎的科目

| | | |
|------|---|----|
| 山形県 | 山形市立商業高等学校【ビジネス基礎】 | 2 |
| 茨城県 | 茨城県立鬼怒商業高等学校【ビジネス基礎】 | 3 |
| 埼玉県 | 埼玉県立浦和商业高等学校【ビジネス基礎】 | 4 |
| 山梨県 | 甲府市立甲府商業高等学校【ビジネス基礎】 | 5 |
| 愛知県 | 愛知県立豊橋商業高等学校【ビジネス基礎】 | 6 |
| 岐阜県 | 岐阜県立岐阜商業高等学校【ビジネス基礎】 | 7 |
| 三重県 | 三重県立四日市商業高等学校【ビジネス基礎】 | 8 |
| 大阪府 | 大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校【ビジネス基礎】 | 9 |
| 鳥取県 | 鳥取県立鳥取商業高等学校【ビジネス基礎】 | 10 |
| 広島県 | 広島県立広島商業高等学校【ビジネス基礎】 | 11 |
| 福岡県 | 福岡県立筑豊高等学校【ビジネス基礎】 | 12 |
| 佐賀県 | 佐賀県立佐賀商業高等学校【ビジネス基礎】 | 13 |
| 長崎県 | 長崎県立佐世保商業高等学校【ビジネス基礎】 | 14 |
| 鹿児島県 | 鹿児島県立屋久島高等学校【ビジネス基礎】 | 15 |
| 福井県 | 福井県立福井商業高等学校【ビジネス実務、コミュニケーション英語Ⅰ】 | 16 |
| 鹿児島県 | 鹿児島女子高等学校【ビジネス・コミュニケーション】 | 17 |
| 高知県 | 高知県立山田高等学校【ビジネス語学】 | 18 |

2 マーケティング分野

| | | |
|-----|-----------------------------|----|
| 北海道 | 北海道釧路商業高等学校【マーケティング】 | 19 |
| 宮城県 | 宮城県大河原商業高等学校【マーケティング】 | 20 |
| 山形県 | 山形県立米沢商業高等学校【マーケティング】 | 21 |
| 富山県 | 富山県立富山商業高等学校【マーケティング】 | 22 |
| 愛媛県 | 愛媛県立今治北高等学校【マーケティング】 | 23 |
| 岡山県 | 岡山県立岡山東商業高等学校【商品開発】 | 24 |
| 徳島県 | 徳島県立池田高等学校辻校【商品開発】 | 25 |
| 高知県 | 高知商業高等学校【商品開発】 | 26 |
| 大分県 | 大分県立安心院高等学校【商品開発】 | 27 |
| 宮城県 | 宮城県松島高等学校【観光実践】 | 28 |
| 埼玉県 | 埼玉県立幸手桜高等学校【広告と販売促進】 | 29 |

3 マネジメント分野

| | | |
|-----|--------------------------|----|
| 石川県 | 石川県立金沢商業高等学校【金融】 | 30 |
| 京都府 | 京都府立京都すばる高等学校【グローバルビジネス】 | 31 |
| 福岡県 | 福岡県立小倉商業高等学校【ビジネス経済】 | 32 |
| 愛媛県 | 愛媛県立大洲高等学校【経済活動と法】 | 33 |

4 会計分野

| | | |
|-----|---------------------|----|
| 香川県 | 香川県立丸亀城西高等学校【簿記】 | 34 |
| 宮崎県 | 宮崎県立延岡商業高等学校【簿記】 | 35 |
| 沖縄県 | 沖縄県立那覇商業高等学校【簿記】 | 36 |
| 岐阜県 | 岐阜県立岐阜商業高等学校【財務会計Ⅰ】 | 37 |
| 島根県 | 島根県立出雲商業高等学校【財務会計Ⅰ】 | 38 |
| 秋田県 | 秋田市立秋田商業高等学校【財務会計Ⅱ】 | 39 |
| 群馬県 | 群馬県立高崎商業高等学校【財務会計Ⅱ】 | 40 |
| 京都府 | 京都府立木津高等学校【財務会計Ⅱ】 | 41 |
| 徳島県 | 徳島県立徳島商業高等学校【財務会計Ⅱ】 | 42 |
| 熊本県 | 熊本県立球磨中央高等学校【財務会計Ⅱ】 | 43 |

5 ビジネス情報分野

| | | |
|------|---------------------------|----|
| 青森県 | 青森県立弘前実業高等学校【情報処理】 | 44 |
| 栃木県 | 栃木県立宇都宮商業高等学校【情報処理】 | 45 |
| 東京都 | 東京都立第五商業高等学校【情報処理、ビジネス情報】 | 46 |
| 神奈川県 | 神奈川県立相原高等学校【情報処理応用】 | 47 |
| 岡山県 | 岡山県立津山商業高等学校【情報処理】 | 48 |
| 岩手県 | 岩手県立盛岡商業高等学校【プログラミング】 | 50 |
| 島根県 | 島根県立松江商業高等学校【プログラミング】 | 51 |
| 山口県 | 山口県立宇部商業高等学校【ビジネス情報管理】 | 52 |
| 香川県 | 香川県立高松商業高等学校【ビジネス情報】 | 53 |
| 佐賀県 | 佐賀県立佐賀商業高等学校【ビジネス情報】 | 54 |
| 宮崎県 | 宮崎県立宮崎商業高等学校【ビジネス情報】 | 55 |
| 山梨県 | 甲府市立甲府商業高等学校【アルゴリズム】 | 56 |
| 新潟県 | 新潟県立長岡商業高等学校【マルチメディア実践】 | 57 |
| 福井県 | 福井県立敦賀高等学校【電子商取引】 | 58 |

6 総合的科目

| | | |
|-----------------|-------------------------------------|----|
| 長野県 | 長野県長野商業高等学校【課題研究、商品開発】 | 59 |
| 茨城県 | 茨城県立水海道第二高等学校【課題研究「情報処理」】 | 60 |
| 北海道 | 北海道苫小牧総合経済高等学校【課題研究】 | 61 |
| 青森県 | 青森県立青森商業高等学校【課題研究】 | 62 |
| 岩手県 | 岩手県立遠野緑峰高等学校【課題研究】 | 63 |
| 福島県 | 福島県立平商業高等学校【課題研究】 | 64 |
| 千葉県 | 千葉県立東金商業高等学校【課題研究】 | 65 |
| 千葉県 | 千葉県立君津商業高等学校【課題研究】 | 66 |
| 東京都 | 東京都立葛飾商業高等学校【課題研究、総合選択A「ビジネスデザインⅡ」】 | 67 |
| 神奈川県 | 横浜市立横浜商業高等学校【課題研究】 | 68 |
| 富山県 | 富山県立富山商業高等学校【課題研究】 | 69 |
| 石川県 | 石川県立小松商業高等学校【課題研究】 | 70 |
| 福島県 | 福島県立福島商業高等学校【課題研究・ビジネス情報研究コース】 | 72 |
| 静岡県 | 静岡県立静岡商業高等学校【課題研究】 | 73 |
| 静岡県 | 静岡県立沼津商業高等学校【課題研究】 | 74 |
| 愛知県 | 愛知県立一宮商業高等学校【課題研究】 | 75 |
| 三重県 | 三重県立津商業高等学校【課題研究】 | 76 |
| 大阪府 | 大阪府立淀商業高等学校【課題研究】 | 77 |
| 兵庫県 | 兵庫県立神戸商業高等学校【課題研究】 | 78 |
| 兵庫県 | 兵庫県立長田商業高等学校【課題研究】 | 79 |
| 奈良県 | 奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校【課題研究】 | 80 |
| 奈良県 | 奈良県立五條高等学校【課題研究】 | 81 |
| 鳥取県 | 鳥取県立米子南高等学校【課題研究】 | 82 |
| 山口県 | 山口県立岩国商業高等学校【課題研究】 | 83 |
| 長崎県 | 長崎県立島原商業高等学校【課題研究】 | 84 |
| 熊本県 | 熊本県立菊池高等学校【課題研究】 | 85 |
| 大分県 | 大分県立情報科学高等学校【課題研究】 | 86 |
| 沖縄県 | 沖縄県立八重山商工高等学校【課題研究】 | 87 |
| 新潟県 | 新潟県立新発田商業高等学校【総合実践】 | 88 |
| 秋田県 | 秋田県立湯沢翔北高等学校【総合的な探究の時間】 | 89 |
| 群馬県 | 群馬県立前橋商業高等学校【起業実践】 | 90 |
| 長野県 | 長野県丸子修学館高等学校【総合探究、探究基礎】 | 91 |
| おわりに | | 92 |
| 資料 本部提案テーマ年度別一覧 | | 93 |

はじめに

令和4年度入学生から年次進行で実施されている高等学校学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性が示されました。特に、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする学習の充実が求められています。また、評価を指導の改善に生かすという視点から、学習評価の重要性が改めて示されるとともに、観点別学習状況の評価の観点が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されました。

令和3年1月に中央教育審議会から出された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）においては、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力を育成するため、これまでの日本型学校教育の良さを受け継ぎながら、更に発展させ、学校における働き方改革やGIGAスクール構想を強力に推進するとともに、この学習指導要領を着実に実施することが求められています。また、学校における授業の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することの重要性が示されています。

そこで、商業教育対策委員会では、これらを踏まえ、令和4年度春季研究協議では、「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の諸課題－全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて」をテーマとして、全国の学校を対象にアンケート調査を行い、その分析及び考察をまとめて本部提案といたしました。

秋季研究協議会の本部提案は、テーマを「魅力ある商業教育の実現に向けた令和の日本型学校教育の構築を目指して」、サブタイトルを「－個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究的な学習の実践例－」といたしました。ICTの活用を織り交ぜた個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動の実践事例を収集し、令和の日本型学校教育の構築を目指した魅力ある商業教育のあり方について考察するシンポジウムの資料として提案いたします。

今回、各校が取り組んでいる、または取り組もうとしている多様な授業実践に関する多くの事例を提供していただきました。高等学校学習指導要領が令和4年度の入学生から年次進行で実施されている中、その着実な実施に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の一助になればと願っております。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|------------|
| 都道府県名 | 山形県 | 学校名 | 山形市立商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC (Surface Go3)、Panasonic BQ1 (65型)、Office365 | | |
| 単元名 | 経済の仕組みとビジネス | | |
| 本時の目標 | 「クレジットカードとどう向き合うべきか」について、自分の考えを持つ | | |
| <p>1 教材のねらい</p> <p>(1) クレジットカードの仕組みとメリット、デメリットを理解し、今後の社会生活の中で賢い消費者として、より豊かな生き方を実現するため、主体的に考え、工夫し、努力する態度を身につける。</p> <p>(2) 教育ディベートを通して、問題意識を持ち、自分の意見を持つとともに、情報を選択し、整理する能力を身につける。</p> <p>2 授業のデザイン</p> <p>＜論 題＞ 「卒業したらクレジットカードを使うべきか。」</p> <p>＜判断①＞ 学習プリントに、予備知識のない段階における自分の判断を記入する。 (クレジットカードを使う。or クレジットカードを使わない。)</p> <p>＜エキスパート活動＞</p> <p>A班からC班の3つに分かれ、教材フォルダからそれぞれの資料をダウンロードする。</p> <p>A班：クレジットカードの仕組み（クレジットカードの仕組みの図表、利益得る仕組み等の資料）</p> <p>B班：クレジットカードのメリット（便利でお得な機能、特典、ネットショッピングにおける利便性）</p> <p>C班：クレジットカードのデメリット（不必要な買い物、分割・リボ払利息、多重債務者、自己破産）</p> <p>＜ジグソー活動+教育ディベート＞</p> <p>エキスパート活動のA・B・C班から各1名により構成されるジグソー班活動</p> <p>(1) Aがクレジットカードの仕組みについて説明する。</p> <p>(2) 判断①の本人の判断にかかわらず、Bが「クレジットカードを積極的に使うべき」という立場で説明する。</p> <p>(3) 判断①の本人の判断にかかわらず、Cが「クレジットカードを使うべきではない」という立場で説明する。</p> <p>＜判断②＞ 学習プリントに、自分の判断を記入する。</p> <p>※ AはBとCの説明・討論を聞いて、どちらの意見に賛同するかを判定する。BとCの討論時は、進行役を務める。Aの判断を班の意見とする。</p> <p>※ B・Cは、ディベートの立場及びAの意見にかかわらず、本人の判断とする。</p> <p>＜クロストーク活動＞</p> <p>(1) Aが班を代表して意見を述べる。</p> <p>(2) その際、Aが判断するのに最も影響を受けた事柄を中心に、班員で協力してスライドにまとめ、電子黒板を使って発表する。</p> <p>(3) 黒板には意見・考えを2つの立場に分類して記述し、各班の討論内容をクラス全体で共有する。</p> <p>＜判断③＞ 学習プリントに、「論題」に対する自分の意見・考えを記述する。</p> <p>3 学習支援と到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 金銭に関する自分の性向やクレジットカードのメリット・デメリットを踏まえたうえで判断することであり、答えは一つでないことを確認する。 ○ Credit=信用であり、「信用」がキーワードとなることを確認する。 ○ 生徒一人ひとりが、自分なりの意見・考えを持つことを目標とする。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| 都道府県名 | 茨城県 | 学校名 | 茨城県立鬼怒商業高等学校 | | | | | | | | | |
|--|--|--|--------------|--|----------|--------|-----------|-------------------------------------|--|-----------|---|--|
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位、36人クラス） | | | | | | | | | | | |
| I C T機器 | タブレットP C、電子黒板、学習アプリ（Google Workspace For Education） | | | | | | | | | | | |
| 単元名 | 第2章 ビジネスとコミュニケーション 第1節 ビジネスに対する心構え ① ビジネスに対する心構え | | | | | | | | | | | |
| 本時の目標 | ビジネスに臨む個人の心構えとして倫理観・責任感・協調性さらには社会貢献の姿勢が重要であることを理解させる（商業教育のガイダンス的な内容：企業で働くために大切な考え方について、理解を深めさせたい。） | | | | | | | | | | | |
| 1 単元目標を達成する学習指導計画 (1) 課題設定 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：企業の目的と役割は何か。（知識構成型ジグソー法を活用） ・課題：①日本企業の歴史 ②企業存続に必要なこと ③近江商人の商売に対する哲学 ・課題①②③を均等に分担して、個別に調査する。（タブレットを活用）レポートにまとめさせる。（個別最適な学び） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 40%; text-align: center;">エキスパート活動</th> <th style="width: 45%; text-align: center;">ジグソー活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(2) 情報の収集</td> <td>①同士を4グループに分け、調べた情報を共有。②③も同様（協働的な学び）</td> <td>課題①②③を1組として、それぞれ整理した課題を説明し合わせる。グループ学習（12組）（協働的な学び）</td> </tr> <tr> <td>(3) 整理・分析</td> <td>4グループごとに情報を整理させる。（協働的な学び） Google Jamboardを活用</td> <td>課題①②③でまとめた課題を整理し、テーマに関連付けて、グループの考え方を整理（協働的な学び）させる。 Google Jamboardを活用</td> </tr> </tbody> </table> (4) まとめ・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・クロストーク活動（協働的な学び） ジグソー活動で整理したテーマに対する考え方についてグループごとに、発表用のスライドを編集（Google slidesを活用）し、教室全体で発表し合う。 ・振り返り（個別最適な学び） 企業の目的と役割について、ワークシートにまとめると同時に、自分事として考え、個人の心構え（倫理観、責任感、協調性）について、教科書を読み、ワークシートにまとめさせる。各自がワークシートをGoogle Classroomに提出 | | | | | エキスパート活動 | ジグソー活動 | (2) 情報の収集 | ①同士を4グループに分け、調べた情報を共有。②③も同様（協働的な学び） | 課題①②③を1組として、それぞれ整理した課題を説明し合わせる。グループ学習（12組）（協働的な学び） | (3) 整理・分析 | 4グループごとに情報を整理させる。（協働的な学び） Google Jamboardを活用 | 課題①②③でまとめた課題を整理し、テーマに関連付けて、グループの考え方を整理（協働的な学び）させる。 Google Jamboardを活用 |
| | エキスパート活動 | ジグソー活動 | | | | | | | | | | |
| (2) 情報の収集 | ①同士を4グループに分け、調べた情報を共有。②③も同様（協働的な学び） | 課題①②③を1組として、それぞれ整理した課題を説明し合わせる。グループ学習（12組）（協働的な学び） | | | | | | | | | | |
| (3) 整理・分析 | 4グループごとに情報を整理させる。（協働的な学び） Google Jamboardを活用 | 課題①②③でまとめた課題を整理し、テーマに関連付けて、グループの考え方を整理（協働的な学び）させる。 Google Jamboardを活用 | | | | | | | | | | |
| 2 実践内容 (1) 授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに臨む心構えを理解させるため、テーマと3つの課題を設定する。 ・3つの課題を分担して調べ、同じ分担同士で整理してまとめる。 ・異なる3つの課題を担当した3人を1組として、それぞれの課題を理解する。 ・3つの課題とテーマを関連付けて、テーマに関するグループの考え方を整理する。 ・各グループでまとめたことを教室全体で発表し合う。 ・個人で振り返り、企業の目的と役割、個人の心構えをワークシートにまとめて提出する。 (2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマと3つの課題を関連付けて、最適な答えを考える過程で、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を行う。発展的なこととして、課題探究の過程で新たな課題を見付け、次の探究活動につなげる。 | | | | | | | | | | | | |
| 3 学習評価の結果とその分析 <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」→レポート：課題記述、論理性、体裁など（ルーブリック） ・「思考力・判断力・表現力」→ワークシートや発表：内容、論理性、分かり易さなど（ルーブリック）、パフォーマンス評価 ・「学びに向かう力・人間力」→個別課題のレポートやワークシートの記述から評価 | | | | | | | | | | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--------------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 埼玉県 | 学校名 | 埼玉県立浦和商业高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位） | | |
| I C T機器 | クロームブック（一人1台）、Jamboard アプリ | | |
| 単元名 | 経済と流通の基礎「経済活動と流通」 | | |
| 単元目標 | 探究活動のステップ「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を体験する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 学習指導計画作成の背景 埼玉県商業教育研究会は、令和3年度より組織内に教材開発委員会を設置し、令和4年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領に準拠した教科書向けの教材を開発している。本教材は、1年次のうちから教科書の記載に基づいて「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究的な学習の4ステップを学べるよう工夫して作成されている。</p> <p>(2) 単元の学習指導計画 教科書の「流通に関する事例」（2例）について、①K P T（ケプト）で分析し、②発表・議論、③まとめを行う。</p> <p>① K P T分析（前時の1時間） 各生徒は、事例2例のうち1つを選び、それに当てはまる実在する企業・団体に関する情報を収集し（情報の収集）、その情報の収集の結果をK P Tで分析（整理・分析）する。 【個別最適な学び】各生徒はパソコンを使用しながら、情報の収集と整理・分析を行う（学習の個性化）。教師は、机間指導で生徒個々の学びを支援する（指導の個別化）。</p> <p>② 発表・議論（本時の40分間） 「①」の後、各グループで発表や議論（質疑応答）を行う。 【協働的な学び】発表や議論を通じて、多様な意見を共有しつつ合意形成を図ったり、空間的・時間的制約を緩和することによって交流を深めたりする。</p> <p>③ まとめ（本時の10分間＝時間が足りない場合は宿題） K P T分析とグループ発表の結果をP R E P（プレップと読む。①主張・結論、②理由、③例・証拠、④主張・結論の4文約160文字で構成）でまとめ提出する。 【個別最適な学び】各生徒作成のP R E P（学習の個性化）に対する教師のフィードバックにより、生徒が多面的・多角的な考え方・見方ができるよう学習支援する（指導の個別化）。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 各生徒がクロームブックのアプリ「Jamboard」を用いて、自分の発表資料をグループで共有しながら発表と議論を行う。発表は、①選んだ事例、②企業・団体名、③「②」の現在の状況（Keep）、④改善すべきこと（Problem）、⑤どのように改善すべきか（Try）の順（K P T）で発表する。議論は、発表を基にした質疑応答形式で行う。最後のまとめは、発表とその後の議論を踏まえた自分の考えをP R E Pで記述して教師へ提出する。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 発表においては、「Jamboard」に表示されるK P T分析（自分の考え）を筋道立ててわかりやすく説明することに留意させる。聴く側の生徒は、発表する生徒の話を整理して理解することに留意させる。この両者の取組が効果的に行われると、何が理解できていて、何がわかっていないかというメタ認知が働き、質問と応答が質量ともに活性化する。 まとめにおいては、議論によって多面的・多角的な考え方・見方に触れた経験（協働的な学び）を基に、改めて自分の考えをP R E Pで外化（個別最適な学び）してみる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析（観点別評価）</p> <p>(1) K P T分析（思考力・判断力・表現力） Keep と Problem が整理されて記述されている（=B）。さらに、Try に自分の考えが整理して記載されている（=A）。評価Bに至らない（=C）。</p> <p>(2) P R E P（思考力・判断力・表現力） 文章の意味が通じる（=B）。加えて、議論の材料となる（=A）。評価Bに至らない（=C）。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 山梨県 | 学校名 | 甲府市立甲府商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎 | | |
| I C T機器 | 電子黒板 タブレット | | |
| 単元名 | 企業活動の基礎 「雇用」 | | |
| 単元目標 | 日本における雇用の特徴や形態を理解するとともに、雇用に伴う企業の責任を具体的な事例を用いて考察させ、理解させる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 働くことの意義やわが国における雇用の特徴や違いを考察する教材（ワークシート）を用いる。また、企業の果たすべき責任や役割について理解し、自己の人生設計に活用できる知識や技能を身に付けさせられるよう導いていく。そのような授業展開の中で、数種類の求人票を基に自分が希望する企業を一つ選択し、その理由についてまとめる【個別最適な学び】とともに、他者の意見と自分の意見を比較させる【協働的な学び】。「ワークシート及び電子黒板の活用」</p> <p>(2) 情報の収集 提供された求人票から賃金・労働時間・休日・福利厚生など得られる会社ごとの情報をそれぞれまとめ、会社の労働環境や労働条件について情報の収集を図る【個別最適な学び】。「タブレット」</p> <p>(3) 整理・分析 収集した情報を整理・分析し、自分が希望する会社を一つに絞る。その後、グループに分かれ選択した企業の良さやその理由について意見交換を行う【協働的な学習】。「ワークシート及び電子黒板／グループ発表」</p> <p>(4) まとめ・表現 意見交換後、再び自分が希望する会社を考察する。求人票から自分が得られなかった情報やほかの人の価値観に触れ後、どのように考えたのか、また、なぜ選択した会社が変わったのかなど自分の考えをまとめる【個別最適な学び】。「ワークシート／個人発表」</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 労働形態や福利厚生などについて学習する前の段階で、数社の求人票から自分が希望する会社を一つ選択させ、その理由についてもまとめておく。その後、授業を通じ労働について学習していくことにより、どのような視点を持ち会社を選択していく必要があるのか、そのための思考力や判断力を身に付けさせていくことを目標に授業の実践を図っていく。また、グループ内の意見交換により、自分とは違った価値観（給与や休日、労働形態など）に触れるとともに、雇用について主体的に考察させ、自己の人生設計に活用できる知識や技能を身に付けさせていく。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 ①特に、思考力・判断力・表現力の育成を目標に、自分の考えをまとめ相手に伝える力や様々な情報を取捨選択しながら適切に判断する力を育てていくことに留意し授業展開を図る。②加えて、ワークシートやタブレットを活用しながら主体的に考察することを前半の目標【個別最適な学び】としながらも、後半は各々の意見を交換しながら、自分とは違った価値観に触れられるようなグループ学習や意見発表を電子黒板を用いて実践していくこと【協働的な学び】も大切にしていく。③生徒が選択する企業の求人票に差を設けながらも、選んだ企業に正解はないため、自由に考察し意見が活発に交換されるような環境づくりに留意する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 授業内で活用したワークシートや定期試験をもとに学習評価を行っていく。また、自分の考えをまとめるとともに、グループ学習や意見交換を通じて触れた他者の意見や変わっていった自分の価値観やモノの見方・判断などについてもワークシートに記入させ評価していく。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 愛知県 | 学校名 | 愛知県立豊橋商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C（一人一台）とアプリ「Microsoft Forms」 | | |
| 単元名 | 3章経済と流通の基礎 2節 経済活動と流通 「オムニチャネル化する流通」 | | |
| 単元目標 | オムニチャネル化する流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応を考察している | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題設定 教科書の「オムニチャネル化する流通」についての単元を確認し、【個別最適な学び】「インターネットの発達で実店舗は不要になるかどうか」自らの考えをまとめ、「インターネット販売と実店舗」それぞれの課題を個別に見つけていく。</p> <p>(2) 情報の収集 【個別最適な学び】自らの考えをアプリ「Microsoft Forms」から入力し、【協働的な学び】入力結果を即時クラス内で共有できる画面をプロジェクトにて投影する。【個別最適な学び】共有した他者の意見から自分の課題を見直し、自らの考えを再構築する。</p> <p>(3) 整理・分析 【協働的な学び】クラス全体で得た結果をもとにして、課題を解決するため、グループワークを実施し、課題やその解決策をグループ提案として整理・分析する。</p> <p>(4) まとめ・表現 【個別最適な学び】生徒はこれまでの学びを通して、探究課題への個人として意見を他者にも理解してもらうことを意識させながらワークシートに記入しまとめる。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 教科書には記載の無い自らの考えをまとめ「Microsoft Forms」から入力し、入力結果はクラス全体で即時共有する。他人の意見を知ることで、自分には無い考えを認識させる。また、グループワークを通して課題の再考をする。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 この学習を通して、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。個別学習を行う前に、生徒が教科書の分からない単語や表現を理解できているか確認し、その後の学習につまずかないよう留意する。グループワークを通じた協働的な学びの中で、他人の意見を参考に、自ら課題を設定し解決策をまとめる過程を通じて、個別最適な学びと協働的な学びを融合していく。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術：定期考査やワークシートでどのような知識や技術を学んだか記述させる。 ・思考力・判断力・表現力、主体的に学習する態度：ワークシートやレポート、発表などについてポートフォリオ評価またはパフォーマンス評価を行う。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 岐阜県 | 学校名 | 岐阜県立岐阜商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次・2単位） | | |
| I C T機器 | タブレット（生徒用・教員用）、MetaMoji Classroom, プロジェクター | | |
| 単元名 | 代金決済の方法 | | |
| 単元目標 | 通貨、小切手、手形、クレジットカード、電子マネーなど代金決済の手段と仕組みについて理解させる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 キャッシュレス決済に関する新聞記事『PayPay、楽天ペイ、d払い、auPAY…QR 戦国時代』（日経新聞電子版 2021年10月5日）を読み、日本のキャッシュレス決済の現状について理解する。そのうえで、海外のキャッシュレス決済との比較を行いながら、日本のキャッシュレス決済に関する課題を見つけていく。【個別最適な学び】個人によるワークシート（MetaMoji Classroom）の作成・提出と教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 『PayPay、楽天ペイ、d払い、auPAY…QR 戦国時代』（日経新聞電子版 2021年10月5日）や「キャッシュレスの現状と意義」（2020年1月経済産業省）などを参考に複数のチャンネルから関連情報も含めて情報収集を行う。また、店頭でのキャッシュレス決済について、何を使っているのか、実際に使っている人や企業へのインタビューなども含めて情報収集を行う。【協働的な学び】インターネットによる収集、聞き取り調査による情報収集</p> <p>(3) 整理・分析 グループで集めてきた情報を交流し、なぜ、日本のキャッシュレス決済の比率は海外と比べて低いのか、キャッシュレス決済を採用している理由や採用していない理由について多角的に整理・分析する。【協働的な学び】MetaMoji Classroom を用いて整理・分析を行う。</p> <p>(4) まとめ・表現 他者の考えを聞き、新たな立場や考えを探究し、さらに疑問に思ったことや調べてみたいと思ったことをまとめ、次の探究に活かす。【個別最適な学び】MetaMoji Classroom への記述提出・フィードバック</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 事前に、キャッシュレス決済に関する新聞記事『PayPay、楽天ペイ、d払い、auPAY…QR 戦国時代』（日経新聞電子版 2021年10月5日）を読ませておく。また、店頭などでの決済方法をよく観察させ、企業が採用している決済方法を調査させておく。 事前課題をもとに、1つ企業を選択し、「なぜ、その企業はその決済方法を採用しているのか」について、自分の考えをまとめ、グループ内で発表する。グループ内発表では、他者の意見をよく聞き、自分には無かった考えや疑問を発見できるように意識させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指して、授業の中で得た知識・技術が実社会ではどのように用いられているのかを踏まえ、より学びたいと思う力（学びに向かう態度）の育成に留意する。また、発表や質疑応答などの協働的な学びの中で、他者の話を整理して理解し、自分の考えを論理的に説明する力を育てる。以上、自らの探究と他者との議論などを通して、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を行う。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>思考力・判断力・表現力：知識や技術を用いて、思考・判断・表現することは概ね出来ていたと感じた。 主体的に学習に取り組む態度：新たに探究したいと思える事柄を挙げられる生徒もいれば、挙げるのに苦労している生徒もいた。もう少し、生徒が「なぜ？」と思える問いかけをする必要があると感じた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|---------------|
| 都道府県名 | 三重県 | 学校名 | 三重県立四日市商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎 | | |
| I C T機器 | (1)機器:ノート型パソコン(Chromebook)、(2)ソフトウェア:Google Workspace for Education | | |
| 単元名 | 第1章第3節 ビジネスの動向と課題 | | |
| 単元目標 | 教科書で学習したビジネスの動向と課題をより深く学ぶために、証券知識普及プロジェクトが発行している「金融クエスト」を教材として使用し、各グループが与えられた起業プランを具体的にどういった社会的課題をどのような方法で解決するかをプレゼンテーションを行い、意見交換を行う | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>◎ビジネス基礎第1章第3節におけるビジネスの動向と課題のテーマにおいて、教科書の知識だけでなく Chromebook を使い情報収集をし、グループワークで話し合いをする中でまとめ課題解決に結びつける。プレゼンテーションをすることにより各グループの意見が共有できることで様々な考え方を知ることができる。</p> <p>①対面授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を活用し現代のビジネスの動向と課題を学習することでビジネスの動向と課題についての知識を得る。 <p>②金融クエスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部テキストを使い社会的課題をどのような方法で解決するかグループで考える。 <p>③プレゼンテーションの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校においては、「Google Workspace for Education」における「スライド」を使用して、プレゼンテーションの準備を進めていく。 <p>④プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループがプレゼンテーションすることで様々な考え方をクラス全体で共有する。 <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を使い現代におけるビジネスの動向と課題を学習する（1時間） 「金融クエスト」を使用し各グループで解決したい社会的課題を選択し、起業プランを見て具体的にどのような方法で社会的課題を解決するかをグループで考え「スライド」を使い発表する。【本時】 様々な考え方を共有し自分たちの考え方をブラッシュアップする。 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>◎教科書で学んだ知識を外部のテキストを使用することにより個人としては「知識・理解」、講座全体としては「プレゼン力」「協働力」を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本授業では、ビジネスの基礎を学ぶことが前提であるが、ただの知識だけでなく実社会で起こっていることを考えることで社会との結びつきを学ぶことができる。グループワークを取り入れることで自分以外の考えを知ることができる。会話の中で新しい発想が生まれる。 各グループの発表を聞くことにより様々な考え方を知ることができ、最終的にクラス全体の考え方がより大きなものとなる。 <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価は、相互にどの課題解決方法が良かったかを、ベスト3位まで順位付けを行った。講座全体で共有し、評価し合うことで、さらに別のアイデアが創出される効果もあらわれた。 反省点として、Chromebook を使用したのは情報収集とスライド作成のみであった。プレゼン後、応援したいグループに仮想通貨を使い投資することを行ったが、その際もオンラインで行えば即時に結果が出るので生徒はよりリアリティに感じることもできたかもしれない。それも含めて今後の課題としたい。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-------------------------------------|----------------------|
| 都道府県名 | 大阪府 | 学校名 | 大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：3単位） | | |
| I C T機器 | タブレットPC（一人一台） | アプリ「Google workspace for Education」 | |
| 単元名 | 「さまざまなビジネス」「企業活動の基礎・ビジネスと売買取引」 | | |
| 単元目標 | 企業との連携により、企画・発表・分析を行うスキルを身につけよう（第1・2学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1)お弁当企画・企画書作成 ターゲットの設定と情報収集 <u>調べ学習</u> 《個別最適な学び》市場調査を行う。個人でお弁当の会社を調べ、現在はおどのようなお弁当があるのかなどを調べる。《協働的な学び》『Google Jamboard』を利用し、どのようなお弁当があったかをシェアする。<u>ターゲットの設定</u>《協働的な学び》『Google Jamboard』を利用し、KJ法によりターゲットを設定する。<u>お弁当の企画</u> 《個別最適な学び》スーパーなどに行き、材料の価格を調べる。《協働的な学び》お弁当の中身を考える。調べた材料の価格よりお弁当の原価を考える。<u>企業の方によるアドバイス</u>（プロ目線から指摘）→改善</p> <p>(2)発表（資金借入れ お弁当企画プレゼン）企画まとめ・発表 《協働的な学び》模造紙を使い3分で自分たちの企画をプレゼンする。（公認会計士による企画の整合性もチェックする。発表用の模造紙などを作成。）</p> <p>(3)資金借入金額の決定・注文書の提出 《個別最適な学び》借入金額の考え、お弁当の発注量などを計算する。《協働的な学び》発注量の決定を行う。</p> <p>(4)売上（シェア）の発表と利益計算 《個別最適な学び》簿記で学んだ知識を活かし、利益の計算を行う。《協働的な学び》損益計算書の作成をする。公認会計士チェック（会計のプロによる粉飾決算がないかを確認する。）</p> <p>(5)分析プレゼン 分析・まとめ・発表 《協働的な学び》企画を分析する。次回するならばどのように改善するかなどを考え発表する。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1)授業概要（全体内容） ビジネスのプロである企業と連携した授業である。グループでお弁当を企画し、8万人という仮想市場で販売を行い、シェアを競い、利益計算を行う。お弁当の企画【ターゲット・価格・需要と供給などの学習】・企画書作成・発表【プレゼンテーション技術】・注文書の発行【資金調達方法や損益分岐点やコストの学習】・分析【売上・利益の計算と費用の分析（PDCA サイクルの学習など）】・分析発表を行う授業である。お弁当を企画するには資金が必要であるため資金を調達するためのプレゼンや資金調達後の利息や借入についても学習する。</p> <p>(2)個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>①授業や企業との連携により、知識・技術を学び、企画・発表として思考力・判断力・表現力を育成することをめざしている。また、ビジネスにおいて意思決定（いろいろな情報・意見より）・数字の解読（経営分析）は必要不可欠なものであり、その重要性・必要性を学ぶ。</p> <p>②個別最適な学びで得た情報や計算結果などを、協働的な学びではみんなとシェアをしてアイデアを考え、一つの企画にまとめていく授業を行う。</p> <p>③その中で協働的な学びの促進のため、グループ活動が円滑に行えるようなコミュニケーション（リーダー）能力をゲームの中で学習する。協働的な学びで個々の能力を発揮し、個々の役割を果たしていくためには「プロセス」「個の尊重」「相互援助」が重要である。リーダーが一人勝手に企画・発表するということにならないように、いろいろな生徒がしっかりと自分たちの意見を言える環境づくりに気を付けている。また1年次での実施のため、詳しい専門用語や計算の仕方などを対面授業ができるときは、企業の方が直接生徒にアドバイスできる場を設け、対面授業が難しい場合は、企業の方が作成した動画で学習、オンラインで質問できるよう工夫している。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：レポートなどによりどのようなことを学び、生かせるのかを記述させる。 思考力・判断力・表現力：プレゼンテーション・ポートフォリオ・レポートによる評価 主体的に学習する態度：グループワークでの貢献度・ポートフォリオ・レポートによる評価</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 鳥取県 | 学校名 | 鳥取県立鳥取商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位） | | |
| I C T機器 | Google Chromebook（1人1台）とアプリ「Google Workspace for Education」 | | |
| 単元名 | ビジネスと売買取引 代金決済 | | |
| 単元目標 | 通貨、小切手、手形、クレジットカード、電子マネー、QRコード決済など代金決済の手段としくみ・特徴について理解する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>この時間では、知識構成型ジグソー法を活用し、キャッシュレス決済について「少額決済市場と硬貨の流通」、「社会情勢との関係」、「ポイントサービスの現状」の3つに分けて作成された教材を用いる。生徒は3つのうちいずれかの学習資料を割り当てられ、個人で課題と学習資料を読んだ後、同じ資料を持つ生徒同士で学びあいを行う。続くジグソー活動では、エキスパート活動で学んだ内容を、違う資料を持った他の2人のメンバーに説明をする。その後、課題である「キャッシュレス決済が急増している理由」を探っていく。【個別最適な学び】Google classroomを活用した、個人によるワークシートの作成・提出</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>エキスパート活動やジグソー活動ではI C Tを活用し、1人1台端末で他の班の学びあいの内容をリアルタイムで共有しながら、各グループでキャッシュレス決済が急増している理由について、多面的な視点で情報収集を行う。【協働的な学び】Google Jamboardを用いた情報共有</p> <p>(3) 整理・分析</p> <p>ジグソー活動において得られた情報について、お互いの説明をさらに加えることで、新たな発見や理解を深めながら、各知識を結び付けて、多面的な視点で整理・分析を行う。【協働的な学び】Google Jamboardを用いた情報の整理・分析</p> <p>(4) まとめ・表現</p> <p>クロストーク活動では、ジグソー活動で見えてきたさまざまな「答え」をクラス全体で交流させ、各自がその共通点や差異を考えることで、課題についての理解を深めていき、より納得できる内容へとアプローチしていく。【協働的な学び】Google slidesを用いたグループ発表【個別最適な学び】Google ドキュメントに振り返りの視点をおさえながら各自の考えをまとめる。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時）</p> <p>キャッシュレス決済が普及している要因について、通貨の発行状況や社会情勢、消費者へのサービスなど多面的な視点で考察し、探究活動を通じて答えを見つけていく。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>さまざまな代金決済の方法の項目では、思考力・判断力・表現力を養うための手法として、知識構成型ジグソー法を活用し、それらの力を養うことを目標とする。この手法は、各自に与えられた資料を自ら考え判断し、グループのメンバーに説明することが生じるため、人に伝える力が必要になってくる。自ら思考を深めて、わかりやすく表現するとともに、探究活動を通じて、様々な人と協働して積極的に学習に取り組むことで、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を展開する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>思考・判断・表現：ドキュメントに記入された内容や発表資料についてはポートフォリオを活用した評価を行う。また、グループでのディスカッション・発表などのパフォーマンス課題についてはルーブリックを使って評価を行う。</p> <p>知識・技術：学習過程を通じて得られた知識を活用し、得られた情報の持つ意味を読み取り、その内容を整理し文章として記述させる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：レポート、個別学習と協働学習に取り組む姿（授業中の行動観察）、生徒の自己評価・相互評価を組み合わせ評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---------|-------------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 広島県 | 学校名 | 広島県立広島商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎 | | |
| I C T機器 | 生徒個人所有P C | | |
| 単元名 | マーケティングの重要性と流れ | | |
| 単元目標 | 市場調査で得た企業情報を基に、オリジナルなビジネスアイデアを提案できる | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

12 時間を一単元として、次の学習活動を行う

- ①市場調査（情報の収集及びS W O T分析 等） 4 時間
- ②イベント開発・商品企画の立案 4 時間
- ③企画プレゼンテーション 4 時間

2 実践内容

(1) 授業概要

地元プロ野球球団「広島東洋カープ」を題材として、「カープ」に関するニーズ等を調査し、分析結果を基に、イベント開発・商品企画を立案する。

- ①市場調査 既習のサイト検索・サイトの信ぴょう性の学習を基に、S W O T分析・3 C分析の基本的な分析方法を理解し、グループでテーマに沿って情報収集する。
- ②企画立案 市場調査を踏まえて、S T P・4 P分析を行い、ビジネスプランを考案する。
- ③プレゼン グループによる発表を行う。必要に応じて、スライドの作成・試作品等を作成し、役割分担を行い発表する。発表内容については、相互評価を行う。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

○「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かす学習活動

BYOD パソコンを用いて個別で情報収集した内容を、クラウド上のグループのワークシートに各自が入力を行い、ワークシートを基に班のS W O T分析・3 C分析に活用した。

○「協働的な学び」の成果を「個別最適な学び」に還元する学習活動

市場調査、商品企画、発表の一連の学習活動を踏まえて、最後の学習活動として、個別に「まとめ及び今後の見通しに」についてレポートにまとめる。

3 学習評価の結果とその分析

企画の立案及び発表の活動の評価では、ルーブリック評価表を用いて評価を行った。

ルーブリック評価表（例）

| | 1 | 2 | 3 |
|-------|-------------------------------------|--|---|
| 思・判・表 | 広島東洋カープで設定した課題に基づいて、ビジネスプランを立案している。 | 広島東洋カープで設定した課題を、様々な情報から考察し、ビジネスプランを立案している。 | 広島東洋カープで設定した課題を、様々な情報から考察し、科学的な根拠に基づいたビジネスプランを立案している。 |
| 主体的 | 広島東洋カープに関する情報を収集・整理している。 | 広島東洋カープに関する情報を収集・整理し、その課題や解決方法を考察しようとしている。 | 広島東洋カープに関する情報を収集・整理し、他社と現状を比較・分析して、その課題や解決方法を他者と考察しようとしている。 |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|------------|
| 都道府県名 | 福岡県 | 学校名 | 福岡県立筑豊高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位） | | |
| I C T機器 | タブレット端末（chromebook 班に1台）A Iスピーカー Google classroom | | |
| 単元名 | ビジネスの担い手「物流業」 | | |
| 単元目標 | 物流業者の現状と課題を把握し、その解決方法について考え説明しよう | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 本授業はジグソー法を用いて展開していく。本授業では物流業の問題について関連動画を視聴させ、課題を身近に感じさせ、潜在化させる。近年 Amazon などの EC サイトの普及により、宅配業者の負担が増大している。また、労働力不足も深刻である。エキスパート活動では「労働環境」「A I・ドローン、宅配ボックス」「物流量増加」の資料を各グループ割り当てる。資料を読み、問題点や解決策について同じ教材を使う生徒たちと学び理解を深める。その際、タブレット端末を用いて情報の収集を行う。次にジグソー班を作り（あらかじめ指示を出している）3名がそれぞれ学んだことについて説明をする。探究活動のテーマである「物流業者の課題についての解決を見つけ説明していく」。</p> <p>〔個別最適な学び〕個人によるワークシート（Google classroom）にまとめ、教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 タブレット端末を活用して、グループで情報収集を行う。教科書の内容も含め、情報収集にあたる。</p> <p>〔協働的な学び〕Jamboard を活用し、情報をまとめていく。</p> <p>(3) 整理・分析 〔協働的な学び〕収集した情報をもとに、Jamboard を活用し、意見を整理・分析していく</p> <p>(4) まとめ・表現 クロストーク活動として、グループで物流業の問題点と解決方法について発表の構成を考えさせる</p> <p>〔協働的な学び〕PowerPoint を活用したグループ発表</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（2時間） 物流問題については現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成を目指していく。知識・技術を深めさせるために教師があらかじめ、資料を提供し、課題解決の方法を模索していく。エキスパート活動を通じて資料だけでなく、タブレット端末を活用して問題点や解決方法について理解を深めていく。またクロストーク活動ではジグソー班でまとめた課題に対する解決方法についてスライドにまとめさせる。その際情報処理担当教員と連携を行う。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 発表準備やスライド作成など協働的な活動を通して、他者の話を理解し、自身の考えを説明する力を身につけさせる。また探究活動を通じて他者との協働的な姿勢を身に付けさせる。（人間性等の涵養） また、一連の活動を通じ、個別に学習状況を把握し、知識及び技能が見通しをもって習得されるようワークシート等を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動になるように留意した。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：レポートに記述させ評価 思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：レポート発表やグループ活動におけるポートフォリオ評価</p> | | | |

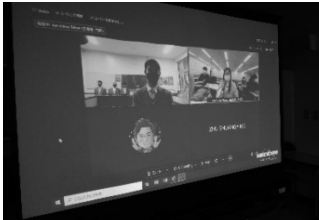
「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|-------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 佐賀県 | 学校名 | 佐賀県立佐賀商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位） | | |
| I C T機器 | 生徒用タブレットパソコン、教師用タブレットパソコン | | |
| 単元名 | いざ、ビジネスの世界へ | | |
| 単元目標 | 商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解させる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の決定 生活が豊かで便利になっているのは、ビジネスの世界があるからである。そこでは、企業や個人が競争し、生活の向上に役立つ活動が活発に行われている。 そこで、商業を学ぶにあたり、企業がどのような社会貢献活動を行っているのかを調べさせる。</p> <p>(2) 情報の収集 自分が興味関心を持っている企業を一つ決める。その企業について、タブレットパソコンを使用しインターネットによる検索、および雑誌、書籍等から必要な情報の収集を行う。</p> <p>(3) 整理・分析 企業の社会貢献活動を調べる際、なぜそのような活動を行っているのかの理由を考え、ビジネスの世界で活躍するために必要な心構えと関連付けてまとめる。</p> <p>(4) まとめ・表現 数人は発表を行ったが、それ以外はプリントを配布し、全員の調査結果の紹介を行う。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えさせる。 2. 企業がどのような社会貢献活動を行っているのかを調べさせることは家庭学習とした。期間は2週間程度を設け、自分が空いた時間に調べさせ、期間内であればいつでも提出できるように、提出方法は Forms を利用する。 3. 数人が発表を行い、それ以外の調査結果はプリントによりクラス全員に紹介を行う。 4. 発表および紹介をすることにより、自分の調査と他の生徒との情報の共有を図る。 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 個別最適な学びとしては、企業の選択から、調査の過程に至るまで個別で学習をすることになる。また、協働的な学びとしては、家庭学習にしていたが、授業があるたびに、進行状況を確認する際、生徒同士が情報交換をしながら作業をすすめていく過程も垣間見えた。さらに、誰もが知っている大企業から地域に根付いた企業まで幅広い企業の社会貢献活動を知ることができた。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>定期考査や定期的な小テストにより、「知識・技術」、「思考・判断・表現」を評価する。今回の研究については、主に、「主体的に取り組む態度」の評価に結び付ける。次回は、グループ学習として、より協働的な学びに結び付けたいと考えている。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|---------------|
| 都道府県名 | 長崎県 | 学校名 | 長崎県立佐世保商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：2単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（一人一台）とアプリ「Microsoft Teams、Forms、OneNote」 | | |
| 単元名 | 企業活動の基礎 雇用 | | |
| 単元目標 | 日本における雇用形態の特徴と労働市場の多様化の現状から、日本の雇用に関する課題を発見し今後必要な企業の取組について考察する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>1時間：重要用語を確認し、関連する資料を読み取り日本型雇用の特徴と企業の責任について理解する。 1時間（本時）：日本の雇用の現状から問題点に気づき、今後のあるべき姿について考察を深める。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入：事前に Microsoft Forms で配布した重要用語の確認問題の結果（成績）から、誤答の多い箇所の解説を行う。 ○展開：Microsoft OneNote を用いて雇用に関する資料（統計グラフ、ニュース映像、新聞・ネットニュース記事）を複数提示し、個人ワーク→グループワークの順で日本型雇用の特徴とその問題点について考察を深めさせる【個別最適な学び】【協働的な学び】。 ○まとめ：日本が抱える雇用問題を解決するための方向性を検討しレポートにまとめさせる。 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>【個別最適な学び】一人一台端末（タブレットPC）を活用して、Formsにより小テスト（知識・技能を評価）を実施し解答の状況をリアルタイムで確認した。誤答の多い箇所については即座（授業時）に解説を施す。一方、正答率が高い問題を誤った生徒については、答案返却時に個別にコメントをして対応する。</p> <p>【協働的な学び】展開のフェーズで、雇用に関する資料について、グラフ、音声付き動画、テキストデータなど様々なメディアの教材を与えて、学びの特性に合わせて生徒自らの意思で資料を選べるよう工夫する。なお、グループで分担して資料の読み取りを行わせるなど、相互に補完できる環境をつくる。</p> <p>グループ討議により雇用の問題点の解決策を検討する。Microsoft OneNote のコラボレーションスペース（共同で作業ができる場所）をつかって意見をまとめさせる。また、まとめた意見を保護者に読んでもらいフィードバックを受け、意見を改善する活動も行う。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>単元の最後に「今後、日本の企業はどのような雇用環境をつくるべきか」のテーマでレポートを課し、この内容をもって「思考力・判断力・表現力」、「主体的な学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>○評価規準</p> <ul style="list-style-type: none"> A評価：与えられた資料を分析したうえで日本の雇用の問題点に気づくことができている。また、その解決策が示され、かつ明確な根拠があるため大いに納得できる。 B評価：与えられた資料を分析したうえで日本の雇用の問題点に気づくことができている。また、提案された解決策やその根拠に概ね納得できる。 C評価：与えられた資料を分析したうえで日本の雇用の問題点に気づくことができている。しかし、提案された解決策やその根拠が不十分であるため納得できない。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|---|
| 都道府県名 | 鹿児島県 | 学校名 | 鹿児島県立屋久島高等学校 |
| 科目名 | ビジネス基礎（1年次：3単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC, 「Google Classroom」, 「PowerPoint」, 「Zoom」 | | |
| 単元名 | 第3章 ビジネスの担い手 2 サービスの生産者 | | |
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none"> 現代の経済においてサービスの生産者が持つ役割や、仕事概要に関心を持ち、理解を深める 経済の発展に伴うビジネスの変化について自ら考察する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>まず、「ソーシャル旅行サービス」の役割や仕事の概要及びビジネスの動向について基礎的・基本的な知識について教材を用いて習得させる。次に「ソーシャル旅行サービス」についてワークシートを作成し、自分の考えをもつ、考えを広げる、考えを深めるという活動を取り入れた授業を実践する。生徒はグループワークで屋久島の「ソーシャル旅行サービス」について協議し、クラス全体と教師に対してプレゼンテーションを行うことで学びを深める。【個別最適な学び】生徒は「Google Classroom」でワークシートを提出し、お互いの考えを共有する。</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>生徒は「ソーシャル旅行サービス」を立案するにあたって、環境分析に必要な情報収集を行う。【協働的な学び】生徒がグループ内の意見を「Google Forms」を用いて収集を行う。</p> <p>(3) 整理・分析</p> <p>生徒は各グループで収集した情報の整理・分析を行う。【協働的な学び】生徒が「Google Forms」を用いたストリーミング、スプレッドシートを利用した情報のデータ化と整理・分析を行う。</p> <p>(4) まとめ・表現</p> <p>各グループが立案した内容を生徒自身が学校内外にプレゼンテーションを行うことで、「表現力」、「情報伝達能力」の育成を図る。【個別最適な学び】生徒は「Google Classroom」を使用した評価シートでの自己評価と他者評価を行う。【協働的な学び】生徒が連携している大学への「Zoom」を使用したプレゼンテーションを行う。</p> | | | |
| | | |  |
| | | | Zoomを使用したプレゼンの様子 |
| <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>地元での「ソーシャル旅行サービス」をグループごとに協議させ、企画立案した内容をプレゼンテーションさせることで思考・表現力を身に付けさせる。また、地元の良さを再認識し、観光業を中心としたサービスの生産者について、能動的に理解を深めさせる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>探究活動については特に「思考力・判断力・表現力」の育成を目指して、グループワークを通じた協働的な学びの中で、他者に対する「説明力」を身に付け、「課題発見・解決力」を図ることに留意する。また、発表の場を学校内に留めず、地域や他校種に対して実践することで個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。授業を行う上では、生徒に学校外での発表の場を設けることをあらかじめ伝え、個別・グループ活動においてPDCAを特に意識させた探究活動を実践させる。</p> | | | |
| <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>本時の学習評価の結果は評価シートの自己・他者評価や外部評価からも、目指していた能力の育成を十分に図れていることが証明された結果となった。評価方法については、試験点（定期考査、課題考査、実力考査）、宿題、レポート、ノート検査、発問に対する返答、感想文、思考力を問う問題、論述、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動、実技・実演、実験等で評価を行った。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 福井県 | 学校名 | 福井県立福井商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス実務, コミュニケーション英語 I | | |
| I C T 機器 | タブレット: chromebook (一人一台), Google for Education | | |
| 単元名 | オンライン文化言語交流プログラム「Global Classmates」 (斡旋団体: Kizuna Across Cultures) | | |
| 単元目標 | 新型コロナウイルスの影響で、従来国際経済科で行ってきた国際交流ができなくなっていることから、生徒のモチベーションや英語力を高め、限られた環境の中でも国際交流を行い、コミュニケーション能力を高める | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践クラス: 本校 国際経済科1年C組 男子6名, 女子23名, 計39名 実践概要: インターネットを利用した文化交流 相手校・クラス: Sacred Hearts Academy (Hawaii, America), 日本語選択生徒(女子39名) 実践期間: 2021年9月~2022年3月 <p>◎本来はKizuna Across Culturesを通して、毎年、交流校を選定されるが、先方の希望により2022年度も継続</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> A, Bの二つのグループに分けて交流(各グループに本校と相手校の生徒を配分) 本校と相手校の担当教員が交互にテーマを設定し、そのテーマに沿って投稿、相互コメントを行う。 投稿はお互いの学習言語の練習になるように、どちらの国の生徒も日本語と英語の両方で投稿する 【投稿テーマ】 ・自分の部屋紹介 ・好きなお菓子の紹介 など Omiyage exchange 11月に生徒たちが持ち寄った雑貨、お菓子、本、文房具などをダンボール箱に詰め、お互いの国からパートナーになっている生徒にSmall giftを送る。「高価ではないけれど心のこもったもの」を工夫して送り合う。届いた相手校からは「Omiyageが届いたよ!」という写真やビデオ付きの投稿を行う。 カード交換 ビデオメッセージによる交流 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>外国の高校生と相互のコメントによる投稿やビデオメッセージの作成を通して、自分の考えを筋道立ててわかりやすく説明する力を育成する。一連の活動を通じて、主体的に多様な人々と協働する力(学びに向かう態度)を育成することで、個別最適な学びと協働的な学びを融合する国際交流・異文化理解活動を推進する。</p> | | | |
| <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術: レポート等でどのような知識や技術を学んだか記述させる。</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度: レポートや発表などについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。</p> <p>【生徒の感想】</p> <p>I learned that there is no barrier of languages. If we make mistakes in Japanese or in English, it is no problem. Before the exchange program, I thought making mistakes was wrong. But Hawaiian students are very kind so I enjoyed talking with them and I want to continue talking with them..</p> | | | |



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|---|--|
| 都道府県名 | 鹿児島県 | 学校名 | 鹿児島女子高等学校 |
| 科目名 | ビジネス・コミュニケーション（1年次：2単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（1人1台）、電子黒板 | | |
| 単元名 | ビジネスマナー | | |
| 単元目標 | (1) ビジネスマナーについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける (2) ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善する (3) ビジネスマナーについて自ら学び、ビジネスにおける他者への対応に主体的かつ協働的に取り組む | | |
| 1 単元目標を達成する学習指導計画 (1) 課題の設定 ビジネスの実際を想定しながら、場に応じた適切なビジネスマナーについて考察する。 【個別最適な学び】 ワークシートの記入と教師によるフィードバック (2) 情報の収集 グループで役割分担しながら、課題分析に必要な情報収集を行う。 【協働的な学び】 タブレットPCを活用した情報の収集 (3) 整理・分析 収集した情報を多面的・多角的な視点から整理・分析する。 【個別最適な学び】 ワークシートの記入と教師によるフィードバック (4) まとめ・表現 各自が整理・分析した内容を基にグループで協議しながら、まとめた内容を発表する。 【協働的な学び】 電子黒板を用いたグループ発表 | | | |
| 2 実践内容 (1) 授業概要（本時） 応対に関するビジネスマナーについて、2人1組によるロールプレイングにより、場に応じた挨拶とお辞儀の在り方を探究する。その際、適切な言葉遣いだけでなく、表情や所作について動画や相互で確認しながら、よりよい挨拶とお辞儀の在り方について考察させる。 (2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 ア 挨拶（ロールプレイング①） 指導資料に収録してあるアニメーションを視聴し、「先言後礼」を意識しながら、「挨拶の基本フレーズ」について、グループで相互にコミュニケーションを行う。 イ お辞儀（ロールプレイング②） お辞儀は挨拶とセットで行う。お辞儀には「会釈」・「敬礼」・「最敬礼」と基本の3種類があり、頭を下げる深さ（角度）により儀礼的な意味合いが強まる。それぞれのお辞儀の種類とそれぞれの状況や場面を理解し、使い分けられるようにする。 ○ 本時の評価【主体的に学習に取り組む態度】 | | | |
| 評価 | B おおむね満足できる | A 十分満足できる | C 努力を要する |
| 状況 | 挨拶・お辞儀におけるビジネスマナーについて自ら学び、ビジネスの場面を想定した他者への対応にある程度取り組もうとしている。 | 挨拶・お辞儀におけるビジネスマナーについて自ら学び、ビジネスの場面を想定した他者への対応に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 挨拶・お辞儀におけるビジネスマナーについて進んで学習せず、ビジネスの場面を想定した他者への対応に取り組もうとしていない。 |
| 3 学習評価の結果とその分析 | | | |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| ビジネスマナーについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じてビジネスマナーを実践し、評価・改善している。 | ビジネスマナーについて自ら学び、ビジネスにおける他者への対応に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|------------|
| 都道府県名 | 高知県 | 学校名 | 高知県立山田高等学校 |
| 科目名 | ビジネス語学（学校設定科目） | | |
| I C T機器 | Chromebook（一人1台）、Googleworkspace E、Google 翻訳、DeepL、Zoom | | |
| 単元名 | 英語スピーチチャレンジと国際交流 | | |
| 単元目標 | 自己理解 / 異文化理解 | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>＜テーマ設定と背景＞</p> <p>○当初は海外研修を含めてグローバルな視座を養い、訪日観光客などにも対応したビジネス実践の学びを計画していたが、コロナ禍における社会情勢からその多くはキャンセルとなった。その後、インドネシア国ウブド第一高校とのオンライン交流の機会を得て、逸失した学びの機会を再構築することとした。</p> <p>○該当生徒（本校ビジネス探究科）の多くは、英語等の基礎的な理解は乏しいと認めざるを得ないが、比較的真面目で関心を持つ事柄に対しては精一杯の取り組みができる。そこで、オンライン交流に向けて（オンライン交流に留まらず）のコミュニケーション力・英語力向上を目的に全商英語スピーチコンテスト高知県大会への参加を一次的な目標に設定した。</p> <p>○オンライン交流については、7月～11月の間で4回実施するとともに、相互編集の可能なホームページ（SNS）を立ち上げて、4回だけの顔合わせではない継続的な交流を可能とすることで、一層深い繋がりを構築し単年度だけの活動とせず、継続的な交流としてグローバルな視座を養う契機とした。</p> <p>＜個別最適な学び/協働的な学びに対する観点＞</p> <p>○英語スピーチコンテスト出場にあたっては、昨年度までに取り組んできた「ビジネス」をキーワードにして、個々の生徒が自ら作文するとともに、苦手な英訳については本校 ALT や Deep L（AI 翻訳）を活用してオリジナル原稿を作成することとした。また、各自のスピーチ練習の様子は映像で相互共有することで、他者の取り組みに触発し励まされ一緒に学び成長する雰囲気づくりを大切にしたい。</p> <p>○WordPress による HP の共同編集を通じて、協調性やコミュニケーション力、オリジナリティを高めさせることも副次的成果として期待した。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（オンライン交流1回目）</p> <p>校内 Wi-Fi 環境下で、事前に立ち上げた HP（WordPress）と Zoom を繋ぎ、オリジナルスピーチ原稿をもとに1対複数の形式で相互に自己紹介を行う。〈個別最適な学び〉交流言語は基本的に英語とするが、日本語やインドネシア語が混じることは否定しない。また、円滑な相互理解のためには ALT や自動翻訳ソフトをうまく活用する事も推奨する。〈協働的な学び〉交流の様子は HP（WordPress）を Live 編集して相互共有・情報発信する。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>特に「主体的に学習に取り組む態度」の育成を目指して、それぞれの「力」をフル活用させて課題に取り組む一定の成果を得ることで、自己肯定感の涵養にも繋げたい。また、発表や質疑応答など実践的協働的な学びを通じて、国や地域を超えて構想する力・相手の話を整理して理解判断して対応する力などは、「思考・判断・表現」の資質や能力の育成に繋がる。総じて、多様な人々と上手に繋がり ICT 環境を効果的に活用し融合させることがここでの活動や学びを楽しくさせ主体的な探究活動の幅を広げる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>各単元や学期末時点の成果物を整理・提出させるとともに、何を考えどのように行動してどのような事を学んだのかについてのレポートを課す。併せて、日々の活動を伴走・観察し、ルーブリックを活用した学びの目標を共有した、自己・相互評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|-------------|
| 都道府県名 | 北海道 | 学校名 | 北海道釧路商業高等学校 |
| 科目名 | マーケティング（2学年流通経済科：3単位 履修形態：必修） | | |
| I C T機器 | <ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook（一人一台使用） ・Google Workspace for Education（Jamboard、Forms、スライド） | | |
| 単元名 | (6) 販売経路と販売促進 イ 販売促進 | | |
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・販売促進活動の全体像を概観させるとともに、販売促進をコミュニケーション活動と理解させ、その機能を認識させる | | |
| <h3>1 単元目標を達成する学習指導計画</h3> <p>(1) 課題の設定</p> <p>「モノやサービスに関する情報を消費者は何を通して入手するか」という課題に対し、販売促進の定義を踏まえ、多面的・多角的な視点から探求テーマの設定及び質問を考える。</p> <p>【個別最適な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人による付箋（Jamboardを利用）記入と教師からフィードバックを受ける。 <p>【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動により、付箋（Jamboardを利用）をグルーピングする。 ・グループ内で探究テーマとして相応しいものを選択し、ルールに従って、質問を検討する。 ・Jamboard上の他グループのフレームを参考にして、思考の幅を広げる。 <p>(2) 情報の収集</p> <p>グループ活動として、探究テーマの設定及び質問に対する答えを導き出すため、複数のチャンネルから関連する情報を含めて情報収集を行う。</p> <p>【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Formsを用いてアンケート調査を実施・集計する。 <p>(3) 整理・分析</p> <p>グループ活動の続きとして、(2)で得られた情報から探究テーマを決定し、質問の答えを導き出す。</p> <p>【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドにまとめ、他グループの整理・分析の仕方についても共有し、参考とする。 <p>(4) まとめ・表現</p> <p>探究テーマの質問に関わり、「なぜその質問を選択したのか」「質問の答えを導き出すためにどのような情報収集活動を実施したのか」「質問の答えとして相応しいと考えたものとその根拠は何か」などについてまとめ、販売促進に関係する外部の講師からフィードバックを受ける。</p> <h3>2 実践内容</h3> <p>(1) 授業概要（本時）</p> <p>「モノやサービスに関する情報を消費者は何を通して入手できるか」という問いから販売促進の具体例を挙げ、Jamboard上での共有とグルーピングを通じて整理していく。その中から探究テーマに相応しい販売促進の具体を選択し、開かれた質問の形式となるよう指示された手順に従って、探究テーマの質問を考える。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>探究活動のテーマは生徒にとって興味関心が高いものであればあるほど、主体的な学習活動につながることで、生徒自身が探究テーマの質問を考える機会も設けた。その思考の過程で行き詰った際には、他グループのJamboardを参照することで、思考の共有を図ることができる。アンケートから他者の思考に触れることで、自己の思考の幅が広がったと答えた生徒は全体の7割程おり、Jamboardでの協働的な学習活動により、探究テーマの設定と質問を生み出すことができた。</p> <h3>3 学習評価の結果とその分析</h3> <p>知識・技術：マーケティングに必要な情報の収集と分析について理解している。</p> <p>思考・判断・表現：販売促進の全体像を正しく描くことができる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：質問項目の問題点に気付き、改善するために取り組もうとしている。</p> <p>レポートの記述や発表などについて、パフォーマンス評価及びポートフォリオ評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 宮城県 | 学校名 | 宮城県大河原商業高等学校 |
| 科目名 | マーケティング（1年次：3単位） | | |
| ICT機器 | iPad（1人1台）とアプリ「GoogleWorkspace for Education」 | | |
| 単元名 | 現代市場の特徴 | | |
| 単元目標 | 我が国における生産・流通・消費の動向，人口動態など市場環境の変化，消費者志向や社会志向などマーケティングの考え方や内容の変化及び様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について理解させる。また，消費者保護や環境問題への対応，法令遵守など，現代市場における企業の社会的責任について理解させる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 自らのグループのメンバーと，担当する範囲について教科書を使用しながら内容を学び合い，気になるところや，重要だと思う点を課題として設定する。 【個別最適な学び】個人ワークシートに課題をまとめておく。</p> <p>(2) 情報の収集 教科書を中心に，インターネットを活用し用語の理解や，事例などの関連情報の収集を行う。 【協働的な学び】収集した情報をグループ共有スライドに集約</p> <p>(3) 整理・分析 個人ごとに集めた情報を Google Jamboard を用いてまとめながら，必要な情報などを精査する。 【協働的な学び】集めた情報を，Google Jamboard 上にて整理し分析を行う。</p> <p>(4) まとめ・表現 集めた情報をもとに，Google スライドを使用して講義用プレゼンテーションを作成し，他の生徒に向けて講義をする。最後にはその範囲についての小テストを作成し皆で解く。 【協働的な学び】Google スライドを用いたグループ発表 【個別最適な学び】小テストや発表についての個人の疑問や質問を Google Form に記入し提出</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 はじめに，授業のポイントや教科書の読み解き方について講義を行い，その後，自らのグループに割り当てられた範囲について学び合いを進める。その中でポイントとなる箇所や，重要だと思う点について他者に説明するためのプレゼンテーションを作成する。その後，グループごとに講義プレゼンテーションを行う。最後に，担当した箇所の小テスト問題を作成しまとめ，全員で問題を解くことで知識の定着を目指した。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 この授業では，普段の学びの中で探究のプロセスがどのように関連しているかを知ること大きな目的とした。その中で，生徒個人の個別の課題を他者と共有しながら課題解決を行うことで，思考力や判断力を身につけることができていると感じている。個人とグループの間を往来しながら進めることで個別最適な学びと協働的な学びを融合した探究活動が実現できている。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：生徒自身作成の小テストや，定期考査，レポート等 思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度：ワークシート，グループ学習時の活動や発表について，相互評価，自己評価，ルーブリックを用いた評価を取り入れた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|-------------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 山形県 | 学校名 | 山形県立米沢商業高等学校 |
| 科目名 | マーケティング | | |
| I C T機器 | ノートパソコン一人一台 使用ソフト（パワーポイント、ワード、エクセル） | | |
| 単元名 | 販売促進 | | |
| 単元目標 | 販売促進は非価格競争の重要な要素であることが理解できる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 マーケティングの基礎的な内容を学んだ後で、学校近隣の商店より協力をいただき、販売促進の一つであるパンフレットを作成する。商店の現状を踏まえ魅力溢れるパンフレットを作成できるか。</p> <p>(2) 情報の収集 本校の近隣には発酵食品（味噌、醤油、酒）を製造販売している商店が多い。生徒にとっては日頃目にしている商店であるが、何故多いのかに疑問を抱かせる。そして、実際に店主を学校にお招きしてお話をいただく。すると様々なことが分かってくる。【個別最適な学び】各人のまとめたレポートから一点について深く掘り下げる。【協働的な学び】全校生にアンケート調査を行い集計を行う。</p> <p>(3) 整理・分析 調査の結果、学校周辺に発酵食品が多いのは良質な水があることが分かった。そこで学校に一番近い味噌店のポイントを絞り、学校周辺の歴史、味噌の歴史、当店の歴史や売れ筋商品などを生徒自身が一番興味を持つものを調べることにする。あくまでもそれは消費者心理を刺激するものとした。 【個別最適な学び】各自が最も興味ある事について調べる。</p> <p>(4) まとめ・表現 各人が調査したものについて発表し、それを一冊のパンフレットにすることにする。なお、そのパンフレットは味噌店の置いていただくことにした。【協働的な学び】各自が調べた事を繋ぎ合わせて編集しアウトプットのの一つとしてパンフレットにした。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 ①販売促進に関する基礎知識②基礎知識を活かして地域活性化モデルを作る③地域講師による講義④疑問や興味を持つ⑤調べ学習⑥各自が興味ある調べ学習⑦各自のデータを一つにつなげる⑧アウトプットとして実際に成果物を店頭に置いていただくことにより生徒の自信につながる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 思考力＝マーケティングの知識を活かして身近な疑問について深く掘り下げる 判断力＝調べてみると自分が予想した以上のデータ内容となる。その中でより適切なデータはどれなのかを判断する力 表現力＝人前で発表することも大切であるが、それを成果物として消費者が手にとるようなものに完成させることも一つの表現力と考えた 【個別最適な学び】全体的に学んだ後は各自が興味ある事について調べ学習を行い、その事について発表を行った。 【協働的な学び】①全校生に対するアンケート調査⇒分析⇒データ解析は全員で。 ② 各人の資料に①を加えた成果物を完成。その編成なども全員で行った。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 知識・技術＝定期テストや授業内の発言等により分析する。 思考力・判断力・表現力＝各自のレポートや成果物となったパンフレットの出来栄等により分析。 学びに向かう態度＝外部講師を招いた時の質問や、調べ学習を行う姿勢などから分析する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 富山県 | 学校名 | 富山県立富山商業高等学校 |
| 科目名 | マーケティング（2年次：4単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（個々の1台、グループ1台）とアプリ（Google Workspace for Education）など | | |
| 単元名 | デザイン思考を取り入れたマーケティング | | |
| 単元目標 | 0から1を作り出すためにはどうしたらいいのか、どのような筋道で、デジタル技術と自らの感覚と感情を使って目標を成し遂げていくのかを考え、マーケティングの手法により形にできることを学ぶ。 | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) デザイン思考について学ぶ 外部講師の授業にて、0から1を作り出すためにデザイン思考を取り入れ授業を行う。デザイン思考では「多くの人からより多くのアイデアを得ることによって、課題を見出し、創造的に課題を解決することで、創造力を引き出すことができる」ことについて学ぶ。授業は、グループで使用しているタブレットと教室のプロジェクタの両方によるリアルタイム映像で実施する。また講義内容は、レポートにして各自のタブレットから提出する。【個別最適な学び】</p> <p>(2) 課題の提示（デザインシンキング） 「制服リニューアルプロジェクト」と題し、中学生やその保護者、地域住民に対して、学校で取り組んでいる活動内容が一目で分かる制服づくり、として制服を変えていく取り組みを課題とする。 ①生徒一人ひとりの自己実現とはどのようなことかについて考える。【個別最適な学び】 ②校則について考え、グループで話し合う。【協働的な学び】 ③多様性のある学校生活を送ることが可能な制服について話し合う。【協働的な学び】 ④学校の生徒自体をチームとし、団結力を高められる制服の要素について話し合う。【協働的な学び】 ⑤制服の金銭的な負担を減らす制服について話し合う。【協働的な学び】 ⑥地域住民が理想とする学校らしさについて話し合う。【協働的な学び】 ⑦清潔感のある制服について話し合う。【協働的な学び】 ⑧社会人になるための準備には、モノ・コトとして何が必要か話し合う。【協働的な学び】 ⑨制服のどの部分を残し、どの部分を新しくしたらよいかについて話し合う。【協働的な学び】</p> <p>(3) 仮説の設定 ①から⑨で得られた意見をまとめる。【協働的な学び】 また、デザイナーの先生に紙上でプロトタイプ（試作品）の制服を制作していただく。</p> <p>(4) プロトタイプ（紙上に制作した試作品としての制服）からの投票1 在校生、教員、オープンハイスクールに参加した中学生、同窓会に参加した卒業生などを対象にプロトタイプの制服の中から、学校の印象を感じた制服2つを選ぶ方法で、アンケート調査を行う。また、在校生は各自のタブレットから理由を付けて投票を行う。</p> <p>(5) ブラッシュアップ 「プロトタイプからの投票1」で投票数の多かった試作品を改良するために、更にブラッシュアップさせる。【協働的な学び】</p> <p>(6) プロトタイプ（実際に制作した試作品としての制服）からの選択2 模擬株式会社（学校デパート）にご来場いただいた地域住民（中学生や家族、在校生の家族、卒業生、協力企業の方々など）に、実物による試作品の制服を見たとうえで、感想と投票をしてもらう。</p> <p>(7) 仮説の検証 ①から⑨で得られた意見をまとめ、打ち立てた仮説と「プロトタイプからの投票2」で投票された制服の感想が合致しているか、グループで話し合う。</p> <p>(8) 0から1を生み出す方法によるマーケティングについてまとめる 何も無いところから多くの意見を積み上げ、まとめ、ブラッシュアップを繰り返していくことにより、顧客が満足し喜んでもらえる商品の開発に結び付けることができることについて、感じたことや考えたことについて報告書にまとめ各自のタブレットから提出させる。【個別最適な学び】</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 外部講師の先生に0から1を作り出すために「多くの人からより多くのアイデアを得る（発想の深掘り）ことによって、課題を見出し、創造的に課題を解決することにより、創造力を引き出す方法」としてのデザイン思考について学ぶ。授業は、グループで使用しているタブレットと教室のプロジェクタの両方によるリアルタイム映像で実施する。 また講義内容は、レポートにして各自のタブレットから提出する。【個別最適な学び】</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 知識・技術：デザイン思考による方法を理解し、多くの意見の必要性とその意見の中から新しい考え方を創造できる力が身についているかについて評価を行う。 思考力・判断力・表現力・学び向かう態度：タブレットにより提出されたレポートや主体的に活動に取り組む態度から、ルーブリックを活用したパフォーマンス評価をおこなう。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|-------------|
| 都道府県名 | 愛媛県 | 学校名 | 愛媛県立今治北高等学校 |
| 科目名 | 「マーケティング」 | | |
| I C T機器 | タブレットPC（一人一台） Office 365 | | |
| 単元名 | 市場調査 | | |
| 単元目標 | 1 市場調査を行う課題を設定し、情報を収集・整理・分析する学習活動を実施する。 2 市場調査で得られた情報の整理・分析などに基づいて仮説を立て、それらを検証して新商品の企画書を作成するとともに、企画のプレゼンテーションを行う | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 地域を代表する産業（タオル産業）に対する理解を深めるとともに、新しい商品を開発する過程にある市場調査、企画の立案、担当部署内での企画会議、プレゼンテーションなどに、今治タオルを製造・販売する地元企業と連携しながら、実際のビジネスの場面を想定しながら取り組む。</p> <p>(2) 地域の産業に対する理解の深化 地元企業（今治タオルの製造・販売）経営者による地域の産業（タオル産業）に関する講話を通して、地域の産業（タオル産業）に対する理解を深める。また、実際のビジネスで行われている市場調査や企画の立案、企画会議、プレゼンテーション、チャンネル政策、プロモーション政策などについて学習する。</p> <p>(3) 実施した市場調査から得られた情報の整理・分析とそれらに基づいた企画の立案 企業における事例と関連付けて理解した市場調査を、一人一人が実際に行う。エスノグラフィやデプスインタビューなどの手法を用い、定性・定量の両面から情報を収集し、得られた情報をもとに新商品の企画書を作成する。 【個別最適な学び】 市場調査と収集した情報の整理・分析、企画の立案</p> <p>(4) 活動班内でのプレゼンテーションと班で取り組む企画の選出 ここからは、一班4人のグループ活動（全10班）を行う。 企業の担当部署と見立てた活動班内で、それぞれが立案した企画のプレゼンテーションを行う。班内で協議の上、班として取り組む企画を選出し、ブラッシュアップする。 【協働的な学び】 班内でのプレゼンテーションと合意形成による企画の選出、ブラッシュアップ</p> <p>(5) まとめ・表現 地元企業（今治タオルの製造・販売）の経営者に対し、それぞれの班が各自の企画をプレゼンテーションする。地元企業（今治タオルの製造・販売）の経営者には、各班の企画に対する講評と最優秀企画の試作を依頼し、成果物はしかるべき機会・場所に展示することで多くの意見・感想を収集し、検証を行うことでまとめとする。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 地域を代表する産業（タオル産業）に対する理解を深めるとともに、地元企業の経営者の協力のもと、実際のビジネスで行われている企業の活動の中で、授業で学んだ知識や技術を活用しながら一人一人の探求活動とグループ内の合意形成を進める。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 思考力・判断力は、個別に取り組む市場調査による情報収集とそれらを整理・分析して作成する企画の立案を通して育成し、表現力は、班内での企画会議で自らの案をプレゼンテーションすることで育成する。複数ある案の中から一つの案を選出し、班の企画として全員でブラッシュアップした後に、全体での発表を行うグループ活動を通して個別最適な学びと協働的な学びを融合する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 「知識・技術」については、学んだ知識や技術について記述した定期考査やレポートによって評価し、「思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度」については、一人一人が作成した企画書や企画会議への参加の様子、プレゼンテーションを行う様子から評価する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---------|--|-----|---------------|
| 都道府県名 | 岡山県 | 学校名 | 岡山県立岡山東商業高等学校 |
| 科目名 | 商品開発（3年生：3単位） | | |
| I C T機器 | i P a d（1人1台）とアプリ「ロイロノート」 | | |
| 単元名 | 地元岡山の観光（地域）資源を県内外にP Rする商品・サービスを考える | | |
| 単元目標 | 地域産業の特色を活かす商品やサービスにストーリーを持たせ、科学的根拠に基づいた商品を提案する | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) 課題の設定

地域の名産品のP Rに成功した商品開発事例を学習し、商品やサービスにストーリーを持たせることの重要性を知る。岡山県の観光資源についてあらゆるジャンルに視野を広げて調査を行い、科学的な根拠に基づいた商品・サービスの提案を行う。【個別最適な学び】個人でワークシート作成を作成して提出する。

(2) 情報の収集

どのような情報が必要になるのかを明確にして、岡山県の観光（地域）資源についてインターネットや書籍により情報収集を行う。【個別最適な学び】i P a dを活用して情報収集と分析を行い、必要とする情報を選択する。

(3) 整理・考案

収集した情報をもとに、地域資源の魅力をP Rできる商品・サービスを提案するための企画書を作成する。【個別最適な学び】企画書を作成する。

(4) まとめ・表現

個人で作成した企画書をグループ内で発表し、個々の商品アイデアをもとにグループで提案する商品を1つにまとめ、企画書の作成とプレゼンテーションを行う。【個別最適な学び】提案する商品について資料等を用いて分かりやすく他者に伝える。【協働的な学び】グループとしての商品企画書やプレゼン資料をロイロノート上で作成し、クラス内でプレゼンテーションを行う。



2 実践内容

(1) 授業概要

グループで考案した商品案について、科学的根拠に基づいた説得力のあるプレゼンテーションを行う。ルーブリック評価シートにより相互評価と自己評価を行い、企画商品の疑問点や改善点を話し合う。外部講師（企業の商品開発担当者）による講評を受け、自分のグループの提案する商品やプレゼンテーションの課題に気づき、改善策を考える。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

地域資源を活かした商品を提案するという学習活動において、i P a dを活用した情報収集、分析により科学的根拠に基づいた商品を考案することで思考力、判断力を育成する。グループ活動では、個人で考案した商品について他者に発表したり、意見交換をすることで表現力やコミュニケーション力を育成する。また、個々のアイデアを1つにまとめてよりよい商品の提案につなげる協働的な学習活動を行い、1人ひとりの得意分野を活かした役割分担や話し合いによる協働的な取組を実践し、個人の力を引き出し個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術：定期考査やレポートでどのような知識や技術を学んだかを記述させる。

思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：企画書の作成やプレゼンテーションなどについて、ルーブリック評価を行う。授業後の日誌に学習活動の振り返りを記述させる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 徳島県 | 学校名 | 徳島県立池田高等学校辻校 |
| 科目名 | 商品開発（3年次選択：2単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C（一人一台）とアプリ「MetaMoJi Classroom」 | | |
| 単元名 | 商品の企画 | | |
| 単元目標 | 「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」に応募する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 最初に、身の回りで流行している商品やサービスを選び、それらが流行している理由を考えることにより、既存の商品・サービスに対する4F（不満・不足・不十分・不便）を解消することの重要性に気づかせる。次に、日常生活の様々な場面で利用している商品・サービスに対して感じている問題点を、4Fの視点からだけでなく、「こんな商品やサービスがあれば利用したい」という願望や理想から発見する。その後、それらの問題点の中から一つを選んで持ち寄り、それぞれについてニーズの有無などについて検討する。【個別最適な学び】個人によるワークシート作成（MetaMoJi Classroom上）と教師からのフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 決定したテーマに対し、ルール（自由奔放、批判禁止、質より量、便乗発展）に従い、様々な角度からアイデアを出し合う。また、選んだテーマ（問題）を解消するための既存商品やサービスがないかをインターネットで検索する。【協働的な学び】ブレインストーミング</p> <p>(3) 整理・分析 グループで出された複数のアイデアを整理し、スクリーニングを行う。【協働的な学び】KJ法による整理、アイデアシートの作成</p> <p>(4) まとめ・表現 ターゲット、ベネフィット、シーンの三つの要素を組み合わせ、企画コンセプトを作り上げるとともにアイデアのネーミングを検討し、企画内容とともに企画書にまとめ、発表する。発表後は、聴き手から受けたフィードバックを元にアイデアや企画書を修正し、商品企画を完成させる。【個別最適な学び】企画書発表を聴いてのフィードバック【協働的な学び】MetaMoJi Classroomを用いたグループ発表</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 各自が持ち寄った日常生活の様々な場面で利用している商品・サービスに対して感じている問題点をグループで検討し、取り組むべきテーマを一つに決定する。各自で問題点を発見する際に意識した「5W2H」は、今後のアイデアの創出や企画書の作成時にも重要となるため、改めて意識させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に学びに向かう力・人間性等の涵養を目指して、個別最適な学びの成果を協働的な学びに生かし、更にその成果を個別最適な学びに生かすなど、両者を一体的に充実させることに留意する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：定期考査、教師の発問に対する回答 思考力・判断力・表現力：ワークシートの記述、ブレインストーミングほかグループ活動中の発言、企画発表に対する質問内容など 主体的に学習に取り組む態度：振り返りシートの記述、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価など 分析：ルーブリックを用いた相互評価を行うことで、より客観的な評価となっている。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--------------------------------|-----|----------|
| 都道府県名 | 高知県 | 学校名 | 高知商業高等学校 |
| 科目名 | 商品開発（2年次：2単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（一人一台）とアプリ「ロイロノート」 | | |
| 単元名 | 商品企画（商品開発の意思決定と開発テーマの決定） | | |
| 単元目標 | 高知県産の特産品を用いた商品開発の意思決定と開発テーマの検討 | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 グループワークにてコンセンサスを図りながら以下のとおり設定。 【目的】高知県産の特産品を活用した商品開発で「コロナ禍で頑張る高知県民を笑顔にしたい！」 【目標】1 「土佐の食1グランプリ優勝」 2 「2023 お弁当お惣菜大賞グランプリ」 3 「高知県内の医療従事者への寄付」 【手段】高知県産の特産品を活用した商品開発 【課題】どうすれば高知の特産品を用いて高知県民の方々を笑顔にできるか →まずは自分自身が高知の特産品を知ることからはじめるべきではないか。</p> <p>【個別最適な学び】自身が生まれ育った高知の食材にはどのようなものがあるのか、ゴールデンウィークに訪れた高知県内の道の駅やSA、各種商業施設にて取り扱っている高知県産の商品を経営者の許可を得て撮影。なぜその商品を選んだのか、商品の特徴や商品コンセプトをアプリ（ロイロノート）にて作成・提出し、後日の授業にて個人がプレゼンテーションを実施。班員、教師によるフィードバックを実施し、ブラッシュアップを図る。</p> <p>(2) 情報の収集 個人の活動から集まった商品をアプリ（ロイロノート）にて共有する。</p> <p>(3) 整理・分析 商品の相違点や売れる商品の傾向などを図解・グラフ・イラスト等を用いて可視化した状態にて整理・分析する。 【協働的な学び】ロイロノートに提出済の個人成果物に全体共有をかけ、グループにて情報共有をできるようにする。</p> <p>(4) まとめ・表現 グループワークを通して、以下のポイントに重点を置き、プレゼンテーションを実施する。 1. 「この取組から何がみえてきたのか」 2. 「つまり、どのようなことが言えるのか」 3. 「今後、どうすべきであるのか」</p> <p>【個別最適な学び】プレゼンを聴いてみえてきた新たな視点をロイロノートにて共有。 【協働的な学び】プレゼンは一人一台のタブレットをAppleTVにて画面共有し、スクリーンにうつす。</p> <p>2 実践における主なプロセス評価の方法（必要に応じてルーブリック評価を活用）</p> <p>(1) 知識・技能 …ノート量・メモ量・ロイロ提出の質 (2) 思考・判断・表現力 …PW・GW・プレゼン力・ノート質 (3) 学びに向かう力 …挙手・寝ない・伏せない・違うことしない（必要に応じてノート量・質）</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|-------------|
| 都道府県名 | 大分県 | 学校名 | 大分県立安心院高等学校 |
| 科目名 | 商品開発（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C（1人1台）とアプリ「Metamoji Classroom」 | | |
| 単元名 | 商品開発におけるデザインの基礎を学ぶ | | |
| 単元目標 | 商品コンセプトを考察することの重要性を学ぶとともに、ブレインストーミングやK J法を用いて考案実習を行う | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>始めの活動として、デザインにおける素材の種類を、具体例を用いた PowerPoint を電子黒板に写して説明する。生徒は、それぞれの素材によって自分が感じたことを消費者目線で考え、素材の役割を確認する。その際、自分が感じた印象、他者が感じた印象、多かった意見などを理解する。また、説明や自分がタブレットなどで調べた実際の商品に使われている素材を基に、素材の使い方によって、ターゲットに与える商品イメージが変わってくることを理解する。</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>グループでブレインストーミングを用いながら他者の意見を収集する。</p> <p>(3) 整理・分析</p> <p>【個別最適な学び】Metamoji Classroom の個別シートで各自の意見を付箋に記入し張り付ける。その後、ブレインストーミングで出した各自の意見を、グループでK J法によってまとめる。【協働的な学び】Metamoji Classroom を用いて、グループシートでグループ全員の意見1つにまとめ集約して整理する。</p> <p>(4) まとめ・表現</p> <p>電子黒板に各グループの進め具合や意見を映し、共有する。最後に自分たちが出した意見をテキストマイニングによって視覚的に表現する。【個別最適な学び】Metamoji Classroom によって課題を配布し、各生徒にアドバイスなどを個別に書き込む。【協働的な学び】これまでの学びを基に、自社(グループ)の開発商品を課題として開発する。その際、Metamoji Classroom のグループ学習ページによって、自宅や授業の空き時間に、別の場所で効率的で協働的な作業を促す。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>商品開発において、素材のデザインをすることで、消費者に与える印象が変わることを学習する。また、他者の意見を話し合いで集約し、デザインによって消費者が持つイメージを学習することで商品に付加価値を持たせることができることを理解させる。また、それらを用いた実際の商品を開発することによって実践的な授業を行う。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>一方的に説明を聞くのではなく、自分の意見を主体的に述べ、他者の意見を聞き分析することで、協働的な学びの中から自ら新しい発見をし、知識に対する理解を深める。学習支援ソフトを用いることで、それぞれの生徒一人一人の商品開発に対してアドバイスし、個別最適な学びを促進する。また、友人の意見の集約や、グループでの商品開発にもアプリを用い、協働で活動を進めていくことを推進する。最終的な意見の集約もアプリや電子黒板、テキストマイニングなどを用いて集約し、視覚的にもわかりやすい協働的な学習の促進に努める。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：Forms で小テストを実施し、理解度の確認をする。また、定期考査で商品開発に関わるデザインについての基礎的・基本的な知識を身に付けているかの確認をする。</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう力：授業プリントやアプリの学習シートによって、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|-----------|
| 都道府県名 | 宮城県 | 学校名 | 宮城県松島高等学校 |
| 科目名 | 観光実践（学校設定科目：3年次：2単位） | | |
| ICT機器 | PC・タブレットPC，アプリ「Google Meet」「Google Forms」「Zoom」 | | |
| 単元名 | 観光商品（令和3年度：オンラインツアー）を開発して販売し，実施しよう | | |
| 単元目標 | オンラインツアーの開発・販売に向けて，試行した成果を活かし，改善・改良して実施する。そして，実施内容について振り返り，ツアーの課題と成果，不変の根本と変化していくことについて発表する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 お客様に満足してもらえる新たな観光商品（令和3年度：オンラインツアー）を開発・販売するために，生徒が企画を立案し，機器操作や運用方法などの知識と技術を学び，オンラインツアーを試行する。試行したオンラインツアーに参加した外部講師の方々からの意見やアドバイスにより，理想と現実のギャップを学び，ツアーの改善・改良につなげる。【協働的な学び】Google Meet を利用した外部講師によるアドバイスマーケティング</p> <p>(2) 情報の収集 試行したオンラインツアーに参加した外部講師からお客様としての感想及びツアーやガイドに関する専門的な知識についての情報を得る。また，校内でフォーラムやオンラインセミナーを開催し，地元松島町で行われているSDGs活動や観光ブランディング，観光ガイドと地域との関わりについて学び，観光商品の開発に関する情報収集を行う。【協働的な学び】Google Meet，Zoom を利用した外部講師によるアドバイスマーケティングと講演</p> <p>(3) 整理・分析 収集した情報や外部講師によるアドバイスを基に，企画したオンラインツアーを再度検討し，改善・改良する。その後，改善・改良したツアーについて，企画運営・商品開発・体験活動・創作活動・PR活動・記録活動のグループに分かれて活動を進める。【個別最適な学び】PC を利用した個人によるガイド資料，ポスター，リーフレット等の作成</p> <p>(4) まとめ・表現 完成したオンラインツアーについて実施までの流れを全員で確認し，各担当グループで最終チェックと打合せを行う。午前の部と午後の部でオンラインツアーを実施し，実施後は，お客様のアンケート結果による振り返りの場を設ける。また，実施した内容について振り返り，オンラインツアーの課題や成果等をまとめ，発表会を開催し，観光科の全生徒及び外部講師の方々を対象に発表する。【協働的な学び】Zoom を利用したオンラインツアーの実施，Google Forms を利用したアンケート集計</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 コロナ禍の中，「不易と流行」をテーマに，お客様に満足してもらえる新たな観光商品を開発するために地域と連携した学び合いを進める。そして，観光科での集大成として，観光商品を開発し，生徒が主体となり企画・運営を進め，実践的な活動を行う。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 専門的な知識や技能等を有する外部講師との協働的な学びの中で，ワークシートを用いて情報を整理し，振り返ることで物事を深く理解し，社会情勢を踏まえて課題解決型の商品開発ができる思考力・判断力・表現力を育成することに留意する。また，整理した情報や相手に伝えたいことを正確に表現し，お客様を含め，地域の人々と協働する力を育成することに留意する。そして，協働的な学びを進めていく中で，個別最適な学びを一体的に進める。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 知識・技術：レポートや発表内容，ワークシートの記述，グループ活動の成果物，実習への取組状況 思考力・判断力・表現力，学びに向かう態度：レポートや発表内容，ワークシートの記述，グループ活動や実習への取組状況</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|-------------|
| 都道府県名 | 埼玉県 | 学校名 | 埼玉県立幸手桜高等学校 |
| 科目名 | 広告と販売促進（3年次：2単位） | | |
| ICT機器 | デスクトップPCとアプリ「Microsoft PowerPoint」 | | |
| 単元名 | 第2章 広告 2節 広告計画の手順と内容 | | |
| 単元目標 | 広告に用いられている広告表現の要素を踏まえ、広告を制作しよう（第2・3学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 教科書「広告と販売促進」内の「広告デザインの技法」の考え方を基に、レイアウト・書体・写真・イラスト・カラーなどの広告表現の要素を学習する。次にMicrosoft PowerPointを用いて、サンプル広告を作成し、操作技術を身につける。その後、幸手市商工会提供の商店街の店舗広告をもとに大型店との広告比較を行い、広告デザインの違い（個人店広告の良い点・大型店広告の良い点）を見つけていく。 【個別最適な学び】個人による広告比較ワークシートの作成および提出と教員によるフィードバック。</p> <p>(2) 情報の収集 幸手市商工会推薦の店舗の中から、個人で制作する店舗を決め、広告制作に必要な情報について関連情報も含め、情報収集を行う。 【個別最適な学び】個人による広告の制作。</p> <p>(3) 整理・分析 学習した広告要素やMicrosoft PowerPointの操作技術を踏まえ、収集した多くの情報を多様な視点から整理・分析し、広告コンセプトをまとめる。 【協働的な学び】Microsoft PowerPointを用いた協働的な情報収集などに対する整理・分析。</p> <p>(4) まとめ・表現 広告としての情報は適切か、どうすればターゲットにうまく伝わるかなどを明確にしながら広告のデザインを考えて制作する。制作した広告を発表する場を設ける。発表を基に代表生徒の選出を行い幸手市商工会に提出。改善点等を修正し、完成を目指す。 【個別最適な学び】広告を制作し提出・フィードバック。 【協働的な学び】制作した広告の発表、相互評価、幸手市商工会に提出。</p> | | | |
| <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 広告表現の要素やMicrosoft PowerPointによる広告制作について学び、個人店と大型店との広告比較を行う。それぞれの広告の良い点を踏まえ、幸手市商店街にある店舗の広告制作を行う。その際、自分たちの興味・関心（制作したい広告）と広告の必要性・課題を見つけていく。制作した広告を相互評価し、幸手市商店街に提出。代表生徒が店舗へ広告を渡しに行くことで社会における必要性や達成感などがあることを認識させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 思考力・判断力・表現力や技術の育成を目指して、制作した広告についての発表や相互評価などの協働的な学びの中で、相手の考えを整理して理解し、自分の広告にフィードバックさせて、より分かりやすく相手に伝える力を育てることに留意する。加えて、一連の制作活動を通じて、主体的に学びに向かう態度の育成に留意する。以上の認知プロセスの外化（発表・相互評価）と認知プロセスの内化（理解・定着など）の両立により、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。</p> | | | |
| <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：制作した広告を発表し、広告表現の要素を踏まえているか相互評価を行う。 思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：広告制作や発表などの取り組みについて自己評価を行う。</p> | | | |



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|-----------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 石川県 | 学校名 | 石川県立金沢商業高等学校 |
| 科目名 | 金融（3年：3単位 科目選択） | | |
| I C T機器 | Google Chromebook | | |
| 単元名 | ライフプランニングと資金計画（社会保険） | | |
| 単元目標 | 社会保険制度と時代背景の変化について考えることができる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 これまでの時代背景とともに社会保険制度も変化を遂げてきている。社会保険制度の特徴のみに目を向けるのではなく、始めに戦後の生活困窮や高度経済成長での経済の発展などについてグループで共有する。その上で作られてきた社会保険制度がどのようなものかを知り、現在の制度内容について学びを深める。【個別最適な学び】個人によるワークシート（Google Chromebook 上）作成・提出と教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 主に、各省庁や論文などのインターネット検索、図書室で書籍の利用を促し、情報収集させる。【協働的な学び】Google Jamboard を用いた情報の収集</p> <p>(3) 整理・分析 グループで収集した情報を整理し、時代背景と社会保険制度の繋がりについて分析させる。【協働的な学び】Google Jamboard を用いた整理・分析</p> <p>(4) まとめ・表現 各グループで情報収集、整理・分析した社会保険制度の特徴と時代背景について原稿を考えさせ、発表させる。その後、個人ワークとして「なぜ社会保険制度が必要なのか？」について考えさせ、まとめさせる。【個別最適な学び】ワークシートに考えをまとめ提出【協働的な学び】Google Slides を用いたグループ発表</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 社会保険制度の種類を知り、調べてみたい社会保険制度ごとでグループを作る。そして、その社会保険制度の成り立ちと時代背景について調査させ、現制度の特徴との違いを把握させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に学びに向かう力の育成を目指して、制度の特徴のみに目を向けるのではなく、グループで調査した正しい情報を知識として定着させ、将来の知識に繋がるように展開していく。本校では、金融の授業を3年生で選択科目として設定しており、これまでの知識を踏まえて考える力、そしてそれを伝える力を授業の中で取り入れていく。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：定期考査において、正しい知識が身についているかを図る。 思考力・判断力・表現力：課題レポートやグループ発表では、自分自身の考えを論理的に表現させ、評価する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|---|-----|---------------|
| 都道府県名 | 京都府 | 学校名 | 京都府立京都すばる高等学校 |
| 科目名 | グローバルビジネス（2年次2単位、3年次2単位）※学校設定科目 | | |
| ICT機器 | 校内のデスクトップPC・生徒個人のスマートフォンとアプリ「Classi」 | | |
| 単元名 | 開発途上国の社会課題をビジネスで解決する企画 | | |
| 単元目標 | 「じぶんごと化・みんなごと化」 (世界の諸課題に当事者意識を持ち、主体的・協働的に解決しようとする) | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画（3年次）

開発途上国の中から1人1か国の「担当国」を決め、その国の社会課題に関する探究活動を行う。活動の区切りごとにポートフォリオを入力し、個人内の振り返りと目標設定、全体での共有を行う。

(1) 課題の設定・情報の収集

担当国の課題を設定するため、インターネットや書籍、企業や団体などから情報を収集する。

【個別最適な学び】ワークシート記入と教員によるフィードバック

【協働的な学び】グループ（地域）内の情報共有や発表、相互フィードバック

(2) 整理・分析

情報や課題を整理・分析し、それを解決しうるビジネスプランを組み立てる。

【個別最適な学び】ワークシート記入と教員によるフィードバック

【協働的な学び】グループ（地域）内の情報共有や発表、相互フィードバック

(3) まとめ・表現①

企画書と発表資料を作成し、学科内および学外の講師に対し企画提案を行う。

【個別最適な学び】企画書・発表資料の作成

【協働的な学び】企画提案に対する質疑応答、相互フィードバック

(4) まとめ・表現②

Classi のポートフォリオに学びの内容と成果を入力し、共有する。

【個別最適な学び】自らの学びを振り返り、成果と今後の課題を明確にする

【協働的な学び】ワードクラウドや冊子の共有により、当事者意識を「全体化」する

2 実践内容

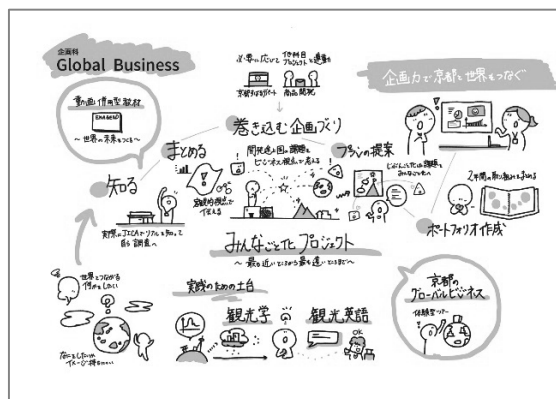
(1) 授業概要

開発途上国の社会課題を解決するビジネスを企画する授業である。

「2年間を通して学ぶ学校設定科目」という特徴を生かし、2年次ではグループで、3年次では個人で途上国の社会課題に関する探究活動を行う。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

授業全体のテーマを「じぶんごと化・みんなごと化」とし、世界の諸課題に当事者意識を持つことと、その解決に向けて周囲を巻き込みながら協働する力をつけることを目標とした。各自の担当国について深く掘り下げる作業では個別最適な学び、それをビジネスプランに仕立てて課題意識を共有し全体化する過程では協働的な学びが必要となる。



(授業概要をイラスト化したもの)

3 学習評価の結果とその分析

企画書・発表資料・ポートフォリオ・相互評価・ルーブリック等により評価する。IT科目なので複数の教員による評価・分析が可能である。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 福岡県 | 学校名 | 福岡県立小倉商業高等学校 |
| 科目名 | 「ビジネス経済」 第3学年ビジネス情報科（選択科目） 3単位 一斉 | | |
| I C T機器 | Chromebook（Google Workspace for Education） | | |
| 単元名 | 第4章 経済成長と景気循環 4節 経済成長 3 日本経済を成長させるために | | |
| 単元目標 | 経済成長の原動力と日本経済の将来について考察する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>生徒一人ひとりが既存の知識を用いたり、既存の知識と新たな知識を結び付けながら、自己の視点【個別最適な学び】と他者の視点を往還【協働的な学び】しながら、単元目標である経済成長の原動力と日本経済の将来について考察する授業を実施した。</p> <p>（課題の設定）経済成長の原動力と日本経済の将来について考察する （情報の収集）経済成長に大きな影響を与える要因について考察する（キーワードの抽出） （整理・分析）プレゼンテーション資料（Google スライド）を作成する （まとめ・表現）近未来の日本経済の将来について考察する</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>（Step1）自己の収集した情報を整理・分析し、将来の見通しを立てる発想法（K J法）を用いて仮説を立てる（仮説①） （Step2）他者の整理・分析された情報を参考に、自己の仮説を検証する（検証①） （Step3）自己の仮説と他者の仮説を往還しながら、共有した情報を整理・分析し、新たな仮説を立てる（仮説②） （Step4）Google スライドを共有し、共同編集に参加する （Step5）プレゼンテーション、全員で共有する（検証②）</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>第1学年次「総合的な探究の時間」では、既存の知識を用いたり、既存の知識と新たな知識を結び付け、往還させながら、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を深いところまで探って明らかにする活動を先行実施された平成31（令和元）年度から行っている。</p> <p>特に、教科で身に付ける知識・技能等を統合するキーとなる概念である【見方】、教科ならではの認識や思考、表現の方法である【考え方】を振り返りながら、全ての教科の見方・考え方を組み合わせることで生徒一人ひとりの中にある好奇心・探究心が見える化し、解像度を高める取り組みを行い、全ての教科・科目への浸透を図っている。また、「自分らしく地域・社会に参加する」ことをテーマに取り組んでいるため、商業科目との親和性は高く、商業科目や第3学年次の「課題研究」（「総合的な探究の時間」の代替科目）において進んだ探究活動が見られる。</p> <p>そのため、①どのような資質・能力を育成しようとしているかについては、3つの資質・能力のうち、特にどれを育成しようとしているのではなく、3つの資質・能力の最適化を心がけている。②個別最適な学びと協働的な学びをどのように融合しているかについては、カリキュラム・マネジメントの視点が不可欠であるため、生徒一人ひとりが既存の知識を用いたり、既存の知識と新たな知識を結び付けながら、自己の視点と他者の視点を往還させること、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を深いところまで探って明らかにしようとする、全ての教科の見方・考え方を組み合わせること、の3つを心がけている。③授業実施上、どのように工夫されているかについては、生徒の学習への興味を引き出し、疑問が湧き出る、安心・安全な学びの環境づくりを心がけている。特に教科の本質に即した学び（真正の学び）を最大限意識している。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>定期考査・授業における取り組み（※1）・成果物（Google スライド等） （※1）課題をみつけることができる。他者と協力する、または協働することができる。I C Tを思考のツールとして活用することができる。主体的に情報・知識を収集することができる。</p> <p>生徒の授業への取り組みが主体的に変わる（変容する）と提出物の質の向上、考査の得点の向上等、正の相関が見られる。生徒一人ひとりに何が身に付いたかを丁寧に見取ることにより、学習評価の充実を図っている。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|-------------------------------------|-----|------------|
| 都道府県名 | 愛媛県 | 学校名 | 愛媛県立大洲高等学校 |
| 科目名 | 経済活動と法（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C端末(一人一台) とアプリ「Teams」「Forms」 | | |
| 単元名 | 紛争の予防と解決 | | |
| 単元目標 | 裁判所に関する制度やそこで働く人々について理解する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定（事前準備） 紛争解決の方法として、和解・調停・仲裁および民事訴訟があるが、それらが行われている裁判所についての理解を深めるため、事前に松山地方裁判所大洲支部を見学する。なお、見学の際は、デジタル機器の持ち込みができない。そのため、個別のワークシート用紙を持たせ、適宜記入させる。【個別最適な学び】松山地方裁判所大洲支部の見学実施後、個人によるワークシート（Teams 上）を作成・提出させ、教師によるフィードバックを行う。</p> <p>(2) 情報の収集 裁判所の見学後、各班に分かれて、それぞれのテーマ（裁判所の種類・裁判所が扱う事件・裁判手続きについて・民事事件Q&A・裁判所で働く人々・裁判手続きについて・刑事事件Q&A・裁判員制度について）ごとに情報を収集する。【協働的な学び】タブレットP C端末を利用して、共有したファイル（Word および PowerPoint）を班ごとに活用する。</p> <p>(3) 整理・分析 それぞれの班の中で調べた内容、見学を通して感じたことを「どのようにすればうまく伝わるか」を考えながら整理した。【協働的な学び】Teams を活用した協働的な意見や情報収集などに対する整理・分析</p> <p>(4) まとめ・表現 各班で発表の手順や表現方法を考えて、文章作成を行う。各班が発表後、他の生徒の感想や質問を Teams のチャット機能を利用して受け付ける。その後、質問に対しては、班の代表者が回答を述べる。また、各班が作成した発表資料を共有フォルダに保存しておく。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 各班が事前に決めておいた順番通りに発表を行い、それぞれが感想や質問等を Teams の投稿欄に入力する。各班で各自の意見を発表し、質問内容をまとめ、班の代表者が発表する。出された質問に対して各班の代表者が応答する。最後に授業アンケート（Forms）を実施させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に思考力・判断力・表現力の育成を目指して、事前準備の中での話し合いや各班の発表、質疑応答などの協働的な学びの中で、相手の話を整理して理解し、自分が考えたことや疑問に思ったことを他者に分かりやすく表現する力を育てることに留意する。以上の認知プロセスの外化（発表・議論・記述など）と認知プロセスの内化（理解・定着など）の両立により、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術： 定期考査や Forms を用いたアンケート収集機能で、どのような知識や技術を学んだかを記述させる。 思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度： レポートや発表などについてルーブリック評価などを行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 香川県 | 学校名 | 香川県立丸亀城西高等学校 |
| 科目名 | 簿記（1年次：4単位） | | |
| I C T機器 | Chromebook アプリ「Google Workspace For Education」 | | |
| 単元名 | 簿記の基礎 | | |
| 単元目標 | 簿記とは何か。簿記を学ぶ目的を知る | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>（1）課題の設定 高校入学後、初めて簿記を学ぶ生徒に対して、「①簿記とは何か？②簿記を学ぶ目的」の2つの課題を各自で調べ、レポートとスライドを作成する。 【個別最適な学び】 Google Classroomでレポートの様式（Google ドキュメント）を配布→生徒作成→提出→返却（フィードバック）【協働的な学び】 Google スライドの共有機能を活用し、人数分のスライドを用意し、スライド1ページごとに各自が調べた内容をまとめさせる。</p> <p>（2）情報の収集 スライドが完成後、同スライドに作成した、他の生徒のスライドを閲覧し、自身の調べた内容との違いを比較し、Google フォームを用いて気づいた点や参考になったことを入力させる。 【協働的な学び】 Google スライドの閲覧・Google フォームでの評価</p> <p>（3）整理・分析 Google フォームの結果をスライドの作成者にフィードバックし、収集した多くの情報を多様な視点から整理・分析する。 【協働的な学び】 Google フォームの評価</p> <p>（4）まとめ・表現 Google フォームから収集した意見を整理したり、他の生徒が作成したスライドを参考にしたりして、最終的な、「①簿記とは何か②簿記を学ぶ目的」についてのレポートを再提出する。 【個別最適な学び】 Google Classroomでレポートの再提出</p> <p>2 実践内容</p> <p>（1）授業概要（本時） 「①簿記とは何か」はじめて簿記を学習する生徒に簿記が実社会でどのように必要とされているのか。役立っているのかを興味・関心を抱かせる。また、「②簿記を学ぶ目的」について簿記が経理業務以外にも役立つことを見つけていく。それらをレポートにまとめさせるとともに、今後はスライドの作成を行い、自分が調べたり気づいたりした内容を生徒全員が共有し、より深く学習していくことを意識させる。</p> <p>（2）個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 互いに作成したスライドを見て、気づいた点や参考になったことなどをそれぞれの生徒がフォームによりフィードバックする協働的な学びを行う。様々な情報を収集・整理し、まとめとして生徒自身がレポートを再作成する中で個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>「知識・技術」：定期考査やレポートで学んだことを記述させる。 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」：レポートやスライドについてあらかじめ作成したルーブリックを活用し、パフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 宮崎県 | 学校名 | 宮崎県立延岡商業高等学校 |
| 科目名 | 簿記（1年次：4単位） | | |
| I C T機器 | タブレットPC（グループ1台）とアプリ「Google workspace for education」 | | |
| 単元名 | 全商簿記検定3級の範囲が終わり、これまでの総復習 | | |
| 単元目標 | これまで学んだ内容が定着しているかを確認し、定着していないところを確認することで、確実な知識の定着を目指そう | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 簿記・会計の授業では、ある程度の知識を習得していなければ、協働的な学習を取り入れた授業を実施するのが難しい。そのため、これまでほとんどの授業を教師主導型で実施してきた。今回、全商簿記検定3級の範囲を学び終えた生徒たちが、お互いに簿記の内容について説明し合うなど、主体的で協働的な学習を通して、1年次での簿記の学習内容をしっかりと理解させ、基礎的・基本的な知識の定着を図る。</p> <p>(2) 情報の収集 教科書や問題集を使って、これまでの学習内容の確認をするとともに、「なぜ減価償却をする必要があるのか？」や「貸し倒れの処理をする必要があるのか？」など、仕訳や帳簿記入以外の視点から、簿記に関する疑問点を抽出する。疑問点の中には、すでに解説している内容もあるが、定着していないということで、特に制限はしない。【個別最適な学び】個人によるワークシート作成・提出</p> <p>(3) 整理・分析 グループに分かれ、各自が抽出した疑問点について、K J法を使って、グルーピングする。グルーピングした各項目について、インターネットを活用し、グループのメンバーで詳しく調べ、整理する。【協働的な学び】Google Jamboardを用いたグループ活動（K J法）、プレゼンテーション作成</p> <p>(4) まとめ・表現 グループでまとめた内容について、発表する。発表の後、質問を受け付ける。その後、グループを作り、タブレット端末を用いてGoogle Classroomのテスト付き課題で知識の定着を確認する。 【協働的な学び】グループ発表、Google Classroomを用いたグループ学習</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 グループを作り、タブレット端末を用いてGoogle Classroomのテスト付き課題で40問の質問に答えていく。質問は、これまで学んだ全商簿記検定3級の範囲で、ラジオボタンやチェックボックスを使った選択問題だけでなく、記述による問題も作成した。グループごとに点数を競わせることで、全員が意欲的に取り組む雰囲気を作った。終了後は、間違いが多かった内容を全体で確認する。これにより、これまで学んできた内容を再確認し、知識の定着を図ることを目指した。生徒たちは、自分に自信がある問題について、友人に一生懸命説明する姿や、正しい答えを導くために友人と話し合ったりする姿が見られ、全員が意欲的に取り組んでいた。復習の時に、積極的に質問をする生徒もいた。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 タブレット端末を用いてのグループ学習を導入することによって、知識・技術の定着の確認だけでなく、自分が分かることを友人に分かりやすく説明するなど、特に、思考力・判断力・表現力の育成を目指している。また、一人ではなかなか取り組みが進まない生徒も、友人の影響を受け、学習に意欲的に取り組む姿も見られ、このような点からは、協働的な学習を積極的に取り入れた方がいいと考える。もちろん、個別の学びも重要であるので、今回は、Google Classroomで、クラス全員にテスト付き課題を配付することで、自宅で何度でも復習することができるよう工夫した。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>評価については、グループ活動の際の生徒達の活動の観察及び、提出されたワークシートやプレゼンテーション等によって思考力・判断力・表現力及び主体的に学びに取り組む態度の評価を行った。また、テスト付き課題の結果によって、知識・技術の評価を行った。特に、グループ活動の評価については難しく、今後の課題である。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 沖縄県 | 学校名 | 沖縄県立那覇商業高等学校 |
| 科目名 | 簿記（2年次：2単位） | | |
| I C T機器 | i p a d（グループ1台） | | |
| 単元名 | 借り入れのための貸借対照表の作成方法について、これまで学んだ知識を活用する | | |
| 単元目標 | 「国際通りに会社を興そう」というテーマを用いて、これまで学んだ簿記の知識を活用できる（第3学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 課題として、「外国人観光客向けの会社を設立する」をテーマに、まず、グループでどんなお店が好まれるか予想させる。 資金調達の資料作成に、現在と5年後の損益計算書の作成し、現在の資金からどうやって5年後に利益を生み出すかを思考させる。その活動を通して、課題を設定していく。</p> <p>(2) 情報収集 【協働的な学び】 各班、実際に国際通りで外国人にアンケートをとり、データを収集（フィールド活動）</p> <p>(3) 整理・分析 データを Excel でまとめ、外国人観光客が国際通りに求めるものや課題などをデータから分析する。</p> <p>(4) まとめ・表現 グループで国際通りのどの場所にどんなお店を立てるか、資金はいくらぐらいかかるかなどを考えて、発表準備を行う。資金やお店の内装など i p a d や携帯電話を活用して、情報を収集し発表に向けて準備する</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（起業するお店の選定から資金調達、発表まで） 名桜大学教授との高大接続授業を展開した。 名桜大学の教授と授業を一緒に行い、企業に必要な資金や会社の起業について、アドバイスや助言を行った。会計専門の教授のため、的確な質問から生徒の思考を促し、これまで学んだ簿記の知識を深めていた。また、発表はポスターセッション形式で行い、会社名・資金、5年度の資金繰りなどを発表した。この時は、教授のゼミ生も参加し、生徒たちに質問を浴びせながら、生徒の思考を促していた。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に、思考・判断・表現の育成を目指して、どうやったら5年で利益を生むことができるか見通しを立てた事業計画（事業の内容や損益計算書の作成）やどんなお店を立てるかをデータを用いて、活用する力（活用力・洞察力）育てることに留意する。活動を通して、多様な人々と協働する力の育成に留意する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：振り返りシートでどのような知識や技術を学んだか記述させた。 思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：振り返りシートの記述や発表によるパフォーマンス評価、相互評価（どの班の会社が成功するかシールを貼らせた）を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 岐阜県 | 学校名 | 岐阜県立岐阜商業高等学校 |
| 科目名 | 財務会計Ⅰ（2年次・3単位） | | |
| ICT機器 | タブレット（生徒用・教員用）、manaba, プロジェクター | | |
| 単元名 | 財務諸表分析 | | |
| 単元目標 | 同一企業における期間比較や同業他社比較を行わせることを通して、収益性や安全性などの面から企業の実態を分析する方法を習得させる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 EDINET から興味のある会社を 2 社選択し、有価証券報告書に書かれている財務数値について、財務分析を行い、期間比較及び企業間比較を行うことで、その会社の特徴や課題点などを見つけていく。【個別最適な学び】 EDINET による検索、ワークシート（Word で作成） manaba での提出と教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 有価証券報告書の財務指標以外の部分や、会社 HP、四季報などを参考に複数のチャンネルから関連情報も含めて情報収集を行う。【個別最適な学び】 インターネットによる収集、新聞などの紙媒体による収集</p> <p>(3) 整理・分析 業種ごとにグループを分け、各自が分析した結果をグループで交流する。同じ業種でも特徴が異なる企業や似ている部分がないか、多角的に整理・分析する。【協働的な学び】 ワークシート（Word）を用いて整理・分析を行う。</p> <p>(4) まとめ・表現 他者の考えを聞き、新たな立場や考えを探究し、さらに疑問に思ったことや調べてみたいと思ったことをまとめ、次の探究に活かす。【個別最適な学び】 ワークシート（Word）への記述提出・フィードバック</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 業種ごとにグループを分け、各自、選んだ 2 社について、財務諸表分析をとおして考えられたことを交流する。交流では、他人の考えをよく聞き、自分の考えとは違っているところや自分には無かった視点を発見できるように意識させる。グループ内発表から、より探究したいと思うことを挙げられるようにする。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に、思考力・判断力・表現力の育成を目指して、授業の中で得た知識・技術が実社会ではどのように用いられているのかを踏まえ、より学びたいと思う力（学びに向かう態度）の育成に留意する。また、発表や質疑応答などの協働的な学びの中で、他者の話を整理して理解し、自分の考えを論理的に説明する力を育てる。以上、自らの探究と他者との議論などを通して、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を行う。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：財務分析の数値を出すことについては、概ねできていたと感じた。 思考力・判断力・表現力：数値から会社の特徴を考えることは概ねできていたが、「なぜ、そのような特徴になるのか?」「会社が抱えている課題は何か?」と一歩踏み込んだ考えを挙げられた生徒は少なかった。 主体的に学習に取り組む態度：新たに探究したいと思える事柄を挙げられる生徒もいれば、挙げるのに苦労している生徒もいた。もう少し、生徒が「なぜ?」と思える問いかけをする必要があると感じた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 島根県 | 学校名 | 島根県立出雲商業高等学校 |
| 科目名 | 財務会計Ⅰ（2年生 商業科 36名 5単位） | | |
| ICT機器 | iPad・スマートフォン・アプリ「Google Workspace for Education」 | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) 課題の設定

Google Classroomにて配信される財務会計の仕訳問題を通して、自らの得意な問題、苦手な問題を把握する。そして、苦手な問題を理解するためにはどのような知識が必要なのかを知る。

(2) 情報の収集

【個別最適な学び】個人で教科書や授業で配布した資料などを参考にしながら問題に取り組む。

【協働的な学び】解くことのできない問題については友人に教えてもらったり、Google Classroom上の限定公開コメントを使用して教科担当に直接質問をしたりすることで解答までのヒントを収集する。

(3) まとめ・表現

【個別最適な学び】自主課題で取り組んだ問題の類似問題を普段の授業の小テストとして実施し、自らの学習の成果を確認する場を設ける。

【協働的な学び】採点後返却し、教え合う活動を通して、正解できなかった問題については周りの友人に教えてもらうことで理解に繋げ、教える際には自らの知識を深める。

2 実践内容

(1) 概要

Google Classroomを活用し、一人一人の理解度に応じた学習支援を目的として10月から全商簿記実務検定実施の1月末までの約4ヶ月間行った。

毎週月・水・金の3日間ドキュメントで作成した仕訳問題（3問）をGoogle Classroomにて配布。生徒は放課後、自らのスマートフォンやPCを使用して課題に取り組み、担当教員へ提出。

担当教員は採点後返却をし、生徒は間違えた問題にもう一度取り組み、再提出をする。

上記の活動を繰り返すことにより知識の定着を図る。

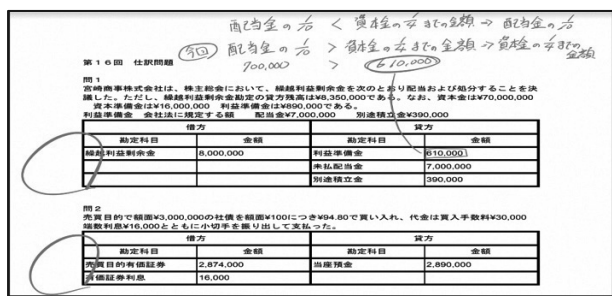
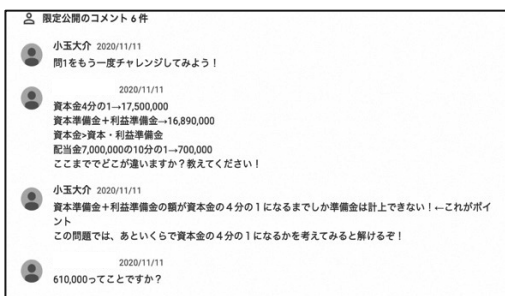
さらに普段の授業の中で自主課題として取り組んだ問題を中心とした小テストを行うことで自らの理解度を確認する。なお、この活動は宿題ではなく、自主課題としている。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

特に知識及び技能の育成を目指し、自主課題や小テストなどを通して「何を理解しているか、何ができるか」を把握する。そして、自らの課題を明確にし、習得した知識と関連付ながら解決に向けて考える力を養う。加えて、友人と教え合う活動を通して、主体的に人々と協働する力を育成していく。以上の活動の両立により、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。

3 学習評価の結果とその分析

今回の研究を通して、生徒は主体的に課題に取り組む姿勢が見られ、積極的に他者と協働しながら知識を深めようとする姿があった。また、Google Classroomを活用した課題にしたことによって、普段なかなか質問のできない生徒も限定公開コメントを利用して積極的に質問をするようになった。



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 秋田県 | 学校名 | 秋田市立秋田商業高等学校 |
| 科目名 | 財務会計Ⅱ | | |
| I C T機器 | タブレット型P C (一人一台)、GoogleWorkspace (Jamboard) | | |
| 単元名 | 財務諸表の活用 | | |
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際の企業の財務諸表を活用し、財務状態を詳しく分析する ・生徒相互の意見交換を行うことで、多角的な視点で財務諸表を読み取る力を養う ・財務諸表分析を基に、投資家の視点で投資対象を考えることにより、会計の知識を活用し、金融知力の育成を行う | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表分析を行い、投資家の視点で投資対象を選定する。 <p>(2) 情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられた財務諸表を分析し、投資に必要な情報を収集する。【個別最適な学び】 <p>(3) 整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で分析した財務諸表を基に、同じ企業のグループで意見交換を行う。そのさい、Jamboard を使用し、各自がまとめたワークシートに直接意見を書き込みながら協議する。【協働的な学び】 <p>(4) まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでまとめた企業の分析結果について、全体に発表する。発表内容を聞きながら、自分が投資する1社を決定する。【協働的な学び】 <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>①各自で財務諸表の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者から提示された10社について、一人1社を選択し、財務諸表分析を行う。ワークシートに実数調査をまとめ、比率分析は各自で指標を決めて分析する。 ・分析した実数、比率をもとに、分かること、疑問点などをワークシートにまとめる。 ・ワークシートを共有のJamboardにアップする。 <p>②分析結果をもとにグループで協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ企業を選択した生徒でグループを形成し、各自で分析したJamboardに書き込みながらそれぞれが分かったこと、考えたこと、疑問などを協議する。財務諸表もJamboardに載せ、そこに書き込んで良いこととする。 <p>③各グループの分析結果を共有し、投資対象を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jamboardをそのまま使用して分析結果をクラス全体へ発表する。 ・生徒は、発表を聞き、ワークシートにまとめながら、根拠をもって投資対象を決定する。 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>①どのような資質・能力を育成しようとしているか</p> <p>【知識・技能】40% いままで学習した会計知識、財務諸表分析を活用できているか。</p> <p>【思考・判断・表現】30% 自分の意見を表現し、他者の意見を聞き入れ、考察・判断しているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】30% 積極的にグループワークに関わっているか。</p> <p>②個別最適な学びと協働的な学びをどのように融合しているか</p> <p>Jamboardを使用することによって、意見を反映させやすく、共有が容易である。</p> <p>③実施上工夫している点</p> <p>はじめに提示する10社は明らかに優れた会社等が無いように選定する。</p> <p>ワークシートを使うことで、何から手をつけて良いか、どこまで深めるかにはある程度制限をかける。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で投資先を決定することで、実際の投資家として会計知識を活用できている。 ・数字上での判断にとどまることが多く、企業分析や社会情勢の分析まで至ることは難しい。 ・協働的な学びを行うことで、多角的な視点で考えることができています。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 群馬県 | 学校名 | 群馬県立高崎商業高等学校 |
| 科目名 | 財務会計Ⅱ（3年次：4単位） | | |
| I C T機器 | Chromebook3100（全生徒に貸与）、プロジェクター、アプリ「Mentimeter」 | | |
| 単元名 | 企業結合会計 | | |
| 単元目標 | 合併時に行う企業評価額の算定方法を学び、適正な合併比率の実現が困難であるという現状を理解する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>企業結合のなかでも会社の合併は困難な手続きを要する。被合併会社は法的独立性を喪失し、存続会社（または新設会社）に組み入れられるので、合併における合併比率の算定は、被合併会社の株主にとって大きな関心となる。ゆえに合併の合意をしている企業間であっても手続きが進まず白紙となる事案も目立つ。本章では資産負債でアプローチによる純資産額と乖離した企業評価額を算定した事例を取り上げ、その内容の理解をI C T機器による「個別最適な学び」と「協働的な学び」で実現した。</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>検索した合併比率に関する情報を、対象企業のWebページから取り出し、この事案により計上された「のれん」を確認する。【個別最適な学び】各生徒が持つChromebookにより、各社のプレスリリースや経済ニュースのアクセスにより、企業結合に関する話題を収集する。【協働的な学び】Mentimeter（Open Ended機能）による書き込みを、教室内のプロジェクターに投影し、情報を共有する。同アプリによる書き込みはチャットとは異なり、発表者の匿名が保持されるので、生徒から自由な発言を引き出すことができる。</p> <p>(3) 問題の所在を確かめる</p> <p>教師は生徒に以下の問題を問いかける。「のれんの正体は、会計上認識・測定されなかった経済的資源である。では、のれんをどのような方法で算定するべきなのか？」【個別最適な学び】授業者が机間指導し、個別にアドバイスをする。生徒は、思いついた内容を直接教師に発表せずにMentimeter（Open Ended機能）に書き込む。【協働的な学び】Mentimeterにより匿名が保持されたアイデアが教室内のプロジェクターに投影され、自由討論の材料となる。発表者の匿名が保持されるので忸度のない討論が展開される。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>情報の収集を促し、各自でインターネットに接続させた。生徒は、「合併比率__プレスリリース」などの検索により、合併比率の算定が社会問題となっていることに気づくことができた。また、これらの情報を生徒自らの操作でプロジェクターにアップデートできるので、即座に情報が共有された。</p> <p>「のれんをどのような方法で算定するべきなのか？」との問いには、「人材の分析を行う」「企業ブランドアンケート／ランキングの活用」といった従来から認知されている方法以外に、「YouTubeのチャンネル登録数を金額にする」といった価値ある意見も飛び出した。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>三要素のバランスのとれた学習評価が可能になる。レポートの提出により、個々に調べた内容を評価することができた。この個々に調べた内容を「知識・技術」、「関心・意欲・態度」の評価対象とした。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、グループでの話し合い、話し合った内容の中から新たに生まれたアイデアをレポートさせることで、協働的な学びの評価対象とした。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>Mentimeterにより匿名が保持されたアイデアが教室内のプロジェクターに投影された。この匿名が保持されたアイデアが自由討論の材料となるので、生徒は書き込みに対して色眼鏡で見なくなる。投稿者も遠慮することなくアップロードできるため、遠慮がちな行動も見られなかった。自由活発な意見がでることにより、公正な評価活動も可能となった。教師も「〇〇さんの意見かな？」と詮索しないため、公平公正な評価が期待できる授業が展開できた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--------------------------------------|-----|------------|
| 都道府県名 | 京都府 | 学校名 | 京都府立木津高等学校 |
| 科目名 | 財務会計Ⅱ（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | P C（1人1台） | | |
| 単元名 | 株式投資のシミュレーションで財務諸表分析を活用する | | |
| 単元目標 | 財務諸表分析の「知識・技術」を「思考・判断・表現」へ応用して理解を深める | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本証券業協会が提供する「株式学習ゲーム」で株式投資のシミュレーションを行い、財務諸表分析に対する関心を高め、既習内容の進化を図る。 ・3人1組のグループで週に1度株式の売買を行う。9月～1月の期間で、計12回の演習を行う。 ・チーム内でディスカッションしながら株式の売買を行うことにより、経済的に合理的な選択に必要な「意思決定」「ディベート」の力を養う。 ・企業情報の集め方を学ぶことから、企業の見方を養う。 <p>課題の設定 — 学習期間内に株式投資によって資産を増加させる。</p> <p>情報の収集 — 主にインターネットでニュースや企業のIR情報を収集する。</p> <p>整理・分析 — グループ内で情報を整理・分析し、意思決定を行う。</p> <p>まとめ・表現 — 毎回の値動きや資産の増減に対するフィードバックを行い、期間の最後にはまとめの発表を行う。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>ワークシートを使って、①前回の投資結果のフィードバック ②情報収集 ③ディスカッション ④投資の意思決定をPDCAサイクルとして繰り返す。</p> <p>ワークシートには、意思決定の際に財務諸表分析の根拠を示すように指示があり、既習内容を応用して財務諸表と経済のつながりについての気づきをサポートする。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>①「知識・技術」は既習内容の定着をねらい、約2割程度。「思考力・判断力・表現力」は情報収集からチーム内でのディスカッション、チームの意思決定という活動を通して身につけさせることをねらい、約5割程度。「学びに向かう力、人間性」は役割分担などでのチームワークやコミュニケーションを身につけさせることをねらい、約3割程度の比率で育成をはかる。</p> <p>②個別最適な学びは、発達段階と学力に応じた個々の調査活動によって得られる発見や調査方法の確立によって成され、協働的な学びは、チーム活動における他者の意見の受容と自己主張によって成される。</p> <p>③工夫している点は、チームで共有された情報や意思決定に至った理由などはチームを構成する個々がそれぞれ理解できているかをレポートによってチェックし、評価の観点としている点である。これにより、秀でた個人のみによって過度にリードされてしまう事を防ぐことができています。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術 — 財務諸表分析の知識・技術についてペーパーテストによって評価し、おおむねポイントが向上した。</p> <p>思考・判断・表現 — ワークシートとレポートによって評価し、一定の成果が得られた。 ※投資結果（資産の増減）については評価項目としない。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 — 演習時の観察シートによって評価し、一定の成果が得られた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 徳島県 | 学校名 | 徳島県立徳島商業高等学校 |
| 科目名 | 財務会計Ⅱ | | |
| I C T機器 | タブレットPC（生徒一人一台） | | |
| 単元名 | 実際のデータをもとに、財務諸表分析の方法を学ぶ | | |
| 単元目標 | 財務諸表分析の方法と手順など、学んだことを活用して、興味のある企業について分析し、発表しよう（第2・3学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 例題を示し、財務諸表分析の方法と手順について説明する。</p> <p>①「ニトリ」と「良品計画」の財務諸表からわかることをまとめる。</p> <p>②「ニトリ」と「良品計画」のビジネスモデルを調べてまとめる。</p> <p>③「ニトリ」と「良品計画」の安全性・収益性の分析指標を計算する。</p> <p>④財務諸表からわかること、ビジネスモデル、分析指標を関連付けて、分析結果を文章にしてまとめる。</p> <p>(2) グループに分かれて例題を参考にして興味のある企業2社について分析しまとめて発表する。(探究活動)</p> <p>①課題の設定・・・グループで相談して、分析する企業を2社決定する。</p> <p>②情報の収集・・・「財務諸表からわかることをまとめる」「ビジネスモデルを調べる」「分析指標を計算する」という3つの内容について役割を分担する。各自、分担した内容を考え、タブレットを用いてパワーポイントで発表資料を作成する。(ICTの活用)【個別最適な学び】</p> <p>③整理・分析・・・各自が作成した発表資料のデータを、メールで送受信して一つにまとめ、グループとしての作品を完成させる。(ICTの活用)【協働的な学び】</p> <p>④まとめ・表現・・・制限時間（10分間）に発表できるように、グループ内で発表内容を検討する。各自が伝えたい事柄を明確にする。【協働的な学び】</p> <p>⑤まとめ・表現・・・教室で電子黒板に投影して発表し、相互評価をする。(ICTの活用)【協働的な学び】</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>財務諸表からわかることをまとめる方法として、勘定科目や昨年度との比較から考えることや、推測して仮説を立てる等、自らの考えをもった上で調べて検証する、といった思考プロセスを伝える。例えば、「ニトリ」のB/S上の勘定科目に「原材料」「仕掛品」「製品」勘定があることから、ものを製造していることがわかり、ビジネスモデルの「製造物流小売業」であることとつながる。令和2年度の「良品計画」は、当期純損失を計上していることから、コロナウィルス感染拡大の影響があると推測する。調べると、良品計画は海外に店舗が多くあり、ロックダウンの影響で欧米の店舗は休業となったことが純損失の大きな原因であることがわかる。関連付ける内容がたくさんあることが、深い分析につながることを認識させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>特に思考力・判断力・表現力の育成を目指して、汎用性の高い思考方法を教えることで、論理的・創造的に考える力を育てることに留意する。加えて、知識と知識を関連付けて考えることを実感させ、面白いと感じさせることで、主体的に学びに向かう力を育てるよう留意する。</p> <p>探究活動においては、まず個別最適な学びを実践する。生徒一人1台タブレットを使用することで、放課後や家庭においても、調べ学習や発表資料作成が自分のペースでできる。次に、グループとしての作品を作り上げるために、協働的な学びを実践する。その過程で、自分の意見を伝え、他者の意見を聴くなど、よりよいものを作るために、他者と協働して内容を検討する。協働的な学びを通して、自分では気付かない箇所の指摘をうけて、内容が精選される。発表内容には、実際に店舗に足を運んで店舗で働いている方にインタビューをして、実感としてわかったことを取り入れるように指示をする。情報収集方法の一つとして、実際に足を運んで現場を見たり、人から聞いたりすることが重要であることを認識させる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：定期考査で安全性・収益性の分析指標を計算する問題を出題して、点数化して評価する。</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：発表内容については、プレゼンテーション相互評価表を作成し、お互いの発表内容を評価させる。評価項目は作品制作前に伝えておく。評価項目は、「内容」「プレゼン用ツール」「話し方」「動作」の4観点について、15項目を設けて点数化して評価する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 熊本県 | 学校名 | 熊本県立球磨中央高等学校 |
| 科目名 | 財務会計Ⅱ（3年次：4単位） | | |
| I C T機器 | タブレットPC（一人一台）、アプリ「Google For Education」 | | |
| 単元名 | 財務諸表の活用 | | |
| 単元目標 | 有価証券報告書（EDINET）を用いて企業の経営状態を分析し、意思決定しよう | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>EDINETの有価証券報告書を活用し、企業の財務諸表分析を行う。企業名を伏せた2社の資料を提示し、教師が指名した企業（どちらか1社）のPRを念頭に、様々な数値（実数分析、比率分析）について分析し、最終的にどちらの企業に投資したいかを意思決定させる。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究活動の一手法として、マイクロ・ディベートを取り入れる。【個別最適な学び】Google スプレッドシートに入力した個人の分析結果を元にワークシートを作成。Google Classroomに提出されたワークシートについて、教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>グループで財務諸表分析に関する各種指標の確認を行いながら、意見を集約する。【協働的な学び】Google スプレッドシートを用いて、個人でまとめた各自の考える自社のPRポイントを集約</p> <p>(3) 整理・分析</p> <p>各グループで集約した情報を元に、様々な角度から分析・判断しながら全体としての意見を精選し、決定する。その情報を元に、（A社担当者とB社担当者が）マイクロ・ディベートを行う。フリートークでは、自社のPRだけでなく、お互いの着眼点についても話し合う。【協働的な学び】相手側のGoogle スプレッドシートに、優れた着眼ポイントを入力。</p> <p>(4) まとめ・表現</p> <p>自社の意見を再度集約し、プレゼンテーションを行う。レポートに今回の気づきを入力し、Google Classroomに提出。【協働的な学び】Google スライドを各グループで協働して作成し、発表を行う【個別最適な学び】Google ドキュメントを用いてレポート作成</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時）</p> <p>本時は、「各自の担当企業を指名」→「個人で担当企業の財務諸表分析」→「3～4人グループによる意見交換・集約」→「PRポイントの精選・決定」→「マイクロ・ディベート」→「3～4人グループによる再協議」までを実施。その後、「プレゼンテーション資料作成（自社をPR）」→「プレゼンテーション」→「意思決定（自分が投資したい企業）」→「まとめ（レポート作成）」を実施。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>財務諸表分析に必要な一定の知識・技能を身につけていることを前提とし、思考力・判断力・表現力の育成を主な目的とする（各個人の学びの状況に対応）。マイクロ・ディベートでは、お互いの考えを認め合う「美点凝視」に特化したフリートークを行うことによって、協働的な学びを深める。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：定期考査及びワークシート、レポートにおいて、どのような知識や技術を学んだのかを記述させる。</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：ワークシート及びレポート、プレゼンテーションにおいて、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 青森県 | 学校名 | 青森県立弘前実業高等学校 |
| 科目名 | 情報処理（1年次：3単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C（1人1台） | | |
| 単元名 | 第3章ビジネス情報の処理と分析 3節グラフの作成 2. 基礎的なグラフの作成 | | |
| 単元目標 | 1. グラフの種類と特色を理解する 2. 目的に合ったグラフを作成する知識や技術を習得する | | |
| 1 単元目標を達成する学習指導計画 (1) 課題の設定 本校の所在地となる青森県弘前市に関する3つのデータから、生徒はいずれかのデータを選び、グラフの作成を行う。その後は、作成したグラフを使用しデータの傾向や自分の考えを発表し、他の2つのデータを選択した生徒の発表を聞く。発表後は、それぞれの生徒から発表の良かった点や改善点を話し合い、目的に応じたグラフや相手に伝わるグラフがどのようなものかを見つけていく。 (2) 情報の収集（1時間） 地域経済分析システムRE S A Sを用いて、青森県弘前市の①人口に関するデータ、②観光に関するデータ、③労働に関するデータを収集する。その際、3名1組となり、1名1テーマを担当し、テーマがグループ内で同じにならないようにする。【個別最適な学び】個別のワークシート（word）に、収集したデータを表に加工し、貼り付け提出する。 (3) 整理・分析（1時間） 収集したデータをもとに、各生徒がグラフを作成する。その際、どの種類のグラフを用いて作成するのか、グラフの特色を踏まえて選択する。また、自分が伝えたいことが聞き手にどうすれば伝わるかをもとに必要なグラフ要素を表示・加工しながら作成する。【個別最適な学び】個別のワークシート（表を貼り付けたもの）にデータの傾向など読み取れることを記入し提出する。作成したグラフ（excel）も印刷し提出する。 (4) まとめ・表現（1時間） 自分が担当したデータについて、作成したグラフを用いてデータから読み取れることを発表する。聞き手は、発表内容やグラフから、発表者が伝えたいことが伝わったか、グラフの種類は適切だったか、タイトルは適切だったか、目盛りの間隔や軸ラベル名は適切だったか、文字の大きさや配色は適切かなど評価する。発表後は良かった点や改善点を発表者に伝え、発表者はそれをもとにグラフや発表内容をさらに改善していく。【協働的な学び】作成したグラフ（excel）をタブレットに表示し発表。 【個別最適な学び】改善したグラフ（excel）を印刷し提出する。 | | | |
| 2 実践内容 (1) 授業概要（本時3／3時間目） 前の時間に作成したグラフをもとに、グループ内で発表を行う。発表後の話し合いでは、聞き手から発表に関する良かった点や改善点を発表者へ伝える。発表者には、どうすればデータの傾向や自分の考えを相手に伝えられるのか、加えてグラフタイトルや凡例などのグラフ要素の役割や表示方法の工夫の重要性を学んでもらいたい。 (2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 与えられたデータから問題の指示どおりのグラフを作成するのではなく、自分でデータを見つけ、読み取ったデータから、目的に応じた分かりやすいグラフを作成させ発表することで思考力・判断力・表現力を育成する。発表後の話し合いにより、データ読み取りの視点の違いを発見したり、グラフ作成のアドバイスをし合うことで他者と協働する力を育成する。 | | | |
| 3 学習評価の結果とその分析 知識・技術：定期考査や作成したグラフ（改善前、改善後）をもとに評価を行う。 思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：発表やワークシートについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---------------------------------|-----|---------------|
| 都道府県名 | 栃木県 | 学校名 | 栃木県立宇都宮商業高等学校 |
| 科目名 | 情報処理（1年次：3単位） | | |
| I C T機器 | タブレット 電子黒板 | | |
| 単元名 | プレゼンテーション | | |
| 単元目標 | プレゼンテーションの意義、役割、手順について具体的な学習をする | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 生徒一人一人が、自ら興味関心のある商品を選ぶ。同じ種類の商品を選んだ生徒を6人1組に編成し、紹介する商品をプレゼンテーションする為の準備をおこなう。生徒が日頃より感じている、商品の特徴を出し合いながら、その商品のアピールするためのポイントを見つけていく。【個別最適な学び】個人による商品の選択と特徴の抽出。教師によるアドバイス。</p> <p>(2) 情報の収集 グループ内で、プランニングシートを作成し、生徒自身が情報収集の内容や分担を決め、I C T 機器などを利用してプレゼンテーションに必要な情報を集める。【協働的な学び】インターネットを利用して、調べ学習を進める。</p> <p>(3) 整理・分析 グループ内で分担した調査内容を、K J法を用いてグループ化し、商品をアピールするために系統ごとに整理し分析し、必要な情報を精査する。【協働的な学び】インターネットを利用して調べた内容の分析、精査。</p> <p>(4) まとめ・表現 グループ内で、プレゼンテーションのためのストーリーを作成する。内容の構成としては、三段論法やS D S法、P R E P法などを利用し、相手に伝えたい内容を、わかりやすくまとめ発表する。【個別最適な学び】ストーリーや発表原稿の作成。 【協働的な学び】I C T機器を利用したプレゼンテーション。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 プレゼンテーションでは、聞き手が必要としている情報を効果的に提示することが重要である。情報を収集する際には、プランニングシートでまとめた内容をもとに、W E Bなどを利用することを意識させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 思考力・判断力・表現力の育成を中心に聞き手に的確に伝えるため、それぞれの視点からどのような情報を収集し（主体的な取り組み）、グループ活動を通してまとめ、工夫すべき点を考え（協働的な活動）、自分たちの考えを他者へ伝えることの難しさを理解し、その解決のための方策をとることができるような力をつけさせる。 様々な場面を想定して、自分のこととして学ぶ姿勢を身につける。（主体的な学習）</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 プレゼンテーションを実施し、終了後は振り返りをおこなう。振り返りを通じて課題として残った点については、改善や工夫をして、次へ生かしていく。知識・技術の評価として、I C T機器の利用が適切であり、プレゼンテーションの内容が、聞き手にとってわかりやすい物であったかを、聞き手側からの立場として評価する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 東京都 | 学校名 | 東京都立第五商業高等学校 |
| 科目名 | 情報処理 報告内容の一部には、2年次のビジネス情報（旧課程）も含む | | |
| ICT機器 | マイクロソフト Office365(Teams・Forms・PowerPoint・Word) | | |
| 単元名 | ビジネスにおけるプレゼンテーションの技法 | | |
| 単元目標 | プレゼンテーションの技法などプレゼンテーションに関する知識、技術などを基盤として、プレゼンテーションに対する要求などに基づいた適切な情報の伝達について、組織の一員としての役割を果たすことができる | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

| 学習内容 | 使用 ICT 機器 |
|---------------------------------------|-----------------------|
| (1) プレゼンテーションの技法に関する基礎的な知識習得 →個別最適な学び | Teams・Forms |
| (2) プレゼンテーションの技法を学ぶための基礎的な課題演習 | PowerPoint・Word |
| (3) 自ら選択したテーマに基づくプレゼンテーション作成 →個別最適な学び | Teams・PowerPoint・Word |
| (4) クラス内で発表し相互評価 →協働的な学び | PowerPoint・Forms |

2 実践内容

(1) 授業概要

これまで東京都では、独自のテキスト「東京のビジネス」をおもにビジネス基礎で副教材として活用している。このテキストを活用して外国人や他県の観光客にもわかりやすく、東京のビジネスの特徴を説明できるプレゼンテーションの作成を学習活動の目標としている。この目標達成に向けて、プレゼンテーションの基礎的な知識や技術を学び、テーマの設定・情報の収集・分析、相互評価を受けて作品の改善を図っている。

また、東京都ではオンライン授業に対応するために、Microsoft 社の office365 をすべての生徒が使用できるようになっており、その中のアプリケーションソフトである、Teams と Forms をオンライン授業だけでなく、通常の対面式授業でも活用している。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

Forms の機能には、アンケートとテスト（クイズ）の2つの機能がある。例えば、(1)の基礎的な知識を学ぶ時、その授業時間の最後の10分、または次の授業の最初の10分で、テスト問題を配信し、解答させる。そして、生徒が解答を返信したと同時に正解がわかり、生徒にとって学習の定着が瞬時に確認できる。さらに、定期考査直前に過去の問題の学びなおしが容易であるため、生徒自ら見通しを立てた学習が可能となる。また、担当教諭にとっても、生徒の学習の到達度がすぐに把握できる。これらを2時間に1回行い、記録に残すことで、授業中の学習の取り組みを把握し、主体的に学ぶ態度の評価材料として見取ることが可能となる。

Teams の本来の機能は、オンライン会議であるが、対面式授業でも、Teams 上で生徒がプレゼンテーション資料を作成すると、担当教諭やグループのメンバーがリアルタイムで生徒の様子を見ながらアドバイスを送ることが可能となる。また、Forms の機能を活用すると、発表内容の相互評価をアンケート形式で行うことが瞬時に可能となる。これらを組みあわせながら、多様な意見を共有しつつ合意形成を図ったり、空間的・時間的制約を緩和することによって交流を深めたりすることが可能となる。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術の定着を定期考査で見取り、思考・判断・表現を定期考査・および授業中の演習内容から見取り、それらが、学習記録とどのように結びついているのかを判断し、主体的に学ぶ態度の評価としている。そのため、Teams 上でおきているすべてのチャットの内容をテキストで残すことで、授業内でのやり取りを把握することができるため、この学習記録を、主体的に学びに向かう態度の評価材料としている。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|-------------|
| 都道府県名 | 神奈川県 | 学校名 | 神奈川県立相原高等学校 |
| 科目名 | 情報処理応用（2年次：2単位 学校設定科目） | | |
| ICT機器 | デスクトップPC（1人1台） アプリ「Google Workspace for Education」「ロイロノート」 | | |
| 単元名 | 情報セキュリティ | | |
| 単元目標 | シナリオを用いた体験型教材を用いて、情報セキュリティを確保する能力と態度を身に付ける（1学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 現在、マルウェアの一種である Emotet が企業を中心として猛威を振るっている。そこで、高校生は直接的被害をあまり受けてはいないが、将来のことを考え Emotet を事例として情報セキュリティを確保する能力と態度を育成する。【個別最適な学び】 Google ドキュメントを用いた学習活動をまとめる。（日々のノートとして利用）</p> <p>(2) 情報の収集 IPA の Emotet に関するレポートをプレゼンテーションとしてまとめ、情報セキュリティの視点から Emotet への対応に関する情報の収集を行わせる。あわせて、有用な情報を提供しているサイトの紹介をする。【個別最適な学び】 Google スライドを用いた個別学習を促進する。【協働的な学び】 ロイロノートを活用した Emotet の危険性の発見と対応策の確認を共有する。</p> <p>(3) 整理・分析 シナリオを用いて Emotet に関する体験型学習を行う過程で、Emotet による情報セキュリティインシデントの整理や、適切な対応能力を身に付けるための分析を行わせる。【個別最適な学び】 Google フォームを利用して安全・安心な Emotet に対する体験型学習を実施する。この学習に対する記録を Google スプレッドシートで行う。【協働的な学び】 ロイロノートを用いてシナリオを用いた体験型学習で得られたことの整理・分析を行う。</p> <p>(4) まとめ・表現 一連の学習を通じて、情報セキュリティインシデントがなぜ起きるのかについてグループ討議を行わせて発表させる。これにより、リスク分析やリスクマネジメントを含む分析能力の基礎を身に付けさせる。【協働的な学び】 ロイロノートの分析ツールを用いて体験型学習についてまとめるとともに、グループでの考えを可視化する。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） シナリオを用いて1人の会社員になりきって、受信した電子メールが安全か、もしくは Emotet によるものなのかについて、安全・安心をベースとして Google フォームにより体験的に学習できる教材を使用する。学習プロセスについては、Google スプレッドシートに答えを選択した根拠を記録させる。今後は、これらの学習をベースとした個人やグループでの検討による情報共有を授業内で行わせる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 ICT によるシナリオを用いた体験型学習では、個別最適な学びとして自らの学習ペースに合わせて、情報セキュリティインシデントに対する思考力・判断力・表現力を身に付けることを主眼とする。あわせて、知識・技能についてもこれまでに身に付けた情報セキュリティに関する知識を生かして、対応できるようにすることを目指す。加えて、協働的な学びとして、この体験型教材を通じて Emotet に関する気づきを共有し、討論などを通じて自らの理解をさらに進化させる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>学びに向かう態度：体験型学習への取組の度合いや他者との協働的学習へのかかわり度合いといった指標を用いてパフォーマンス評価を実施する。 思考力・判断力・表現力：体験型学習で得られた思考力、判断力が得られたかを明確にするとともに、これらを適切に発表できたかを評価する。 知識・技術：基本的には ICT を用いたレポート作成や定期テストによる理解度の評価をする。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 岡山県 | 学校名 | 岡山県立津山商業高等学校 |
| 科目名 | 情報処理（1年：3単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（1人一台）とアプリ「Google Workspace for Education」 | | |
| 単元名 | プレゼンテーション | | |
| 単元目標 | プレゼンテーションに対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、伝達することが必要な情報を表現し、評価・改善しようとしている | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>指導項目(5)プレゼンテーション イ ビジネスにおけるプレゼンテーションについて取り扱う。ここでのねらいは、プレゼンテーションに対する要求などに基づいた適切な情報の伝達について、組織の一員としての役割を果たすことにある。</p> <p>近年では、新型コロナウイルス感染症の拡大から、観光に関する分野の活動が停滞傾向にあるが、徐々に回復に向かおうとする気配が見受けられる。また、地域課題について取り組む必要もあることから、カリキュラム・マネジメントの視点とも合わせ、本単元では、生徒自身が観光PRを務める観光大使となった設定で、観光ツアーを企画する旅行代理店等に対して、必要な情報を的確に・効果的な表現で説明することを課題として取り組むこととした。</p> <p>取り組み方としては、一班5人程度の班を編成し、それぞれの班で統一したテーマを生徒自らが設定し【協働的な学び】、役割分担を行いながら、分担した役割を果たす【個別最適化】方法をとることとした。</p> <p>ワークシート（Google Classroom 上）作成・提出と教師によるフィードバックを行う。</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>扱う情報の種類は班で話し合いを通じて決める。</p> <p>観光PRを行う地域の情報の収集は各自でタブレットPCを使用しておこなう。</p> <p>情報を収集する際に、情報モラルについて指導する。</p> <p>【個別最適化な学び】 Google スライドを用いる(共有化)</p> <p>(3) 整理・分析</p> <p>収集した多くの情報を多様な視点から整理・分析する。</p> <p>【協働的な学び】 Google Jamboard を用いた協働的な意見や情報収集などに対する整理・分析</p> <p>(4) まとめ・表現</p> <p>班で「どうすればうまく伝わるか」などを明確にしながらPRの構成を考えて、発表や文章作成を行う。</p> <p>【個別最適な学び】 ドキュメントに原稿を記述して提出・フィードバック</p> <p>【協働的な学び】 Google Slides を用いたグループ発表</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>PRのテーマに対して、班で各地域のPR資源を見つけていく。その際、自分たちの興味・関心と地域社会における課題に目を向けながら、自分たちのPRテーマを見つけていく。今後、クラスでPRの場と質疑応答を行うことで、自分たちのテーマの深掘りを行う。</p> | | | |

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

特に思考力・判断力・表現力の育成を目指して、発表や質疑応答などの協働的な学びの中で、相手の話を整理して理解し、自分の考えを筋道立ててわかりやすく説明する力(論理力)を育てることに留意する。加えて、一連の探究活動を通じて、主体的に班内で協働する力(学びに向かう態度)の育成に留意する。以上の認知プロセスとしては内化(個人の思考・理解)→外化(発表・議論・記述など)→内化(振り返り)により、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。

3 学習評価の結果とその分析

【知識・技能】 定期考査、小テスト、リフレクションシート

【思考・判断・表現】 ワークシート、課題レポート、リフレクションシート
授業中の取組状況

【主体的に学習に取り組む態度】 リフレクションシート、レポート
授業中の取組状況

定期考査やレポートで身に付けた知識や、技能について記述する。

レポートや発表などについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。

生徒自身による自己評価を行い、コメントを返すことで生徒が自ら成長しようとする力を後押しする。

ビジネスの見方・考え方を働かせ、地域の良さを知ることを早い段階で授業に組みこみたいと考えていたことから、情報処理の単元「プレゼンテーション」において、タブレットPC とアプリを活用して授業実践を行った。本校では、学びの充実を図るための工夫として、地域を教材化し教科間の関連性や系統性を持たせる学習活動に取り組んでいる。観光大使として観光PRを企画するテーマを設定し、地域資源の歴史や文化を調べることにより、自分が住んでいる津山の魅力発見の動機付けとなり、教科横断型の学びとなった。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 岩手県 | 学校名 | 岩手県立盛岡商業高等学校 |
| 科目名 | プログラミング（1年次：2単位） | | |
| I C T機器 | タブレットPC（1人1台）とアプリ「Microsoft Teams」「Web用word」 | | |
| 単元名 | ハードウェアとソフトウェア | | |
| 単元目標 | コンピュータの構成や仕組み、データ構造や数値・文字の表現方法を学ぶ | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 問題を自分でつくることは、その問題の解決方法を考えるだけでなく、問題の構成要素や仕組みを考えなければならない。問題をつくること自体が、生徒の主体的な活動になる。また、問題をつくることにより、基礎基本がしっかり定着し、生徒は既知の知識を有機的に結び付け、体系的に理解するようになる。さらに、良い問題をつくるためには、問題文の表現にも気を配る必要があり、表現力の向上にもつながる。【個別最適な学び】</p> <p>(2) 情報の収集 4人グループで1つの問いに対して正解だと思われる文章をそれぞれ1人が1つずつ作成する。その際、教科書の解答だけではなく、インターネット等も活用し、問題を多角的に分析する。その後、解答を持ち寄ってグループで吟味し、どこをどう間違えるようにすればよいかを考え、3つの誤答を作成する。その際、誤答については解説も作成する。【協働的な学び】</p> <p>(3) 分析・整理 「Web用word」に問題文と選択肢、解答と解説を入力し、「Microsoft Teams」に提出させる。完成したテストは全員に配布し、解答させる。また、各問いごとに正答率のグラフを作成し、間違いやすかった設問を分析する。【個別最適な学び】</p> <p>(4) まとめ・表現 グループごとに、「ポイントは何か」「どうすればうまく伝わるか」などを明確にしなが問題構成を考えて、作問の発表を行う。【協働的な学び】</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 あらかじめ生徒を数人のグループに分け、生徒はグループごとに出題単元を検討した【協働的な学び】。それぞれが問いに対しての最適解を考え【個別最適な学び】4択の問題を作成する。ここでは問題文とその解答を作成するだけでなく、解説もあわせて作成した。【協働的な学び】作成した問題は、他のグループに公開し、相互に評価した。【協働的な学び】 問題の公開にはMicrosoft Formsを活用した。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 思考力・判断力・表現力の育成を目指して、1問1答形式で単純な知識を図る学習ではなく、自ら考え、他者の意見による模範解答の修正、自らの考えを発表するなかで、協働的な学びとなるよう意識した。他者の考えや価値観を共有しなければ、グループで問題を完成させることが難しいため、グループ内でよく話し合いながら作業を進めることで、個別最適な学びから協働的な学びへと発展させるように授業を進めた。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：定期考査やレポートでどのような知識や技術を学んだか記述させる。 思考力・判断力・表現力：レポートや発表などについて相互評価やグループ内評価を行う。 主体的に学習に取り組む態度：インターネット等も活用しながら教科書の解答だけでなく、さまざまな角度から問題に対してアプローチして解答を作成しようとしている。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 島根県 | 学校名 | 島根県立松江商業高等学校 |
| 科目名 | プログラミング 情報処理科2年 5単位 必修 | | |
| ICT機器 | 教材提示装置、CAIモニター | | |
| 単元名 | 第3章2節配列の利用 5配列による並べ替え | | |
| 単元目標 | 並べ替えのアルゴリズムが理解できたか | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

- 隣接交換法 1時間 (本時)
- 基本選択法 1時間
- 基本挿入法 1時間
- 様々な方法 2時間

2 実践内容

(1) 授業概要

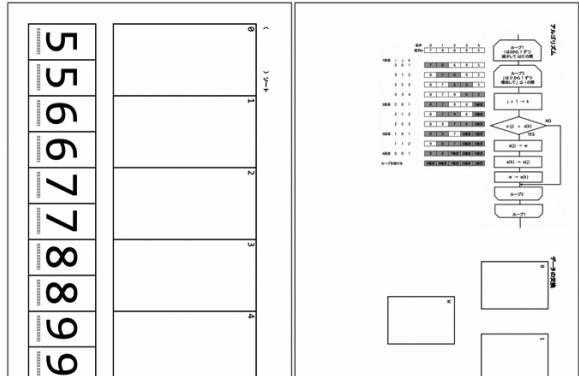
並べ替えの学習は、ループ端子が入れ子となり理解するのが難しい。その過程を、トランプを用いて、体験して理解できるように工夫している。この授業は、並べ替え、順位付けの単元で、平成26年から毎年実施している。令和3年度については、コロナ禍でリモートによる受講、他校で実施ができるように、教材の開発、ビデオを作成した。ビデオをCAIモニターで視聴し、同じ方法で並べ替えを行う。二人がペアとなり、一人がトランプを動かし、もう一人が正しいか確認する。その後、教材を用いて、アルゴリズムを学習する。蛍光ペン、付箋を用いて視覚的に理解しやすいように工夫している。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

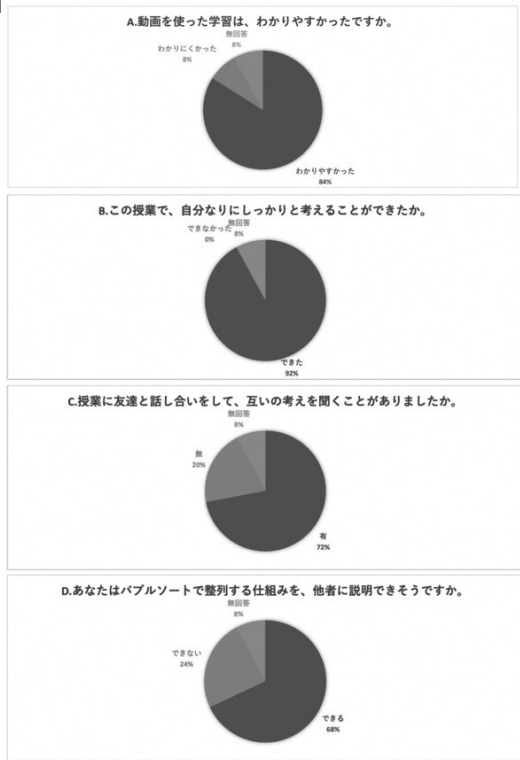
思考力・判断力・表現力の育成を目指している。ビデオを事前に視聴(予習)、授業後何度でも視聴(復習)すること、ペアによる学習活動により、個別最適な学びと協働的な学習の融合する探究活動を推進する。

3 学習評価の結果とその分析

他校で実施の際に、アンケートを実施した。動画を使った授業は概ねわかりやすいとの回答を得ることができた。また、新学習指導要領にある、「主体的で対話的で深い学び」についても十分にできているように感じた。記述項目については、「動画だと何度でも視聴できる」、「家庭でもできる」などと多く記入されていた。ICTを活用するためには、十分な指導も必要であると感じた。こうした取り組みは、教員の不足、若手教員の育成にも有効であると感じた。また、教材の作成、ビデオの撮影・編集をするには、かなりの時間が必要であることがわかった。



アンケート結果 (情報科学 : 回答数25人)



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 山口県 | 学校名 | 山口県立宇部商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス情報管理（2年次：3単位） | | |
| I C T機器 | デスクトップパソコン（Windows10） | | |
| 単元名 | ビジネス情報システムの開発 | | |
| 単元目標 | ホームページテンプレートを用いてHTMLとCSSの理解を深め、本格的なWebサイトをグループで構築する（2学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>（1）課題の設定 基礎的なHTMLとCSSをまなぶ。その際、解法ではなく抽象的な問いのみを与えたり、使用するタグのみを指定して自由にページを作成させたりするなど主体的に学ぶ仕掛けを提供する。生徒は各自で教科書やインターネットを使い、自分のペースで問いを進めていく【個別最適な学び】。また、その都度周りとは相談をしてソースコードの確認をおこない自分の進捗を確かめる【協働的な学び】。</p> <p>（2）情報の収集 グループでインターネットを閲覧し、ホームページテンプレートを探す。また、ネットサーフィンをとおして自分たちの作りたいWebページ、自分たちの作ることのできるWebページを設計する【協働的な学び】。</p> <p>（3）整理・分析 テンプレートを使用したWebページを、各グループで各自の役割を決めて作業を分担し開発する。その際、自分の学びの段階に応じた役割をもとに作業をおこなう【個別最適な学び】。テンプレートで使用されているHTMLやCSSを理解することをおして、グループで話し合う必要が生じる。また、誰がどの部分を変更するか情報を共有しつつ合意形成を図る必要がある【協働的な学び】。</p> <p>（4）まとめ・表現 Webページ作成において工夫した点や苦勞した点をグループで話し合い発表をおこなう。【協働的な学び】</p> <p>2 実践内容</p> <p>（1）授業概要（本時） HTMLの基礎的なタグを各自でまなぶ。その成果として自己紹介ページを作成する。その後、基礎的なCSSのプロパティを各自でまなぶ。HTMLとCSSを使用したページを作成する。グループで作りたいWebページを話し合い、それに応じたホームページテンプレートを検索する。テンプレートを変更することによりHTMLとCSSの理解が深まり、また、グループでの活動をとおして協調性やグループでの作業を効率よくおこなう能力を育成する。そして、発表することによりグループで開発した成果物を客観的にみると同時にプレゼンテーション能力を身に付けることができる。</p> <p>（2）個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 HTMLとCSSの知識・技術を身に付け、それをテンプレートに当てはめることとおして思考力・判断力を育成する。また、他人に見せるということを意識することにより表現力を身に付けさせる。さらに、自分たちでタグやプロパティの使い方を検索したり、テンプレートを探して選ばせたりすることとおして学びに向かう態度の向上を図っている。個別最適な学びにより身に付けた知識と技術は各々異なっているため、その特性をグループで調整し各自の役割を全うすることとおして協働的な学びとの融合を自ずと図ることができている。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 知識・技術、および、思考力・判断力・表現力は練習問題や定期考査で評価している。また、学びに向かう態度を含めた総合的な評価として、各グループのWebページ発表を生徒で相互評価しGoogleフォームで集計し公表をおこなっている。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 香川県 | 学校名 | 香川県立高松商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス情報（2年時：3単位） | | |
| ICT機器 | デスクトップPC（1人1台）、アプリ「Microsoft Teams」 | | |
| 単元名 | 表計算ソフトウェアの活用 | | |
| 単元目標 | オンラインで表計算ソフトウェアの活用を有効に使い、協働的に取り組む態度を養う | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) 課題の設定

全商情報処理検定 2 級 ビジネス情報部門の問題を基にした、商品コードや売上数量、単価、売上金額等が入力されたデータと教材（ワークシート）を用いる。生徒は、教材を見ながら表を作成する。この授業では、オンライン上にてグループで共同編集をして、効率的に関数式を利用し表を完成させる。自分の考えや得意な分野を相手に伝え、【協働的な学び】が必要になることを説明する。

(2) 情報の収集

関数式を利用する場合に、わからない関数式は各グループ内にて教科書等で調べる。

(3) 整理・分析

関数式を利用し、表が完成すれば、その表を見てグラフ作成に取り掛かる。そのグラフは、各個人がどのデータを選択し、どのグラフを作成することで閲覧者に的確な情報がわかりやすく伝えられるかを整理・分析する。【個別最適な学び】

(4) まとめ・表現

グループの中でなぜ、そのデータを選択し、そのグラフを作成したかを発表する。そのグラフから読み取れるものは何かを考えて、発表や文章構成を行う。発表や議論を行う場を設ける。

【協働的な学び】



2 実践内容

(1) 授業概要

表計算ソフトウェアの活用では、表の作成には関数式を使用して行う。3人1組のグループになり Microsoft Teams のアプリを使い、オンライン上でグループごとに作業分担をして、コミュニケーションを図り効率的に表の作成をする。終われば、自分のPCにダウンロード（オンライン上でのグラフ作成は限られた機能しかないため）し、表の作成のデータを基にグラフの作成を個人で行う。グラフ作成は、個人がどの情報が必要かを考えさせ選択し、最適なグラフを考えて作成し、印刷させる。【個別最適な学び】その後、各グループで何故、この情報を選択しこのグラフを選択したかを発表させ質疑応答を行い、印刷させた表とグラフを提出させる。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

特に思考力・判断力・表現力の育成を目指して、発表や質疑応答などの協働的な学びの中で、相手の話を整理して理解し、自分の考えを筋道立ててわかりやすく説明する力（論理力）を育てることに留意する。加えて、グループで協働する力（学びに向かう態度）の育成に留意する。個人の苦手な分野・得意な分野を相手に伝えコミュニケーションを図ることで、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術：定期考査や提出物でどのような知識や技術を学んだか記述させる。

思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：提出物や発表などについて評価を行う。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 佐賀県 | 学校名 | 佐賀県立佐賀商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス情報（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | 情報処理室の端末（パソコン） | | |
| 単元名 | データの集計・分析 | | |
| 単元目標 | 表計算ソフトウェアを活用して、さまざまなビジネスの情報を管理、分析し、用務に役立つ合理化や自動化についての知識、技術を身につけさせる | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 統計グラフ佐賀県コンクールへ作品を応募するために、これまで学んできた情報を収集整理する手法や分析する能力、最終的に結論を導き出す一連の活動を行う。</p> <p>(2) テーマを決める（problem） 自分が関心があることについての問題点を洗い出し、テーマを設定する。</p> <p>(3) 調査・整理（plan・data） 調査の過程について計画を立て、データの収集、整理を行い、統計表を作成する。</p> <p>(4) 分析（analysis） 調査した結果をもとにグラフを作成し、そのグラフから分かったことをまとめる。</p> <p>(5) 結論（conclusion） 調査過程や分析から分かったことの結果をまとめ、今後それをどう生かしていくかの結論をまとめる。</p> <p>(6) 発表 完成した作品をもとにポスター発表の形式で、自分の作品について全体の前で発表する。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分の関心事について考え、テーマを設定する。 様々な調査方法について学習し、その手法を用いて調査していく。 (統計オープンデータの活用方法についても学習する) 収集したデータを統計表としてまとめ、分析結果を可視化するためグラフを作成する。 (今まで学習してきた表計算ソフトでの作表やグラフ作成の機能を活用する) 結論を導き出すことにより、表やグラフを作成するだけの作業とならないようする。 作品を発表することにより、自分の調査の周囲との情報共有を図る。 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 「個別最適な学び」としては、一連の学習の進め方については全体で学習をしているので、その後の調査から分析、結論までは個別で学習を進めていくことになる。その際に、教師側が調査手法等の助言を個別に行うことにより、より学習の深化が図れる。 また「協働的な学び」としては、作品制作の一連の過程で、生徒同士が情報交換をしながら作業を進めていくので、他の生徒の調査内容を知ったり、手助けをすることにより、自然と協働的な学びの醸成を図ることができる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>定期考査や定期的なレポートにより、知識・理解等を評価している。また、作品制作を行うため、その完成作品や発表により思考・判断・表現、技能を評価することもできる。1年次より学習してきた表計算ソフトについて、総合的に学習できる単元として有効であると考えられる。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|---------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 宮崎県 | 学校名 | 宮崎県立宮崎商業高等学校 |
| 科目名 | ビジネス情報（2年次：3単位） | | |
| ICT機器 | デスクトップ型PC（1人1台）、ブラウザ | | |
| 単元名 | アルゴリズム | | |
| 単元目標 | プラットフォーム環境のあるサイトを利用し、単元内容を理解しよう | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

アルゴリズムの学習にあたり、フローチャートから学習すると生徒がつまづきやすく苦手意識を持つ生徒が多い。そこで、GIGA スクール構想により、1人1台端末が導入されることから、自宅でも学習が整えられる環境になった。しかし、端末を1台設定するには、時間がかかる。そのため、ブラウザ上で学習できるプラットフォームのあるサイトを利用し、学校での環境と同じ環境で自宅でも学習できるように考え取り組んだ。さらに、Google Classroom を利用して、学習の定着度を測っていく。

2 実践内容

(1) 授業概要

サイトにログインさせ、ブラウザ上で個別にノートにメモを取りながら個別に進めていく。また、そのサイトの進捗をある程度統一するために、期間を設けて行う。授業中に終わらなければ、自宅でサイトを開き学習する。また、単元ごとに Google Classroom を使用して、Google Colaboratory にて課題を配信し、回収したものを Google Classroom 内にあるルーブリック評価にて評価を行う。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

この学習形態として、自宅または学校でも自分のペースで学習をすることができる。指導の個別化としては、一定の目標を設定しつつ、e-learning による方法と一斉授業を組み合わせて指導を行っている。学習の個別化としては、e-learning を行いながら、一人一人の学習ペースを尊重し自らの学習を調整しながら目標達成に向けて行っている。【個別最適な学び】そして、アルゴリズムを繰り返すことで、思考力・判断力・表現力の育成を目指すことができる。また、自分1人で学習を基本的に行うが、級友が理解に苦しむ場面があれば、協働的に対話ができる話しやすい環境を作るよう生徒達に投げかけている。【協働的な学び】

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術：定期考査やノートでどのように知識や技術を学んだか記述させる。

思考・判断・表現：ノートや実習の反復状況を e-learning の学習の蓄積をポートフォリオ評価で行う。

学習評価ルーブリック（労力に追われないよう3段階評価としてシンプルなポートフォリオ評価の例）

| 評価 | B | A | C |
|------|--|--|---|
| 状況 | おおむね満足できる | 十分満足できる | 努力を要する |
| 表現内容 | 学んだ内容を明確にノート記述や科学的な方法（先行研究）で資料を収集したり組み合わせ、学習過程がまとめられている。 | 学んだ内容を明確にノート記述や科学的な方法（先行研究）で資料を収集したり組み合わせ、学習過程が見やすく、わかりやすく、まとめられている。 | 学んだ内容を明確にノート記述や資料を収集が組み合わせ作成しているが、不十分である。 【手立て】ノートや資料収集の進行状況のアドバイスを行う。 |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|-------------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 山梨県 | 学校名 | 甲府市立甲府商業高等学校 |
| 科目名 | アルゴリズム（2年次：3単位） | | |
| ICT機器 | パソコン（1人1台）、スカイメニュー、Excel、PowerPoint | | |
| 単元名 | 流れ図：最大値検索と最小値検索 | | |
| 単元目標 | 既存データから最大値を検索する流れ図を作成する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 問題の解決策を考える</p> <p>授業の導入段階では、問題解決能力を養うため過去に取り組んだ内容を参考にしながら教材プリントの「自分で考える問題解決方法」を作成する。その後、自分が考えた問題解決方法をエクセルシートへ入力し、教員へ提出。提出したものを使いながら、クラス全員にいくつかの解決方法を生徒に提示する。取り上げられた生徒は、自分が考えた方法を全体に説明【協働的な学び】説明後、どの方法が良いかをアンケートフォーム（Forms）を使い、みんなの意見を集約する。集約した結果を参考にしながら授業を展開する。</p> <p>(2) 解決策の具現化（流れ図の作成）</p> <p>問題解決方法が決まった後は、流れ図を作成していく。アルゴリズムを段階的に作成していくために、必要なプロセスごとに区切りオブジェクトを作成する。作成したオブジェクトを組み合わせ、順番を入れ替えることで、流れ図を作成していく。【個別最適な学び】過去に作成した流れ図を参考にしながら作成することで、思考・判断の力を付けさせる。</p> <p>(3) フィードバック</p> <p>各自が作成した流れ図をエクセルシート（共有ファイル）で提出させ、提出されたものを使いながら、流れ図作成の確認をしていく【協働的な学び】</p> <p>最後に自己の振り返りを Microsoft OneNote に記録し自己評価を行う。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時）</p> <p>「じゃんけん大会を実施しその中で1番強い人を見つけ出す」という問題を生徒に提示し、生徒が各自で様々な方法を考える。考えた結果を、Excel 画面に入力する。その画面を教員機で把握をし、いろいろな方法をピックアップする。生徒が入力した画面を全体で共有する。考えた生徒に詳しくその方法や利点などを発表させる。説明後、実際にできそうな方法であるかどうかの検証をしていく。アンケートフォームを使いながら、解決方法の適正を全員で共有していく。問題解決方法の検証では、ロールプレイングも実施しながら、実際に問題が解決されているかを判断していく。また、最適な方法であるかを考える。最終的には、今回作成するアルゴリズムの形に落とし込めるように誘導をしていく。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>課題解決方法を導き出す過程の中で、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。自分の考えを形にしなが、実際に問題を解決することができるかを探究していく。自分の考えを説明することで表現力を育てる。また、自分の考えをまとめていく過程で他の人と相談したり確認したりし協働する力の育成もしていく。最終的には、問題解決方法を流れ図にしていきながら、アルゴリズムの考え方の理解と定着を図り、個別の最適な学びを推進していく。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：小テストや類似の問題を解くことで、基本的な知識の定着の確認を行い、単元テストや定期考査でどのような知識や技術を学んだか記述させる。</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：レポートや発表などについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 新潟県 | 学校名 | 新潟県立長岡商業高等学校 |
| 科目名 | マルチメディア実践 | | |
| I C T 機器 | マルチメディア P C、タブレット（一人 1 台 iPad） 動画編集ソフト（EDIUS）、ビジネスソフト（MS-OFFICE） | | |
| 単元名 | 企業 C M 制作 | | |
| 単元目標 | 地域の魅力ある企業を紹介する 15 秒 C M または 30 秒 C M の企画・撮影・編集・プレゼンテーションといった体験的活動を通じて、各種機器及びアプリケーションの操作技術を学ぶ（第 2 学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「長岡を P R する」という主題を持ち、C M の企画・撮影・編集・プレゼンテーションといった体験的活動を主体的に行う。 <p>(2) 事前学習及び企業情報の収集【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーを習得するため、ロールプレイングを取り入れた学習を進める。 ・取材企業の活動実績や取扱商品の魅力などを複数チャンネルから収集し、ブレン・ストーミング等を用いて、制作 C M のコンセプトやテーマについて協議する。 <p>(3) C M 制作作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通素材で動画編集ソフト（EDIUS）を使った編集作業を学び、発展課題に取り組み、一人一人の創作物を発表し合う。【個別最適な学び】【協働的な学び】 ・グループ毎の工程管理及び作業分担が適切に行われているか指導する。また、作業等が遅れている場合、グループ内で話し合いを設け、作業の改善策を提案していく。【協働的な学び】 <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>7 月 テーマ設定、情報収集、企画会議、絵コンテの作成</p> <p>9 月 動画編集ソフトの操作演習、シナリオ作成、企画プレゼンテーション準備</p> <p>10 月 撮影・編集作業、試作 C M 発表会</p> <p>11, 12 月 企画・絵コンテ等の再検討、再撮影・再編集、C M 完成</p> <p>3 学期に事業報告書の作成及び校内発表会を行う。また、学年末考査後に商工会関係者や協力企業から審査員になっていただき、校外発表会を行う。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>試行錯誤を繰り返しながら、個々で身に付けたビジネススキルとチームワーク力を最大限活かせる制作活動を推進する。また、他者の意見を参考に改善策に取り組む探究活動（再編集作業など）を通じて、生徒の考え抜く力やチームで働く力を育む。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>○知識・技術</p> <p>各種機器やアプリ操作の理解度を図るため小テストの実施や課題を提出させる。</p> <p>○思考・判断・表現、○学びに向かう態度</p> <p>レポートや校内発表などについてパフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---------|---|-----|------------|
| 都道府県名 | 福井県 | 学校名 | 福井県立敦賀高等学校 |
| 科目名 | 電子商取引（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | ノートPCとタブレットPC（一人1台）インターネットショッピングモール「まなびや」 | | |
| 単元名 | 電子商取引のしくみ | | |
| 単元目標 | 電子商取引の意義や役割について理解させ、実践を通して店舗運営能力を高める | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) 課題の設定

社長、社長補佐、営業部、システム開発部をはじめ、各担当に分かれ活動を行っている。電話でのアポイントメントの取り方や名刺の渡し方、説明資料の作成などインターネット上に表示されるまでの過程を全体で学び、次に担当ごとに実践を行っていく。電話や実際に訪問して得た企業の方からの質問や問いかけを後日の授業で共有し、Q&Aを作り、改善して取り組んでいるかどうかを課題である。【個別最適な学び】分からないことがあれば、株式会社まなびやに電話で聞いて学ぶ、または教師による支援を行っている。

(2) 情報の収集

実際に企業に訪問し取材をして情報を得る。また、季節や時期によってページを更新してほしい企業もあるので、最低でも1か月に1回は訪問もしくは電話によるリサーチを行っている。さらに、「まなびや」を先駆けて行っている城南静岡高校の生徒とオンラインで交流し、質問に答えてもらい城南静岡高校の生徒から本校の生徒へ教えてもらっている。



(3) 整理・分析

生徒たち同士で話し合うとともに、【協働的な学び】Google アナリティクスを用いて各企業へのページアクセス数などを調べ、掲示する写真や文章などに改善点がないかを話し合っ企業の方と打ち合わせをしている。

(4) まとめ・表現

城南静岡高校の生徒との交流会を通して、明らかに生徒たちの活動がとても前向きな方向へと変わった。それまでは、やりたいけど恥ずかしさや部活動との両立を理由に行動に移さないことがあったが、交流会をとおして「何事もやってみないと分からないよね」「城南静岡高校に負けたくない」といった感じで、生徒の心に火がついたように活動するようになった【個別最適な学び】トライ&エラーを繰り返しながら進むことを怖がらずに活動している。

2 実践内容

(1) 授業概要

インターネットショッピングモール「敦賀まなびや」を運営するために、「敦賀まなびや」を説明するためのプレゼン資料を作成し、企業に電話やメールでアポイントメントを取り、タブレットと資料を持参し企業の担当者に説明し、質問等に答えていく。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

特に、学びに向かう力の育成を目指して、資料作りやQ&Aづくりなどの協働的な学びの中で、一人で頑張る部分と協力して質問に答えていく一連の探究活動を通して培っていく。また、他者との関わりを通じて新しい人との出会い、新しい発見が生まれる。教育現場を学校の中に限らず、学校を出て地域に足を運び、地域の方々が先生となり、生徒たちに「活きた教育」を提供する。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術：「まなびや」の契約条件を熟知し、説明資料作りが適切に作成されているか確認する。

思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：企業へのアポイントメントの頻度やWebページの工夫やクライアントの要望に答えられているかを確認する。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|-------------|
| 都道府県名 | 長野県 | 学校名 | 長野県長野商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究(3年次:3単位:2020年9月～) 商品開発(3年次:3単位:2021年6月～) | | |
| I C T機器 | PC(グループまたは個人1台)とアプリ(Google Classroom Jamboard Zoom) 電子黒板含めプレゼンテーション設備 | | |
| 単元名 | 演習:地域を支援するための継続的な商品開発の実践 | | |
| 単元目標 | 地域支援のビジョンに基づき、生徒が主体的に学校外の人々と関わりながら、商品を開発し、その成果を地域へ還元する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題設定</p> <p>2019年台風19号による長野市内被災地の状況について、被災者の体験談などをインタビューし、まず個人で調べ、次にグループでまとめ・発表することにより情報を共有し、自分たちは何ができるか(したいのか)、またそこからビジネスモデルを考える。</p> <p>地域復興の支援を目的とし『地域の人々に元気になってほしい』というビジョンを固め、その実現手段として被災地域の特産物“りんご”を使った継続的な商品開発へと学習の視点をつなげる。</p> <p>(2) 情報収集・整理・分析のための環境構築</p> <p>情報源として、県・市・地区など自治体関係者やリンゴ農家、加工生産者との協働関係を築き、方向性を見出しておき、高校生が自ら問いを立て仮説をつくり、ストーリー化して商品開発を進め、マスコミへの公表も含め、発表の場をつくる。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年目は地域商工会、2年目は県地域振興局農業支援センターからの支援を受けた。 ・①教科書により商品の企画・開発を学習し(知識・技術の修得)、②名刺作成、電話対応、挨拶練習などビジネスマナーの実践と確認をする。(協働者との主体的コミュニケーションの準備) ・被災地視察とリンゴなどの生産素材の知識を学ぶため農家体験学習。 ・加工生産者とは、感染症対策でWeb会議も体験した。小集団グループで最初是对応し、後に全体の報告会を実施・情報共有。(エキスパート法により個々へ還元) ・感染症対策もあり、Web会議システムをあいさつや打合せ、試食会などに多用する。 ・開発目標を10月とし、模擬株式会社長商デパート大売出しや本物のデパート等でも自ら販売を実施するとともに、テストマーケティングとして加工生産者の店舗へも販売委託。 ・複数のマスコミ対象に開発商品発表会を開催し、テレビ放映や新聞報道などパブリシティによる販売促進方法を検証した。 ・収集情報をもとに商品のブラッシュアップを進め、1年目は講座全体で役割分担しリンゴ団子を開発、2年目はグループ別商品開発で6つのリンゴスイーツを商品化した。 ・長野県総合教育センター主催2021産業教育MIRAIフェアで発表会に参加。他学科の課題研究発表の場でオンライン発表の体験と同時に、その後の企業経営者等も交えたブレイクアウトルーム上のグループワークでは、メンバーが高校生代表としてGoogle Jamboardを活用した意見交換会のファシリテーターの指名を受けた。 ・農業支援センターの支援により、長野県庁内記者会見場で複数メディアへ商品完成発表会を開催しりんご農家や加工生産者も同席で記者会見を受け、県庁内で直接、顧客対応して販売した。 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>個人の適性があると思われる得意分野を生かして役割を分担させ、プロジェクトチーム内での学びあいによることづくりをしていく中で、主体的な学びの伸長をはかった。</p> <p>高校生の手の届かないところについては、教員のみでなく協力者の技術やノウハウを協働の中で生かし、ことづくりをコーディネートできるように学びの進展をはかった。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術は、定期テストや制作物を評価し定着度を測り、思考・判断・表現や主体性は、記述式回答(小レポート)・発表・制作物や実習活動の観察法により、グループと個人の評価を組み合わせで評価した。受講者全員が主体的に自分の役割を遂行し、各自の自信と相互の信頼をもった取組が表現され、高校生の探究的な学びが地域貢献につながっていくことも実践された。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---------|--|-----|---------------|
| 都道府県名 | 茨城県 | 学校名 | 茨城県立水海道第二高等学校 |
| 科目名 | 課題研究「情報処理」（3年次：2単位） | | |
| I C T機器 | デスクトップPC（一人一台）と「Google WorkSpace」の活用 | | |
| 単元名 | ITパスポート試験(以下、IP)に向けて、その課題解決のための探究方法を学ぶ。 | | |
| 単元目標 | IP受験に向けた、オリジナル問題の作成と解答・解説のプレゼンテーション(パフォーマンス課題)から学びの深化を図る（第1学期） | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) 課題の設定

IP受験に向けた活動で、IPの3分野である「ストラテジ」「マネジメント」「テクノロジー」がこれまで学んだ商業科目とどのような関連があるのかをIPのシラバスを基に考察する。生徒はその考察を基に、使用するテキストや問題集、過去問題、公開問題を参考とした各自10題のオリジナル問題を作成することで、これまでの学びを再確認・再認識することができる。作成したデータは、個人保有の段階から共有化段階を想定して作業を進める。さらに、オリジナル問題の実施後に解答・解説をプレゼンテーションすることで、学びの深化と定着、さらには課題解決能力の育成を目的とする。

【個別最適な学び】個人による問題の作成・提出(Google ドライブ、Google クラウドの活用)と教師によるフィードバックならびに生徒間の相互評価の実施

【協働的な学び】個人が作成・提出したデータを共有化した活用

(2) 情報の収集

オリジナル問題の作成を目標とする上で、試験に関する情報の収集は著作権に留意し、この授業のみでの使用を注意喚起し、徹底させる。情報源が複数の場合はその情報を共有する。

【協働的な学び】Google スプレッドシートを用いたデータベース(索引、リンク集)の作成

(3) 整理・分析

学習者のPDCA分析や「調べる・まとめる・伝える」ことによる活動をとおして、情報収集したデータを、再利用可能なデータベースを作成する視点から整理・分析する。

【協働的な学び】Google ジャムボードを用いた、協働的な意見の整理や情報収集の整理・分析

(4) まとめ・表現

各自がオリジナル問題を解答し、作成者が行う解答・解説のプレゼンテーションをとおして、「なぜその仕組みが必要なのか」「どんな場面で活用されているか」などを理解しながら、作成問題や解答の選択肢が意図することを説明する。発表後はGoogle ミートを活用して質疑応答の場を設け、その回答は聞き手に分かる言葉で表現する。

【個別最適な学び】Google ドライブへのプレゼンテーションデータの提出・フィードバック

【協働的な学び】Google ミート、Google スライドを用いたプレゼンテーションの実施

2 実践内容

(1) 授業概要（本時）

オリジナル問題を実施し、作成者が解答・解説をパフォーマンスする。作成した問題について質疑応答を行う中で、質問者に対して丁寧な説明と分かりやすい表現を心掛ける。他者が作成した問題で不得意な分野については、各々の得意分野を補完する協働的な学びを推進する。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

職業資格の取得は、生徒の進路実現につながる可能性もある。オリジナル問題の作成をとおした一連の作業については、リモートワークを想定し、ネットワーク環境を活用してクラウド上で実施することにより、商業科の目的である「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うこと」とも合致し、学習者相互の見方・考え方を可視化することにもなり、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動につながると確認できた。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術：オリジナル問題の作成や情報の収集方法、パフォーマンス課題から、どのような知識や技術を学んだかをレポートに記述させ、学びをどれだけ深めることができたか評価する。

思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：オリジナル問題の作成や情報の収集方法、パフォーマンス課題について、ルーブリック評価やパフォーマンス評価を行う。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|----------------|
| 都道府県名 | 北海道 | 学校名 | 北海道苫小牧総合経済高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：2単位） | | |
| ICT 機器 | スマートフォン(BYOD) iMac MacBookPro FujitsuLifeBookU Series MaxHub EB-1485FT(壁掛けプロジェクター) ホワイトボードスクリーン PowerEggX(ドローン) DJI Pocket2(アクションカメラ) Insta360 One X2(アクションカメラ) CanonIosKissX10i(デジタル一眼レフカメラ) SONY FDR-AX700(デジタルビデオカメラ) BlackMagicAtemMiniExtremeISO(スイッチャー・ビデオキャプチャ) | | |
| 単元名 | 地域魅力発見動画の作成 | | |
| 単元目標 | クロマキー合成技術を活用しながら地域魅力発見動画を作成する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 「次世代観光を担う人材育成」をテーマとして調査研究班を組織し、学習活動を展開している。オンライン双方向バーチャル観光を最終目標と捉え、そこに向けたステップや課題を議論する。「地域の観光資源をPRする動画を配信する」ことを当面の目標として設定し、単純に編集した映像を配信するだけでなく、地域の観光資源をVTRにまとめ、その映像と生徒MCをクロマキー技術により一つの映像として合成し収録を行う。【協働的な学び】Google Jamboardもしくは壁掛けプロジェクター・ホワイトボードスクリーンを使用した協働的な意見出し</p> <p>(2) 情報の収集 地域の観光資源にはどのようなものがあるのかSNSを活用し広く情報を収集・共有するほか、観光資源の掘り起こしを行うため苫小牧市産業経済部産業振興室観光振興課や苫小牧市観光協会などへの取材活動を行う。また、一般市民に対して地域観光に関する興味・関心についてSNSを活用したアンケート調査を展開する。映像収録では「MC」「カメラ操作」「PC操作」「スイッチャー操作」等、生徒ひとり一人の役割が異なることから、個別の準備として、本番を迎えるまでに役割や専門的知識を習得する。併せて日常的に観光資源の開拓を意識した生活を送り、景色や観光地をスマートフォン等で撮影する。【個別最適な学び】地域の観光資源についてのリサーチとGoogle Classroomを用いた情報の共有、機器操作について理解を深めるためWebやYouTube等を活用した準備、日常的な情報収集活動</p> <p>(3) 整理・分析 観光資源の候補から視聴者が興味を持つと予想される観光地とその理由を考察する。観光地への取材を行い動画・静止画素材を収集する。観光地ごとの短編動画を作成しSNSに公開すると同時に、どの動画に興味を示すのかアンケート調査を行う。更に投票数の多い観光地の動画を優先して制作し公開する。収録本番を想定したリハーサルから、機器操作についての確認を行い、リハーサルVTRを視聴しながら問題点を洗い出し、改善点を討議する。【個別最適な学び】VTRの編集作業【協働的な学び】MaxHubの画面共有機能を使用したリサーチ結果の分析、リハーサルと振り返り</p> <p>(4) まとめ・表現 収録本番では収録の様子をオンラインで外部講師に観察して頂き、改善点を指摘していただく。プロの視点からのアドバイスにより内部での反省や自己満足に終始せず、個々に磨いた資質・能力をさらに高める向上意欲を持つ。作品の工夫・改善を図ることに繋がり、より充実したコンテンツ制作に結び付く。一つの作品を仕上げることで、生徒に達成感や成就感を感じさせることができ、チームとしての連帯感・結束力も向上する。各種知的財産権に配慮した上でオンラインに作品を配信する。【個別最適な学び】配信された動画の視聴とGoogleFormを使用した振り返り【協働的な学び】地域魅力発見動画の作成と配信、振り返りの情報共有</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 収録している現場の様子についてMaxHubとzoomを活用し、映像クリエイター(外部講師)にリアルタイムで観察・助言して頂く。収録した映像についても後ほど視聴頂き、改善点について指導頂く。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 個別に収集した情報や知識をチーム全体で共有し、多くの選択肢の中から最適解を選択するための討議を通してお互いを尊重し合いながら自分の意見を伝える思考力・表現力の育成を図る。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：各種機器操作に対する知識、収録本番の進行がスムーズであったか等を評価する。 思考力・判断力・表現力：Jamboard Classroom Formの記載内容や討議の中で果たす役割や発言内容、作品制作の過程で果たした役割等を評価する。 学びに向かう態度：自分に与えられた役割を果たせたか等、チームへの貢献率を評価する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 青森県 | 学校名 | 青森県立青森商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | P C・Androidタブレット（1人1台）・Androidアプリ作成ツール「MIT App Inventor 2」 | | |
| 単元名 | 地域情報発信アプリ開発 | | |
| 単元目標 | グループで協力し合い、地域情報発信アプリを完成させよう（通年） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>地元PRのためのAndroidアプリを制作する。完成後、他県高校生と発表会を行う。</p> <p>生徒は、PRする各分野に割り当てられたページを作成する。日本語表記のブロックタイプの開発ツールは使用しやすいため、生徒は自学でのアプリ開発が可能である。各自のプログラムが完成した後結合し、アプリ化する。アプリの動作や内容について、グループで話し合い改良を重ねる。完成後、他県の高校生とZOOMによる発表会を行い意見交換する。</p> <p>【個別最適な学び】個人によるプログラム作成・提出と教師によるフィードバック</p> <p>【協働的な学び】プログラムの結合・アプリ化とグループミーティング及び他県高校生との発表会</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>高校生視点のPR内容調査を目的としたアンケートを実施。RESASによる課題収集。開発ツールの情報収集及び活用。</p> <p>【個別最適な学び】個人の開発状況に応じた情報収集・地域経済分析システムRESASの活用</p> <p>【協働的な学び】Google Formsを用いたアンケート収集</p> <p>(3) 整理・分析</p> <p>アンケート結果をスプレッドシートで共有。RESASによる地域課題と合わせてグループミーティングで内容を整理・分析し、アプリ内容を決定する。</p> <p>【協働的な学び】Google Forms・スプレッドシート・RESASの活用</p> <p>(4) まとめ・表現</p> <p>個々が制作したプログラムを結合し、アプリ化する。グループミーティングの意見をもとに改良し完成させる。他の生徒に使用してもらい、改善を図る。ZOOM発表会でアプリ完成までの一連の過程等がうまく伝えられるようポイントを明確にしなが資料を作成し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>【個別最適な学び】プログラム及び開発内容のドキュメントの提出・フィードバック</p> <p>【協働的な学び】プログラム結合・発表資料の作成・ZOOM発表会</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>個々にプログラミングしたものを結合してアプリを完成させ、その分析・検証を行う。また、開発過程や完成アプリの構成等について発表会を実施し、他県高校生と意見交換を行う。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>特に思考力・判断力・表現力の育成を目指す。個々のプログラム開発やPR内容の情報収集・分析・活用（個別最適な学び）において発生する課題や問題に向き合って解決する力を育てることに留意する。さらに、他者と協力しながらアプリ制作と発表を行う（協働的な学び）ことにより、思考力・判断力・表現力をより高める。一連の探究活動は他者との関わりにより積み上げられ実現されるものであり、学びに向かう力の育成にもつながる。授業においては、他者の意見を否定せずに受け入れ、遠慮なく議論を交わせるミーティングを実現するとともに、その結果を全体にフィードバックする流れをつくり、個別最適な学びと協働的な学びを融合させる教育活動を展開する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：成果物の内容やレポートの記述による評価</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：成果物やレポート、発表などについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 岩手県 | 学校名 | 岩手県立遠野緑峰高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位のうち2単位） | | |
| ICT 機器 | タブレット型PC（1人1台）「Microsoft Office」スマートフォン | | |
| 単元名 | 「課題研究」（2年次）の伸張として、その探求方法の一つを実践する | | |
| 単元目標 | ふるさと納税返礼品の登録をとおして、地域財政に貢献しよう（後期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 「課題研究」（2年次）でのマーケティング・ビジネス経済、会計、情報処理各分野に分かれた調査・研究・作品制作等の伸張、応用と、租税学習、地域行政の参画を念頭に、ふるさと納税返礼品の登録をとおして既成と違う角度からの本校の情報発信について研究する。【個別最適な学び】個人によるWeb ページ原稿作成</p> <p>(2) 情報の収集 ふるさと納税返礼品として登録する本校生産技術科の農産加工品を決定する。遠野市当局より講師を招き講習を受ける。【個別最適な学び】スマートフォンによる農産品画像撮影等の素材収集【協働的な学び】農業科教員へのインタビュー【協働的な学び】遠野市ふるさと納税担当職員の講義</p> <p>(3) 整理・分析 グループ毎に個人のWeb ページ原稿を整理・分析する。【個別最適な学び】【協働的な学び】教室LAN の共有フォルダとMicrosoft OneDrive の保存とMicrosoft Teams の投稿による整理・分析と情報共有</p> <p>(4) まとめ・表現 研究報告書とプレゼンテーションソフトのスライドを各人が作成し、グループ毎にまとめたものを発表する場を設ける。【個別最適な学び】【協働的な学び】主としてMicrosoft Word による報告書、Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成と校内プロジェクト発表会での授業実践報告</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 地元 ICT 企業の社員を講師として授業を展開する。本校の生産技術科で生産した農産加工品をふるさと納税Web サイト「ふるさとチョイス」に登録することで情報発信の新たな一つ的手段とする。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 情報発信の観点から特にも表現力の育成を重視して、登録する農産品の選定とそれに向けた農業科教員へのインタビューや遠野市商工労働課の担当者の講義により学んだ内容を、個人およびグループのWeb ページ原稿作品に網羅することで、個別最適な学びと協働的な学びの融合を目指す。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>思考力・判断力・表現力：Web ページ原稿内容とその作成に用いられる ICT 機器やネットワークの利用について評価する。</p> <p>知識・技術：毎時間の日誌を作成させ、講師より学んだ内容の記述を評価する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--------------------------------|-----|-------------|
| 都道府県名 | 福島県 | 学校名 | 福島県立平商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | パソコン・タブレット・スマートフォン | | |
| 単元名 | 地元の農産物を使用した開発商品及び商品のコンセプトを決定する | | |
| 単元目標 | 開発商品のコンセプトを決定する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 地域の問題点を調査し、地域に対する理解を深めるとともに、課題解決に向けての商品の開発について、地元の小売店、メーカー、行政の協力をいただき、企業の方等からの実践的な授業も交えながら、商業の各分野の学習で身に着けた知識、技術などを発揮し、開発商品及び商品のコンセプトを決定する。 【個別最適な学び】 個人によるワークシートの作成・Google Classroom への提出</p> <p>(2) 情報の収集 行政の方から地元が抱える問題、観光や地元の農産物についての講話をいただく。また、アンケート調査や自らのスマートフォンにて情報の収集を行う。地元に対する理解を深めるとともに、グループにて地域の問題点を共有し、課題が解決できる商品及びコンセプトを検討する。 【個別最適な学び】 個人によるワークシートの作成 【協働的な学び】 Google Forms を用いたアンケート集計</p> <p>(3) 整理・分析 グループで収集した多くの情報をワードクラウドを用いて整理する。また、連携いただいた企業や行政から実践的な意見をいただき、多様な視点から分析を行う。 【協働的な学び】 ・ワードクラウドを用いた情報収集に対する整理・分析 ・Zoom を用いて学校と企業・行政とのオンライン授業</p> <p>(4) まとめ・表現 グループにて地域の課題解決に向けた開発商品・商品のコンセプトを決定し、講座内にて発表を行い、全員で共有する。発表は、協力いただく小売店、メーカー、行政や先生方なども出席し、多くの方に発表に対する意見をいただき、開発商品を具体化していく。 【協働的な学び】 PowerPoint による発表資料の作成・発表</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（一連の授業の内容） 地元の企業・行政等の協力を得て、地域の課題解決に向けての商品の開発に取り組む。企業・行政等の方の対面での実践的な講義だけでなく、Zoom でオンライン講義もいただき実施する。市場調査、企画、開発、販売、検証と商品開発のプロセスを学び、4P分析等を行う。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 自らの考えを持ち、集団の中でも自らの意見を伝えることのできる、また他者の意見を自らの活動に活かすことができる力（個別最適な学び）と、協働することにより様々な意見を持って課題解決ができる力（協働的な学び）及び地域に貢献できる人材の育成を、課題研究の実践的・体験的な活動を通して行いたい。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能：地域を理解し、商品開発の意義をワークシートにまとめ評価する。 ・思考力・判断力・表現力：レポートや課題、発表などのパフォーマンス評価を行う。 ・主体的に学習に取り組む態度：グループ内での自らの役割を理解し、協働的に活動しているかを評価する。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 千葉県 | 学校名 | 千葉県立東金商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC(一人一台) アプリ「office365 (Teams, Forms), Illustrator, Twitter 他」 | | |
| 単元名 | 調査研究 (SDGs について) | | |
| 単元目標 | Eco(え〜こ)東商(としょう)プロジェクトの設立 ～Choose my life 私たちの選択がより良い街をつくる～ | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 SDGsに取り組み、ボランティアや寄付ではなく、事業を行いながら社会や地球環境の改善につながるような持続可能性を重視したビジネスモデルを探求する。 【個別最適な学び】 グループウェア (office365) による課題の抽出、様々な発想法のフレームワーク (ブレインストーミングやマンダラート等) を利用した対策案を情報共有し、教師によるフィードバックを行なう。</p> <p>(2) 情報の収集 環境問題に取り組むため、「Eco 東商プロジェクト」を設立し、東金市をPRする紙ストローの企画に取りかかる。紙ストローのデザインを考える際、生徒たちに各種 SNS の分析手法 (SNS マーケティング) を指導する。アカウント運用分析やクチコミ分析を行い、一般ユーザーの声を知ることで確かな施策へ繋げるよう支援する。 【協働的な学び】 Twitter や Instagram・・・「アナリティクス」「Instagram インサイト」という分析ツールを使用。</p> <p>(3) 整理・分析 収集した情報を多様な視点から整理・分析し、東金市のイメージとして認知度の高い、「桜」と「ぶどう」の2種類のデザインを2グループに分かれて制作するよう指導する。その際、商業デザインについて留意させ制作に取り組ませる。 【協働的な学び】 Illustrator を用いたデザイン制作。</p> <p>(4) まとめ・表現 市役所が企画している「東金市青少年まちづくり活動」という企画審査会に参加し、Eco 東商プロジェクトのプレゼンテーションを行なう。 紙ストローの生産を外部委託し、紙ストローの無償配布、広報活動・PR活動を行なう場を設ける。 【個別最適な学び】 ビジネスマナーを指導後、最寄りのパーキングエリアや道の駅などで無償配布、広報活動・PR活動を実施する。 【協働的な学び】 office365 (PowerPoint) を用いたスライド作成と発表。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 SDGs や紙ストローなど、社会が注目している社会活動について商業教育を学ぶ生徒たちが、実学の中かで変化の激しい社会や Society 5.0 に対応し、積極的に企業活動へ取り組めるよう指導する。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 一覧の活動を通し、地域に目を向け、地元の課題に総合的・実践的に取り組むことで、問題解決能力の育成やコミュニケーション能力の育成、また自身のキャリア教育に繋げる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 SNS やアンケートにより「内部評価」と「関係者評価」を実施し、検証を行った。多くのお客様からは、紙ストローに対しての肯定的な意見を多数いただいたが、製作コストが高く、多くの飲食店で使用していただくためには課題もあがった。今後も東金市と連携した継続的な普及・啓発活動に取り組む必要がある。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 千葉県 | 学校名 | 千葉県立君津商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：2単位） | | |
| I C T機器 | 生徒が所有するスマートフォン | | |
| 単元名 | 作品制作 | | |
| 単元目標 | 部活動を紹介する動画を作ろう（2学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>1学期は、動画編集アプリの操作技術の修得を目指し、自己紹介の動画を作成した。</p> <p>2学期は、数人でのグループを作り各部活動の顧問や部員の協力を得ながら、部活動を紹介する動画の完成を目指す。使用するアプリは、各グループに選択させ1学期に使用したアプリを使う生徒もいれば、グループ内での話し合いにより、新たなアプリを使用して作成したグループもあった。動画を作成することはもちろんのこと、各部活動との連絡・調整やグループ内での作業分担や計画も事前に提出させ、完成までのプロセスをしっかりと考え行動に移すよう指導した。</p> <p>【協働的な学び】動画作成の計画書</p> <p>(2) 情報の収集</p> <p>アプリを使っの編集方法や操作技術についての説明に加え、インターネットを活用し動画サイト等による操作技術を各自で調べ必要に応じて取り入れた。</p> <p>【個別最適な学び】課題研究日誌や作業確認</p> <p>(3) 整理・分析</p> <p>作成過程で、各部活動に中間報告を行い各部活動の意見や要望を取り入れ、作品の完成を目指す。また、作業の計画についても見直しを行い自分たちの作りたい動画と、各部活動の要望する動画との調整を図る。</p> <p>【協働的な学び】動画作成の計画書、課題研究日誌や作業確認</p> <p>(4) まとめ・表現</p> <p>完成した作品を各部活動に報告し評価する。また、講座全員で鑑賞し合い動画に加え取り組み状況を評価する。</p> <p>【個別最適な学び】自己評価表</p> <p>【協働的な学び】作成動画の評価表（他者評価等）</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>授業の時間では、各自持ち寄った素材（写真や動画）の編集に多くの時間を費やした。授業に取り組む以前に、各部活動の活動している様子を見学に行き素材を集める必要がある。また、他校の動画やインターネット等によりさまざまな動画を見ることで、動画の構成や編集方法を学んだ。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>各自の好みもあるが、相手の要望に合わせることも必要になる。自分だけが満足する作品から、みんなが満足する作品へと調整することで、多くの気づきや学びが生まれる。また、チームで作業するため、組織の一員として協力する必要がある。自分だけで作業するのではなく、目的を共有し作業の段取りを考え取り組む必要がある。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>作成した作品を講座の全員で相互評価をする。また、作成段階のプロセスや連絡・調整や取り組み・態度等は、担当の部活動顧問に依頼して評価をする。自己評価に加え、グループ内での相互評価も加え総合的に評価する。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 東京都 | 学校名 | 東京都立葛飾商業高等学校 |
| 科目名 | 3年次 課題研究（3単位）及び 総合選択A「ビジネスデザインⅡ」（2単位） | | |
| ICT機器 | デスクトップPC、ペンタブレット、プロジェクター、書画カメラ、スマートフォン、デザイン制作ソフト（Illustrator、Photoshop）、Web会議ツール（Teams、Zoom等） | | |
| 単元名 | クライアントの要望に応じた作品制作を实践する | | |
| 単元目標 | コンテンツ制作に関する実践的な知識と技術を習得し、デザインの目的を理解し、アイデアを形にし、作品に反映させる態度を身につける そして、クライアントの要求に応じたデザイン制作のための企画・提案を行う | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

- ① スケジュールの確認
- ② コンテンツ制作に関する実践的な知識と技術の習得【個別最適な学び】
- ③ クライアントの要望を理解し【協働的な学び】、情報収集・整理・分析【個別最適な学び】
- ④ テーマやスローガンに沿ったデザインを制作【個別最適な学び】
- ⑤ クライアントへデザインの提案（プレゼン発表）【協働的な学び】
- ⑥ クライアントからのさらなる要望に応え、デザインの改善【協働的な学び】
- ⑦ クライアントへの納品【協働的な学び】



2 実践内容

(1) 授業概要

クライアントの要望に応えたデザインの制作を学習活動の目標としている。この目標達成に向けて、書籍・雑誌のほか、DVDやYouTube等でプロとしての仕事の流儀、モノの見方や考え方、デザインの手法などといったコンテンツ制作の実践的な知識や技術を学ぶ。訪問時のマナーやヒアリングの仕方などの事前指導を行い、打ち合わせに参加する。テーマやスローガンの設定は、会議の場で決定するため、クライアントの要望等を把握しておくことも必要となる。打ち合わせ後は、さらなる情報収集・整理・分析を行った上でデザインを考案する。数パターンのデザインについてプレゼンし、クライアントの要望が最も反映されたものを選択していただき、他者からの相互評価を受けて作品の改善を図り、期日までに納品を行う。また、コロナ禍における状況下では、Teamsを活用したオンライン授業や課題等の提示を行い、クライアントとの打ち合わせにZoom等を活用してきた。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

単元初回の授業では、作品完成までにスケジュールを確認、毎回の授業導入時に短編動画視聴と感想メモの記録、授業終了の5分前に活動報告の記録による振り返りを行っている。これらにより、生徒が1つの課題や作品制作に対して、先の見通しを立て計画的な制作活動が可能となっている。また、教員側でも生徒の学習到達度や進捗状況を把握でき、計画の見直しに役立てるなど、生徒の主体的に学ぶ態度の評価を行うことが可能となる。さらに、ICTの活用により、クライアントとの打ち合わせをリアルタイムに行い、多様な意見を共有しつつ合意を図ったり、空間的・時間的制約を緩和することによって意思疎通を深めることが可能となり、実践的なビジネスを学ぶことができた。



3 学習評価の結果とその分析

知識力・技術力の向上については、コンセプトシート、レポート、作品により確認し、思考力・判断力・表現力については、制作活動、プレゼン発表などの実習内容から考察し、それらが活動記録とどのように結びついているのかを判断し、主体的に学ぶ態度の評価としている。そのため、授業内でのやり取りにICTを活用し、現在の状況を把握することで振り返りができ、主体的に学びに向かう態度の評価としている。

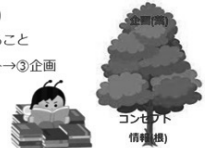


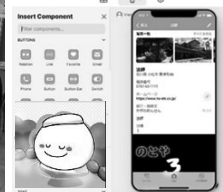



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|-----------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 神奈川県 | 学校名 | 横浜市立横浜商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（2年次：2単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（一人一台） | | |
| 単元名 | カタリ場(NPO法人カタリバとの連携事業) | | |
| 単元目標 | 2年生が1年生に「ナナメの関係」の立場から語ってみよう | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 「個別最適な学び」は、プレゼンテーションの練習をタブレットPCで行う。カタリバ職員と1対1の関係でオンラインで行うことで、生徒個々のプレゼンの長所と短所を的確に得させている。「協働的な学び」は、何度もプレゼンテーション練習を、意見交換をグループやペアワークで行うことで、他人の意見を取り入れたり、自分自身の考えを相手に伝えることができるようにさせる。</p> <p>(2) 情報の収集 クラスメートやカタリバ職員及び教員など、色々な関係性の立場の人から意見や感想をもらうことが、生徒個々のプレゼンテーション力向上に対しての大きな情報となる。「個別最適な学び」は ZOOM を用いてのカタリバ職員によるプレゼンテーション研修である。「協働的な学び」については、プレゼンテーション練習をグループやペアワークで数多く実施するプレゼンテーション練習である。</p> <p>(3) 整理・分析 最後に実施する「プレゼンテーション振り返りワークシート」の作成により、1・2年生共に学んだことや気が付いたことの整理を行わせている。</p> <p>(4) まとめ・表現 1年生に「ナナメの関係」から15分間プレゼンテーションを行うことで、「相手の心に火を灯す」表現力を磨くことができるようにさせている。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 生徒自身のこれまでの人生・生活を振り返り、行動や考え方のターニングポイントを振り返えさせる。そして振り返った体験及び経験から得られたことを、1年生に限られた15分間で伝えることができるようにさせる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 アドバイザーと1対1でプレゼン練習をタブレットの活用(ZOOM)で行うことが個々のプレゼンテーション力向上に対して大変効果的であり、加えてプレゼンテーション練習をグループやペアワークで繰り返し行うことで、生徒が自らプレゼンテーション力の向上を探し出せるようにさせることが、この単元の大きな特徴である。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>○知識・技術： 「プレゼンテーション振り返りワークシート」でプレゼンテーションに対してどのような知識や技術を学んだかを記述させている。</p> <p>○思考力・判断・表現力・学びに向かう態度： 1年生にもアンケートを実施している。2年生によるプレゼンテーションの長所・短所を記述させており、1年生にも受け身にならないよう心掛けている。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 富山県 | 学校名 | 富山県立富山商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C（個々の1台、グループ1台）とアプリ（Google Workspace for Education） | | |
| 単元名 | 地域創生における都市養蜂の方法と蜜蜂の生態について | | |
| 単元目標 | 地域創生に向けた取り組みの一環として都市養蜂手法のマニュアルを作成し、地域活性化の効果を学ぶ | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 地域創生としての都市養蜂をとおして、その有効性について考える 学校養蜂で培った知識・技術を活かし、街中の公共施設において都市養蜂を職員の方々と共に取り組むことにより、都市養蜂のノウハウや蜂蜜の効果を活かした商品開発を行う意義を学ぶ。</p> <p>(2) 事例調査 都市養蜂を展開している事例をタブレットで調べ、各都市養蜂の取り組みの違いについてグループで話し合い意見をまとめる。また、同時に蜂の種類や生態・特質・危険性と対応策などについて動画検索などにより養蜂可能な蜂と不可能な蜂についてグループで調べ、ワークシートにまとめたデータを提出する。【協働的な学び】（Google Classroom）</p> <p>(3) 養蜂の進め方1（道具の確認と使い方） 養蜂に必要な服装・道具や使い方を調べ、使用上の留意点など、作業時のことをイメージしながら生徒同士が互いに確認し合い、ワークシートにまとめる。【協働的な学び】（Google Classroom）。</p> <p>(4) 養蜂の進め方2（防護服の正しく着用させる） 防護服に着替える際に生徒同士で確認し合い、蜂の行動特性に合わせて防護服を正しく着る。 【協働的な学び】</p> <p>(5) 養蜂の進め方3（巣箱の設置環境と設置場所） 巣箱の設置場所について外部講師（富山県養蜂協会）の方に日当たりや日常の風向き・風力・外敵など、検討内容について講習を受け、その内容についてまとめたワークシートを各生徒が個別に提出する。【個別最適な学び】（Google Classroom） 現地の養蜂環境の特徴と日本蜜蜂の生態とを関連付けて整理し、理解しているかを確認する。また、事前に購入した日本蜜蜂はこの時点で巣箱に移すことを忘れない。 また、講習内容についてタブレットを用いて動画や静止画に記録し、現地確認用の記録データとして保存させることにより、留意点について再確認できるよう工夫点して取り組めるよう指導する。</p> <p>(6) 養蜂の進め方4（蜜蜂の世話） 一枚の巣枠の状態をタブレットに記録する。巣枠についている蜜蜂の数や巣枠の内部（ハニカム部分）に蜜が溜まっている状態を確認し、蜂蜜が埋まっている場合は、巣箱に巣枠を追加する。</p> <p>(7) 一週間に一度、巣箱の状態を確認し、①蜜蜂に変化、②分蜂の有無、③巣枠の状態、④巣箱周囲の清掃などについて確認し、タブレットをもちいて記録させる。【協働的な学び】</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 地域創生の取り組みとして、公共施設の職員と共に行う養蜂活動が地域に果たす役割について探求し、養蜂活動や採蜜で得た蜂蜜を使い開発した商品が、地域社会の経済活動に与える効果について仮説を立て、検証を行うことを理解する。蜂の種類や特性を調べ、養蜂可能な蜂（蜜蜂）と養蜂できない蜂について詳しく調べ、タブレットを使いレポートにまとめて提出させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 今まで商品として消費していた蜂蜜について、生産者側の立場に立って蜂蜜が消費者の手に届くまでに行われている一連の活動を地域の人々と共に主体的に取り組むこと（協働的な学び）で、ビジネスの可能性を学ぶ。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：都市養蜂活動や実施に関わる知識や技術について学んだ内容をレポートに記述させる。 思考力・判断力・表現力・学び向かう態度：タブレットにより提出されたレポートや主体的に活動に取り組む態度から、ルーブリックを活用したパフォーマンス評価をおこなう。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 石川県 | 学校名 | 石川県立小松商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究 履修学年：3年、単位数：3単位、履修形態：必修 | | |
| ICT機器 | iPad、ChromeBook、大型ディスプレイ、プロジェクター、スクリーン | | |
| 単元名 | 【課題研究：研究内容】アプリ開発による地域活性化 | | |
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の観光資源を調査・現状把握を行い、地域観光ビジネスに対する課題を解決できる人材の育成。また、地域の魅力を発信できる ICT の活用能力を養う | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定</p> <p>アイパブリッシング株式会社社長の福島様をお招きし、IT 社会に活躍する人材、また地元経済の活性化に貢献する人材の考え方、ビックデータを利用できる力、ICT を運用できる力の必要性と方法を学ぶ。その後、探究活動のテーマに対して、広く浅く多くの情報収集を行い、仮説を立てて考える。</p> <p>・課題解決するためには真の課題を見つけることが大切 ・F(事実) A(分析) O(意見) ・情報収集は広く浅く調べること ・①情報収集→②コンセプト→③企画</p>  <p>【個別最適な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート・個人によるワークシート (GoogleDrive 上) 作成・提出と教師によるフィードバック <p>【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> Zoom を用いた会議や Googlechat を用いた質疑応答 <p>(2) 情報の収集</p> <p>①インターネット検索、②アンケート調査、③図書館、④フィールドワークの4つの方法で情報収集を行い、その中からいくつかピックアップして、トヨタ式5つの WHY 法にて、真の課題探究を行った。</p> <p>【個別最適な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート・個人によるワークシート (GoogleDrive 上) 作成・提出と教師によるフィードバック。 GoogleForm を用いたアンケート収集  <p>(3) 整理・分析</p> <p>調べた内容をもとに、栗津温泉協会・旅館の方・企業の方々と共に、意見交換会を行った。そこでは、旅館ならではの意見や、地元の方々の想い、そしてビジネス展開の構想などをお聞きすることができ今後の連携の方針の確認をすることができた。</p> <p>アプリ開発に向け、写真、動画の撮影など素材収集を行いアプリの開発を開始した。</p> <p>【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> Google グライドを用いたアプリ開発 Googlejamboard による協働的な意見や情報収集などに対する整理・分析   <p>(4) まとめ・表現</p> <p>中間発表ではパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでの反省点や課題をもとに「どうすればうまく伝わるか」などを学ぶため、ホスピタリティマインドの習得に向け、地元で1300年の歴史を持つ法師の方に、サービス業の心得、ホスピタリティマインド、所作などを学ぶ。また、発表に向け、北陸大学の杉森先生をお招きし、PowerPoint を利用し発表の仕方も学び、発表会を行い、発表後フィードバックを行う。</p> <p>【個別最適な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> GoogleDocument で論文を記述して提出・フィードバック <p>【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> Googleslide を用いた発表・フィードバック    | | | |

2 実践内容

(1) 授業概要

本校では、観光ビジネス基礎（2年）・観光ビジネス演習（3年）【学校設定科目】とプログラミングの学習を活かして、地元温泉街が抱える課題を温泉協会や地元企業の方々と協力して分析し、その課題の解決に向けて、地元温泉街や観光資源のPRのためのアプリ開発を行うこととした。コロナ禍における観光業界への影響は大きく、観光客が旅行できない状況を踏まえ、「より詳しく」「旅行した気分を味わえる」をテーマに、バーチャル旅行動画や疑似体験でのプロモーション活動、温泉地や観光地の動画作成、写真紹介やパンフレットの作成を行った。また、情報の非対称性が問われる中、世代にあったPRの方法を考え、小松市を代表する栗津温泉を中心としたツアー企画や光スポットの情報収集など、コロナ禍における観光産業の課題について、高校生の視点で課題を解決するための企画を立案した。これらの活動を通して、アプリの開発や運用ができる能力や観光客に対してホスピタリティマインドをもってサービスを提供できる力を身につけ、地域経済の活性化に寄与する人材の育成を目指している。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

| 観点 | 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------|---|----------------------------------|-----------------------------|
| 評価 規準 | 課題（研究テーマ）の解決に必要な情報、資料を適切に収集、処理することができる。 | 収集した情報、資料を適切に処理し、その成果を総合的に表現できる。 | 問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。 |
| 比率 | 30% | 40% | 30% |

知識・技術の育成に関しては、必要な知識・技術をプロに学び（Zoom 会議や Googlechat での意見交換）、レポートや GoogleDrive 上でまとめさせ、教員からのフィードバックにより自らの学習状況や新たな学習方法を考えられるよう留意する。

思考力・判断力・表現力の育成については、個々に調べた内容をもとにグループ内・地域の方々などと意見交換やパネルディスカッション・発表の場など協働的な学びの中で、相手の話を整理して理解し、自分の考えを筋道立ててわかりやすく説明する力（理論力）を育てることに留意する。

さらに一連の探究活動を通じて、主体的に多様な人々と協働する力（学びに向かう態度）の育成に留意する。

以上の認知プロセスの外化（発表・議論・記述など）と認知プロセスの内化（理解・定着など）の両立により、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術：レポート・個人によるワークシート（GoogleDrive 上）作成・提出の中でどのような知識や技術を学び、実践しているかを評価する。

思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：レポートや発表などについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 福島県 | 学校名 | 福島県立福島商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究・ビジネス情報研究コース（3学年・3単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（1人1台端末）、Office365（Word・OneNote） | | |
| 単元名 | 「第四次産業革命について」レポート輪読会 | | |
| 単元目標 | 第四次産業革命について、さまざまな視点からの理解を深めよう | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 第四次産業革命に関連した内容で、生徒の興味・関心に応じた自由なテーマのレポートを作成させる。生徒はそれぞれ異なる学科の内容を専門的に学んでいるため、これまでに得た知識や技術と結び付けられるように留意する。 【個別最適な学び】個人によるレポート作成と提出（OneNote上）</p> <p>(2) 情報の収集 情報ビジネス科、経営ビジネス科、会計ビジネス科それぞれの内容に関するテキスト、文献およびインターネット。</p> <p>(3) 整理・分析 生徒自身が持つ商業の専門分野の知識に加え、自身が最も興味のあるテーマは何かを中間提出時に考えさせる。【個別最適な学び】教師によるフィードバック</p> <p>(4) まとめ・表現 少人数のグループで、レポートを輪読することにより、作者の結論・主張をじっくりと読み取る。さらに質疑応答により、テーマを深掘りし、第四次産業革命が、ビジネスの世界にどう影響を与えるのかを具体的に話し合う。【協働的な学び】レポート輪読、質疑応答</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 4人のグループを作り、それぞれが作成したレポートを一斉に読みあい、付箋を使った質疑応答を行う。これを4回繰り返した後、話し合いでグループの代表を決め、全体で発表する。テーマを深掘りすることとともに、未知と知識との出会いを大切にすることや、自分との観点の違いを意識させるように留意する。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>① 3つの資質・能力について レポートの作成にあたっては、「思考・判断・表現」のほか、さらにそれぞれが所属する学科で得た知識の活用を促すことで、教科学習と探究活動の往還をさせ、「知識・技術」の活用能力を育成する。グループ活動では、自分が作成した内容を他者に伝える力、他者の意見を取り入れることで自分を客観的に振り返る力（メタ認知）、自分と異なる考えを理解しようとする他者への寛容さ等を育て、「学びに向かう力、人間性等」に結び付ける。</p> <p>② 個別最適な学びと協働的な学びについて 生徒自身の興味・関心からレポートのテーマを作成させることで、テーマと自己との関わりを深めさせ、より独創的なレポートになるように留意した。また、グループ活動の場面では、グループのメンバーを学科やクラスが異なる集団になるようにし、できるだけ自身と異なる視点の考え方に出会えるように工夫した。これによって、個別最適な学びと協働的な学びとの融合を図っている。</p> <p>③ 授業実施上の留意点 他人の発表を聞く姿勢、発表をする際の心構え、言語活動を行う際の基本的マナーは、年度初めに行い、生徒が安心して発言できる環境を整えている。</p> <p>(3) 学習評価の結果とその分析 評価材料として、作成したレポート、輪読会で使用した質疑応答用の付箋のほか、振り返りシートを用いた。振り返りシートでは、この授業をとおして、新たにどのような知識や観点を得たのかを記入させた。そこからは、他者の良い点を見出すとともに、自身の作品を客観的に振り返っている様子が伺えた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 静岡県 | 学校名 | 静岡県立静岡商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C（1グループ2台 合計14台） | | |
| 単元名 | 国内情勢、世界情勢の現況より日経平均株価の変動要因を分析、予測、投資する | | |
| 単元目標 | 選挙前後の価格を比較して、政治（政策）と株価の因果関係を探り、2021年末の株価を予測する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>「株式学習ゲーム」を利用して課題設定の学習実践を実施している。実際の株式市場において、架空のお金を利用して、株式売買を行うことで、企業を知り、経済や株式市場を生きた教材として学習する。経済の動きを捉え株価を予測することで、経済の仕組み、社会の動きについて体験的に学習できる。この授業では、4人1班で模擬会社を作り、各会社で社長を中心にI C T機器を利活用してグループ活動を実施する。デジタル社会に適応する力やコミュニケーション力も育成する。</p> <p>（1）課題の設定</p> <p>本時では「解決したい課題や問い」として以下の2つを設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政権、政策は株価に影響するか。政治と株価に因果関係はあるか。 ・現況の政権、政策、世界情勢を見て、今後、景気が良くなるのか、悪くなるのか、また、2021年末の株価はどうなっているのか。 <p>（2）情報の収集・整理</p> <p>生徒は個人で、実施シート（日経平均株価や主要なニュースなど）を記入する。タブレット端末を使用し、国内外の経済の動きや新聞記事、株価などの情報を収集・整理して個人の考えをまとめる。</p> <p>【個別最適な学び】</p> <p>（3）分析</p> <p>得られた情報は、KJ法、ブレインストーミングなどを活用してグループで共有し、会社ミーティングシートにまとめる。ここでは、個人が毎時間記録してきた実施シートと蓄積されたデータや考えが活かされる。【協働的な学び】</p> <p>（4）まとめ・表現</p> <p>個別、協働、個別の学習を螺旋状に繰り返しながら、今後の経済の動きを予想する。その活動を通して、政治と株価の因果関係を探究し、グループで共有して、全体で発表する。実施シートと会社ミーティングシートを活用して個別活動と協働活動を繰り返し、経済社会の仕組みを学習する。</p> | | | |
| <p>2 実践内容</p> <p>（1）授業概要</p> <p>本時においては「選挙（内閣新体制）と株価」の関係を考えて。</p> <p>生徒は、毎時間記録してきた実施シートと蓄積されたデータ（内化）を各模擬会社に持ち寄り、グループ活動を実施した（外化）。各会社の社長がファシリテーターとなり、意見をまとめた。</p> <p>グループ活動での分析を受けて、今後の経済の動きを予測し、持ち株の見直しと、株価上昇銘柄（企業）を予測し、株式購入の準備を行った。分析内容を各社でまとめて、各社の考え方を他の会社と共有した。共有した内容を踏まえ、実施シートに記入（内化）して個人の考えをまとめた。</p> <p>（2）個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>「対話と思考」を通して、ファシリテーターを中心に個別での学びをもとに身に付けた知識を協働的な活動へと繋げることに心掛けた。ファシリテーターの有効的な活用、付箋等による整理により、生徒は考えが見える化、具体化し、探究活動の充実へと繋げることができた。</p> | | | |
| <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：実施シート</p> <p>思考・判断・表現・学びに向かう態度：会社ミーティングシート、グループ活動での態度、発表等により個々の生徒を見取り、授業を通じた学習評価を実施することで生徒の人間的な成長につながる成果を見ることができた。</p> | | | |



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|-----------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 静岡県 | 学校名 | 静岡県立沼津商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究 | | |
| ICT機器 | デスクトップPC タブレット スマートフォン office アプリ | | |
| 単元名 | 伊豆半島ジオパーク認知度向上プロジェクト | | |
| 単元目標 | フィールドワーク実施後、観光地を親子で巡るツアー企画の立案（通年） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 課題研究でジオパークの研究を始めて3年目。前年度までに出た成果や課題を継承し、当該年度の課題を設定する。前年度完成させた「ジオパークすごろく」に登場する観光地を巡るツアー企画を提案する。この課題を解決するため、各自が必要な手段や方策を考え、グループワークにつなげる。【個別最適な学び】個人によるワークシート作成及び教員によるアドバイス。【協働的な学び】グループワーク(SWOT分析)などによる解決したい課題、目標の決定。</p> <p>(2) 情報の収集 フィールドワークを実施し、専門的な視点からのアドバイスを聞き、課題解決に向けた情報集を行う。【個別最適な学び】事前に調べた内容と実際との違いの検証。【協働的な学び】外部の方との連携。</p> <p>(3) 整理・分析 フィールドワークで収集した情報を訪問地ごと担当(エキスパート)に分かれ、整理する。ツアー企画としてまとめるために必要なデータの分析。【個別最適な学び】個人で調べたことの情報やデータの整理、分析。</p> <p>(4) まとめ・表現 クロストーク活動として、グループで旅程を考える。パワーポイントにてプレゼンテーション用資料を作成する。その後、外部の方も招いてプレゼンテーションを実施し、講評をもらう。【協働的な学び】外部の方との連携。グループでのプレゼンテーション。【個別最適な学び】プレゼンテーション後の振り返り、フィードバック。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 年間授業概要 前年度から引き継いだ課題に対して、今年度のグループの視点でアプローチしテーマ設定(親子で巡るツアー企画の立案)を決定した。外部の方(伊豆半島ジオパーク推進協議会)に協力を仰ぎ、フィールドワークを実施し、ジオパーク観光の魅力を探る。現地で収集した情報を訪問地ごとに個人やグループで整理、分析を行う。訪問地を実際に旅程に仕立てる作業(交通手段、散策の所要時間、危険個所の有無、見所や食事、土産物、トイレを含む休憩場所等)を行い、ツアー企画を立てる。パワーポイントによってプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションで訴えたい事柄を考える。専門家(近畿日本ツーリストの社員)を招いてプレゼンテーションを実施し、講評していただく。プレゼンテーション後、振り返りを行い新たな課題解決への目標を見つける。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 生徒間のグループ活動での協働的な学びだけではなく、外部の方の支援をもらいながら幅広い協働的な学びを経験させる。外部の方の助言を生徒各自が考えたことを文章や声に出して表現する。ツアー企画を立案するという目標に向かって個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を行うことによって、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。これらの学びを通して、場面や状況に応じて自分の役割を理解し、主体的に学ぶ態度を育成する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：毎時間の振り返りコメントや伊豆半島ジオパークについてのレポートなどにより評価を行う。</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：事前事後を含むプレゼンテーションなどについて、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|-------|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 愛知県 | 学校名 | 愛知県立一宮商業高等学校 |
| 科目名 | 「課題研究」(3年次:3単位) | | |
| ICT機器 | タブレット端末(1人1台)とアプリ「Microsoft Teams」及び各種Officeソフトウェア | | |
| 単元名 | SNSを活用したマーケティング活動の研究 | | |
| 単元目標 | SNSサービスの特長について調査・研究をして、マーケティング活動に活用する意義と方法を学ぼう | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) 課題の設定

ICT化の進展により生まれたWebマーケティングは、多くの企業で実践が広まっている。中でも、特にSNSを活用した「SNSマーケティング」に着目する。広く利用されているSNSサービスの特長を調査・分析し、マーケティングの効果や新しい活用法を考察する。その後、企業の方などの有識者から助言を得ながら、学校行事や地域連携活動の中で、SNSマーケティングの手法を活かす手立てを発案する。【協働的な学び】Teamsを用いた外部講師によるワークショップと助言

(2) 情報の収集

いくつかのグループに分かれ、グループごとに異なるSNSを担当する。各SNSに関する情報収集をグループ内で分担して行い、収集した情報をまとめる。【個別最適な学び】個人ごとに異なる課題に対してWebを利用した調べ学習とまとめ【協働的な学び】PowerPointの共同編集機能を利用した情報の記録

(3) 整理・分析

収集した情報を共有して主要なSNSの特長を分析する。【協働的な学び】PowerPointの共同編集機能を利用したまとめと情報共有

(4) まとめ・表現

共有した情報をもとに、SNSアカウント運用における要点や、SNSマーケティング手法を学校行事や地域連携活動の中で活用する手立てを発案して書き出す。また、マーケティングの知識を補うために、eラーニング環境を整備する。

【個別最適な学び】Microsoft Whiteboardの付箋機能を活用した教師による個別指導的な助言、eラーニングを利用した個別学習



図 Microsoft Whiteboardの活動画面

2 実践内容

(1) 授業概要(本時)

グループごとに各SNSの特長を調査・分析し、全体で共有してマーケティング活動に有効である点を見出す。その後、SNSマーケティングの事例を参考にして、効果的な学校SNSアカウント運用方法や設定について考案したり、学校行事や地域連携活動においてSNSマーケティングの手法を取り入れられる場面を考察する。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

特に、思考力・判断力・表現力をグループワークや発案を通して育成することを目指す。グループごとにソフトウェアを活用しながら活動する仕組みを作り、各生徒の進捗度・グループに対しての個人の貢献度・果たすべき事柄などを可視化することで、協働的な学びを推進する。

加えて、発案に必要な知識をeラーニングにより各自で学べる環境を整えつつ、常に生徒の活動成果を確認しながら適宜助言を与えることで、個別最適な学びとの融合を図りつつ、推進する。

3 学習評価の結果とその分析

思考力・判断力・表現力のもととなる知識が明確に記録・共有されているため、データや分析結果を科学的な根拠として考えられている発案が多く見られた。特に重視して評価した点をマーカー機能で示すようにし、生徒の学習活動改善の一助となるよう工夫した。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|-------------|
| 都道府県名 | 三重県 | 学校名 | 三重県立津商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：4単位）「めざせ！津商ビジネスプランナー育成講座」 | | |
| I C T機器 | (1) 機器：デスクトップパソコン (Windows)、ノート型パソコン (Chromebook)、生徒自身のスマートフォン・タブレット (2) ソフトウェア：Google Workspace for Education | | |
| 単元名 | 地元企業との商品開発における商品企画書の作成（1学期末～2学期初旬） | | |
| 単元目標 | 各自が作成した商品企画書をオンライン上でプレゼンテーションを行い、意見交換と行う | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>◎地元企業（製菓業）と協働した取り組みを行うなかで、商品開発プロジェクトが発足</p> <p>①ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に企業訪問、工場見学を行い、当該企業の社風や商品についての知識を得る。 <p>②商品企画書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校においては、「Google Workspace for Education」における「ドキュメント」を使用して、計画書の作成。企業訪問で集めた情報をもとに、「ターゲット」、「コンセプト」、「訴求ポイント」など、マーケティングで学習した内容を振り返りながら、作成を進めていく。 <p>③オンラインミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてオンラインミーティングが浸透しているなか、生徒自身もオンライン上でのプレゼンや意見交換の方法を体感し、どのようにわかりやすく伝えるかを学ぶ。 <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発に向けて、各自で計画書を作成する。（1学期末～夏季宿題） ・各自で商品開発のプランニングを行い、オンラインミーティングを想定したプレゼン。【本時】 ・プレゼンの中から出たアイデアを当該企業と意見交換を行う。 ・具体的な製造にむけてのブラッシュアップ。 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>◎講座全体に課せられたプロジェクトの課題（計画書の作成、商品の開発）について、個人で作成したものを講座内に共有する。個人としては「企画力」「段取り力」、講座全体としては「プレゼン力」「要約力」を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講座では、商品の開発は絶対命題であるが、そのアプローチは、個から講座全体へ共有する方法をとっている。そのためには、個々で考えた商品開発の計画書について、授業の中でアドバイスをしながら、作成を進めていく。特に、マーケティングで学習したターゲットの絞り込みやプロモーションに関するところは、具体的に想定できるよう支援を行う。 ・オンライン上で、どのような資料の提供の仕方が良いか、どのように訴求ポイントをアピールするか、そして、商品計画そのものが具体性をもっているか、プレゼンを行った後に振り返りを行う。そうすることで、個人の商品計画から、講座全体の商品計画へと昇華されていくようになる。 <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>◎オンライン上でのプレゼンが、現実となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初、オンライン上でのプレゼンは、学校において実施する予定であったが、令和3年9月上旬から約1か月間、臨時休校となった。オンライン授業に切り替わり、生徒は自宅から「オンラインミーティング」となった。 ・評価は、相互にどの商品計画が良かったかを、ベスト3位まで順位付けを行った。生徒個々の商品計画をペアや少人数で意見交換を行うことまではできなかった。しかし、講座全体で共有し、評価し合うことで、さらに別のアイデアが創出される効果もあらわれた。 ・反省点として、商品計画書の作成を手書きでも可としたため、オンライン上のプレゼンでは資料提示の際のインパクトに欠け、視覚的に伝わりにくかった。商品計画書はデジタルデータで提出を必須とするべきであった。また、商品開発における評価についての明確な評価規準（ルーブリック）がないため、評価の視点を合わせることに難しさを感じた。今後の課題としていきたい。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|-------------|
| 都道府県名 | 大阪府 | 学校名 | 大阪府立淀商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | 生徒一人一台端末「Chrome book」とアプリ「Google Workspace for Education」 | | |
| 単元名 | 淀商の魅力を再発見し、社会における商業教育の在り方を探究する | | |
| 単元目標 | 問題の定義を行い個別の探究活動から、協働した探究活動を実践する（1学期） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1)課題の設定 本校を取り巻く環境や商業高校で学ぶべき専門教育の在り方を生徒の視線で調べ学習を行えるよう「淀商業高校の魅力を社会にアピールしよう」をテーマとして調査研究を行う。【個別最適な学び】毎時間、調べ学習の成果報告を google ドキュメントにて行い、教師によるフィードバックを行う。この際、個人の学びが最適なものになるよう、電子データによるやり取りだけでなく短くても面談を適宜行い、調べ学習のアウトプットを積極的に促す。</p> <p>(2)情報の収集 母校の課題をテーマに設定することで、インターネットを活用した調べ学習というパッシブな情報収集だけでなく、教員や在校生、卒業生、保護者、地域の方などへのアンケート調査など、アクティブな情報収集にも取り組む。アンケート調査では google Forms を活用することで、個人が行っても効率的な集計作業を可能とする。生徒はこれらの情報収集で得た成果をもとに「仮説」を立てる。</p> <p>(3)整理・分析 個人の成果から立てた「仮説」をもとに、グループ学習を行う。グループ学習ではディスカッションの鉄則である、互いの意見を認め合い、批判的な意見を言わないよう指導する。グループごとに意見集約し、整理・分析を行う。【協働的な学び】グループ学習では、google Jamboard を活用し、視覚的に情報を共有することで、整理・分析しやすい環境を構築する。また、グループ内の意欲が高まれば、時間的制約がなく協働的な学びにつなげることも可能となる。</p> <p>(4)まとめ・表現 グループごとの発表では、google スライドの共有機能を活用する。個々人による調べ学習の成果をグループごとに、どのようにして集約し整理・分析できているか、またその内容を他に発信できたかという視点から評価を行う。ここでの評価では「思考・判断・表現力」の観点を最も重視する。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 母校の魅力化を考えるうえで、社会における商業高校の必要性や商業高校で「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」を考えさせる。また、自分に直結する課題に取り組むことで、主体的に多様な人々と協働して学ぶことを意識させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 主に思考力・判断力・表現力の育成をめざして、発表や質疑応答などの協働的な学び（思考・判断）の中で、自分の意見を相手に伝える力（表現）、相手の発表・発言を聞く力の育成をめざし実践する。google Jamboard の「共同編集」機能を使い、情報の整理を行う。整理の方法は班ごとに抽象レベルから具体レベルへと個別に出た意見をグループ全体としてまとめる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：振り返りシート（google ドキュメント）でどのような知識や技術を学んだか記述させ、さらに課題の配布と回収を chrome book 内で完結させる。</p> <p>思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度：課題資料の作成（google Jamboard）やプレゼン資料（google スライド）について評価を行う。またパフォーマンス評価では、生徒自身にルーブリック評価基準を考えさせ、google Forms を活用した投票を行い、集計して評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 兵庫県 | 学校名 | 兵庫県立神戸商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：2単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（1人1台）・Google Workspace for Education | | |
| 単元名 | 情報技術を活用した地域課題の解決 | | |
| 単元目標 | 入学時より学習した情報に関する知識・技術を活用して、地域課題の解決に寄与するアイデア発想をおこなう | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>①課題の発見 地域課題の発見のために、タブレットを活用する。【個別最適な学び】タブレットを使った調べ学習</p> <p>②課題解決に向けたアイデア発想 聞き取り調査やアンケートを実施し、課題解決に向けたアイデアを考える。【協働的な学び】Meet、Jamboard を使ったグループワーク</p> <p>③アイデア実現のための知識の習得 【個別最適な学び】オンライン学習環境プラットフォームの利用</p> <p>④情報技術を活用した課題解決への取り組み 今まで学習した内容と今回学習した内容を融合し、課題解決に向けた取り組みをおこなう。【個別最適な学び、協働的な学び】コード共同管理サービスの利用</p> <p>⑤研究内容の発表</p> <p>⑥発展的な取り組み 発表の内容に対してのフィードバックから研究をブラッシュアップ。【個別最適な学び】Form の利用、SNS の利用</p> <p>⑦持続可能な取り組みにするために 一過性の研究ではなく、継続的な取り組みとするための取り組み。【協働的な学び】オンライン動画配信サービスを利用した発表</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>①課題の発見 タブレットを使用し、RESAS や V-RESAS の情報から、コロナ禍における地元神戸の観光に焦点をあて、研究をすすめる。観光客の減少を課題として、設定する。</p> <p>②課題解決に向けたアイデア発想 観光動向調査や、独自アンケートから神戸市への旅行者はインターネットを通じて情報収集をしている人がほとんどであり、それが若年層になれば更に顕著になることから、「高校生向けの観光 Web サイト」の構築を提案。なお、アンケート作成にはフォーム、集計分析にはスプレッドシート、グループワークには Meet、Jamboard 等を使用し、研究全般で Google Workspace For Education のサービスを活用する。</p> <p>③アイデア実現のための知識の習得 Web サイトを作成する上で必要な知識を、今までの学習で得た知識に加えて、タブレット PC のブラウザを活用したオンライン学習環境プラットフォームでおこなう。</p> <p>④情報技術を活用した課題解決への取り組み クラス共同で Web サイトを作成、できた Web サイトを GitHub にアップロードし、共同でコードを管理、アイデアを出し合いながら、Web サイトの改善につなげる。GitHub のサービスを利用し、サイトを公開。ここでも意見交換に Google Meet、Chat 等のサービスを活用する。</p> <p>⑤研究内容の発表 兵庫県観光局や民間旅行会社、空港関係者等に研究内容の発表をおこない、意見をいただく。</p> <p>⑥発展的な取り組み 発表の講評を受けて、作成したサイトを、より高校生視点を強めたサイトに改善。Web サイトのコンテンツを全校生徒から集める。Google Forms を活用。Line や Instagram など SNS も活用する。</p> <p>⑦持続可能な取り組みにするために 一過性の研究ではなく、継続的な取り組みとするために、後輩に向けたマニュアルの作成。研究発表の様子を YouTube のサービスを利用して後輩に配信。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 授業全般において、目標達成に向けて他者と協働する力を育成することに留意した。タブレット等の ICT 機器、Web 学習サービスを活用し、場所や時間を問わずに学ぶ環境の構築をおこなった。また、学んだ内容をグループウェア等で他者と共有することで学びを深めることができた。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技能：レポートの作成内容、各種ソフトウェアの活用技術 思考・判断・表現：レポートの作成、発表内容 主体的に学習に取り組む態度：グループワークにおける発言や態度、授業中の行動観察</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 兵庫県 | 学校名 | 兵庫県立長田商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：2単位） | | |
| ICT機器 | タブレットPC（一人1台）とアプリ「Google Workspace for Education」 | | |
| 単元名 | オリジナル商品の開発手法を学ぶ | | |
| 単元目標 | 本校が設立した株式会社「NAGAZON」で取り扱うオリジナル商品の開発を行い、具現化に至るまでの過程を学習する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 まず、エキスパート活動として、教員が生徒に対し商品開発の目的や狙いといった課題を確認する。そして、市場にどのような商品が流通し、売れ筋の商品は何か、商品価格などの市場環境を生徒たち自身で学ぶ。同時に消費者の視点に立って「満足させる商品とは」「人の心を豊かにする商品とは」などを考える。【個別最適な学び】 Google Classroom上に個人ごとのワークシートを作成し・提出する。その後に教員からのコメントによるフィードバックを実施</p> <p>(2) 情報の収集 次にジグソー活動として商品開発の意義や進めるうえで不可欠な要素や効率性に欠けるものなど留意すべき事柄を整理する。そして生徒をグループごとに商品開発テーマを割り当て、ブレインストーミングによりアイデア創出を図る。【協働的な学び】 Google JamboardやGoogle Formsを活用</p> <p>(3) 整理・分析 クロストーク活動として、ジグソー活動のまとめをグループごとに発表する。「どのように話せばうまく伝わるか」を考えながら発表を行う。競合商品との比較・検討をする中で、考案した商品の優位性などの整理・分析をする。【協働的な学び】 Google SlidesやJamboard、スプレッドシートを活用</p> <p>(4) まとめ・表現 振り返りの視点で、商品開発に至る流れを再確認し、「市場で求められる商品とはどのようなものか」、「商品開発が人々の幸せにつながるようにするには」など、レポートや論文形式により文字で記述する。【個別最適な学び】 Google ドキュメントを用い、記述して提出</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 商品開発の視点として、世の中の不便さを洗い出すことから始まるとされている。社会全体と個人とではそのとらえ方にギャップがある中で、市場で求められる商品とはどのようなものかを様々な角度から分析を行う。個人で検討した後はグループ内で他者の意見も取り入れ、より良いアイデア創出へとつながるように促す。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 3つの資質能力の中では、特に思考力の育成に重きを置いて取り組むことに留意する。個別最適な学びと協働的な学びを融合し、ICTアプリを効果的に利用することにより往還して理解を深める。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：単元の学習後に行う小テストや課題レポートにより、どのような知識を習得することができたかを文字で記述させる。</p> <p>思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度：考案した商品やレポート、プレゼン発表などについてはポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行って学習者の評価材料とする。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|-----------------------------|-----|-------------------|
| 都道府県名 | 奈良県 | 学校名 | 奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（会計・原価計算調査研究）3年次：2単位 | | |
| I C T機器 | 教育用P C | | |
| 単元名 | 簿記の指導を考える | | |
| 単元目標 | 簿記の指導法を通して相手に思いや考えを伝える手法を学ぶ | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 財務会計、全商簿記検定1級会計問題集を元に5名程度の班で模擬授業を行うことを想定した学びあいを行う。【個別最適な学び】個人によるワークシートの作成・提出と教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 グループで教科書、問題集、インターネット等を利用して課題解決に必要な情報を収集する。【個別最適な学び】個人によるワークシートの作成・提出と教師によるフィードバック</p> <p>(3) 整理・分析 リハーサルと称して現状の自分たちの情報を分析する。また、相互評価により更に収集が必要な情報を整理させる。【共同的な学び】Google Formsを用いた相互評価</p> <p>(4) まとめ・表現 1チーム50分の授業を実施。生徒約の生徒はその授業でどの程度理解できたかを評価シートによって理解度を確認する。【個別最適な学び】模擬授業の発表・フィードバック【共同的な学び】Google Formsを用いた相互評価</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要 1つの授業に対して準備時間に2時間費やした。余裕のある時間設定の理由はグループ全体で問題について討議し内容を深めて行くことによって自分では思い浮かばなかった解釈・考えなどに気づき、より簿記の学びを深めることを目指して実施した。また、模擬授業の内容が2年生で学習する財務会計Iの範囲と同範囲であり、授業で学習した内容を放課後学習会などで発表することになることを意識してグループ討議や模擬授業を実施した。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 模擬授業では、生徒役の生徒に問題を解答させたり、生徒からの質問に対応するなどの授業を展開させた。「授業」さながらの手法を使うことによって、内容をわかりやすく説明できているか。良き例え話ができているかなどを講座全体で確認し、共同的な学びを進めることができた。また、準備時間には各種教科書、問題集、PCと生徒たちが自由に教材研究できる教材を提供し、必要な情報を生徒自ら収集することができる個別最適な学びが実現された。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：ワークシートでどのような知識・技術を学んだか記述。 思考・判断力・表現力・学びに向かう態度：グループワークの観察・発表についてルーブリックにて評価。 これまで簿記を学んできたが、「なぜそうなるのか」を理解している生徒は数少ない。その中で当該講座を志望した生徒には「なぜそうなるのか」を教師が教えるのではなく、考えて相手に伝える事によってより理解が深めるということを目標に実施した。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---------|--|-----|------------|
| 都道府県名 | 奈良県 | 学校名 | 奈良県立五條高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：2単位） | | |
| I C T機器 | P C、iPAD(グループ1台) | | |
| 単元名 | 総合的な探究の時間「課題研究」 | | |
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・商業に関する科目の内容に関連した調査・研究・実験の取組から作品制作をすること ・言語活動のいっそうの充実を図るために課題研究の成果について発表する機会を設けるようにすること | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

1 学年「創造」の学習で培った探究の見方・考え方から、これまでのビジネスに関する基礎的・基本的な学習の上に立って、ビジネスに関する課題を生徒が自ら設定し、課題の解決を図る学習を通して、ビジネスの専門的な知識や技術を深化させる。また、自ら課題を発見して解決する能力や生涯にわたって自発的、創造的に学習に取り組む態度を育成する。

2 実践内容

(1) グループ活動から調査・研究、プレゼン発表会までの手順

- ・1グループ5、6人のメンバーで構成し、グループ長等を決定する。
- ・各グループによる研究テーマの設定（主とする研究テーマの内容は、商業・ビジネスに関連する分野のテーマに限定し、マーケティング分野、簿記会計分野、ビジネス経済、経営情報分野、観光や企業研究等も含む）
- ・各グループによる調査・研究を実施、メンバーの役割分担の決定をする。
- ・情報の収集は教室のP Cでインターネットを活用し、分析・整理をする。
- ・各グループより進捗状況等をP C、iPADで中間報告をする。
- ・パワーポイントを活用してプレゼン資料の作成をおこなう。
- ・情報機器を活用しながら各グループによる10分程度の発表をおこなう。
- ・プレゼン発表を視聴しながら、相互評価及び自己評価をおこなう
- ・クラス内のみの発表会に限定
- ・授業アンケートの実施

(2) 課題と反省

- ・学習成果については発表会についての報告書やレポートを作成、反省点も踏まえて記述させるとともに、優秀な作品については各種コンクールへの参加も検討する。また、成果の発表については、将来的に地域や産業界の関係者を招いて交流を深め、教育活動に対する理解が深まるよう留意するが、現在のところ実施できていない。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技術：レポートでどのような知識・技術を学んだのかを記述させ評価する。

思考力・判断力・表現力および学びに向かう力、人間性等：発表会についての報告書やレポートの内容も踏まえて評価する。また、プレゼンに関するルーブリック表を作成して評価する。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|-------------------------------------|-----|-------------|
| 都道府県名 | 鳥取県 | 学校名 | 鳥取県立米子南高等学校 |
| 科目名 | 課題研究 | | |
| I C T機器 | 実習教室デスクトップPC | | |
| 単元名 | アプリ開発作業 | | |
| 単元目標 | 各自が必要とする知識・技術およびグループでの協働作業に必要なことを学ぶ | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 どのようなアプリを開発するか、開発を進めていくために決めておかなければならないことは何かを考えさせ共有する。【協働的な学び】</p> <p>(2) 情報の収集 各作業担当に、自分が作業を行うために必要な情報は何か収集させる。情報源は前年度の開発資料、Web上の情報および教師が用意した資料。必要に応じて教師が個別に適した指導を行う。【個別最適な学び】</p> <p>(3) 整理・分析 各作業担当が調べた情報をグループで共有させ、決めておかなければならない仕様を話し合わせる。【協働的な学び】</p> <p>(4) まとめ・表現 グループで決まった仕様を発表させる。不足している情報があれば教師が質問し、再度(3)に戻って話し合いをさせる。仕様が確定したら、各作業担当で開発作業を行わせる。必要に応じて教師が個別に適した指導を行う。【個別最適な学び】</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（一連の授業） どのようなタイプのアプリを開発するか、クイズ形式・ストーリー形式、データ量・分岐の回数などを詳しく話し合わせて決定した情報をグループで共有された Google Document または Google Spreadsheet のファイルに書き込ませる。その後、プログラマー、キャラクターデザイナー、画面デザイナー、データ作成者、音楽素材収集者、それぞれの立場で自分が作業を行うために必要な、プログラミング、グラフィックデザイン、素材サイトと著作権などの情報を収集し、気付いた情報をファイルに追加して書き込んで共有させる。共有された情報についてグループで協議し、遷移する画面の種類数、画像のサイズや位置、必要となる画像の種類、データファイルで必要となるフィールド、データの量（レコード数）、必要となる音の種類など、何を決める必要があるか意識させながら、決定させる。グループで決定した内容を発表し、教員から見て決めておくべき仕様が不足していた場合は、質問を行い、再度話し合わせる。他のグループにも発表を見せることで、他のグループにも自分たちの足りない点に気付かせる。仕様確定後、各作業担当に、グラフィックのデザイン、データの作成、プログラミング、音源などの素材の収集を行わせるとともに、定期的にデータとプログラムを合わせたり再度話し合いをさせたりして、アプリの制作をさせる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に思考力・判断力・表現力の育成を目指す。話し合いの中で相手の作業と自分の作業との関連を考えて、相手に伝えておかなければならない情報を判断したり、相手から聞き出しておかなければならない情報を判断したりする力を育成する。グループでの話し合いで協働的な学びを行い、個々の専門的な作業で、個別最適な学びを実現する。実施上の工夫として、前年度の担当者の感想および開発資料、教員作成の開発例の資料などを用意しておくことで、作業を分担してアプリ開発を行うためには何を決めておかなければならないのかを気付かせるようにする。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：アプリに使われている技術で評価を行う。 思考力・判断力・表現力：話し合いの様子や課題研究日誌の記述で評価を行う。 主体的に学習に取り組む態度：各分担作業への取り組みの積極性で評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---------|------------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 山口県 | 学校名 | 山口県立岩国商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：2単位） | | |
| I C T機器 | タブレットP C（1人1台） | | |
| 単元名 | ネットショップで商品を販売しよう | | |
| 単元目標 | ネットショップ開設に向けて、商品の選定・価格の設定を行う | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) 課題の設定

本校は県のプロジェクトである「やまぐちハイスクールブランド創出事業」に参加をしている。その取り組みの1つ、県内の専門高校が開発した商品と県内企業が市販している商品の中から、自分たちでセレクトした商品をネットショップで販売することにした。私たちの取り組みや、山口県の魅力を県内外の方に知ってもらうにはどのような商品をセレクトしたら良いのか、どのようなコンセプトでセレクトしていくか、価格設定をどうするかなどを生徒個人で考え、全体で意見をまとめていく。

【個別最適な学び】個人によるワークシート（Google Classroom 上）作成・提出と教師によるフィードバック。

(2) 情報の収集

どのようなコンセプトでネット販売を行うのか考慮しながら、販売したい商品の情報収集を行う。

【個別最適な学び】Google Forms に入力後提出。

(3) 整理・分析

収集した情報や個人の意見を多様な視点から整理・分析し、取り扱う商品を決定していく。

【協働的な学び】Google Forms の回答を全体に表示し、他者との協働にあたっての意見や情報収集などに対する整理・分析を行う。

(4) まとめ・表現

①やまぐちの特産品を中心に詰めたもの、②山口スイーツ、③おつまみの3種類をネットショップでセット販売することや価格設定について決定する。その後グループに分かれ、タイトルや取り扱う商品についてまとめていく。【協働的な学び】グループごとに話し合った結果を発表する。【個別最適な学び】ドキュメントにこれまでの学びを記述して提出。

2 実践内容

(1) 授業概要（本時）

1人1台タブレットを活用しながら、ネットショップで取り扱う商品を考えていく。その後意見を発表し、グループごとにまとめていく。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

1人1台タブレットなどI C T環境を効果的に活用し、生徒個人の主体的な学びを推進していく。また、協働的な学びを通して、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させていく。この両立により、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探求活動を推進する。



3 学習評価の結果とその分析

知識・技術

レポートでどのような知識・技術を学んだかを記述させる。

思考力・判断力・表現力、学びに向かう態度

レポートや発表などで評価を行う。



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 長崎県 | 学校名 | 長崎県立島原商業高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） 島原観光ビジネス講座 | | |
| I C T機器 | パソコン室P CとMicrosoft PowerPoint | | |
| 単元名 | 島原半島の現状を知る | | |
| 単元目標 | 島原半島の良いイメージとネガティブイメージ（課題）を整理し、島原半島の魅力と課題を再発見する。また、その内容を論理的にまとめ、他者に伝える力を養う | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 この講座では、島原半島ジオパーク協議会が実施しているサマーキャンペーンアンケート結果（11年分）を分析し、島原半島の課題を発見し、ビジネスにつなげる提案を行うことを目的としている。導入となるこの単元では、島原半島の現状を知るために、島原半島のイメージを出し合い様々なツールを使用して、整理・分析、発表を行う。</p> <p>(2) 情報の収集 島原半島の課題を発見し、ビジネスにつなげるという目的を明確にししながら、専門員のプレゼンとインターネット等の複数のチャンネルからブレインストーミングのための情報収集を行う。【個別最適な学び】インターネットを用いた情報収集</p> <p>(3) 整理・分析 K J法やSWOT分析などのツールを用いながら、ブレインストーミングにより出てきた情報を多様な視点から整理・分析する。【協働的な学び】島原半島の良いイメージとネガティブイメージ（課題）をブレインストーミングとK J法、SWOT分析によって整理・分析</p> <p>(4) まとめ・表現 他者に分かりやすく伝えるために、グループごとに論理的にプレゼンとしてまとめる。また、各班による発表の場を設ける。また、日誌（ポートフォリオ）やルーブリックによる自己評価により、学習内容の理解や定着を図る。【協働的な学び】Microsoft PowerPointを用いたグループ発表【個別最適な学び】日誌の記入と自己評価</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時：3時間連続） ワークショップ「島原半島にどんなイメージを持っている？」として、島原半島ジオパーク協議会の専門員より魅力ある島原半島についてプレゼンを実施していただいた後、島原半島の良いイメージとネガティブイメージ（課題）をブレインストーミングとK J法を使って整理する。また、SWOT分析も実施して島原半島の魅力と課題を再発見し、その内容をプレゼンにより他者に伝える。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に「思考・判断・表現」の育成を目指して、他者と協力して論理的に分かりやすく伝える力を育てる。「知識・技術」では、思考整理法（ブレインストーミング・K J法・SWOT分析）を使用してデータを分析する能力を育てる。また、一連の活動を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。単元の最後には個別最適な学びとしてルーブリックによる自己評価を行い、日誌（ポートフォリオ）によって学習内容の理解や定着を図っている。このように、単元の学びの段階で協働的な学びを行い、単元のまとめの段階で個別最適な学びを行うことによって融合を実現している。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 単元内で実施したパフォーマンス課題（整理・分析・発表）を、ルーブリックを使い総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技術：思考整理法（ブレインストーミング・K J法・SWOT分析）によって作成された完成品（プロダクト）を評価する。 ・思考・判断・表現：グループ発表をルーブリックにより評価する。 ・主体的に学習に取り組む態度：日誌（ポートフォリオ）により評価する。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|----------------------------|-----|------------|
| 都道府県名 | 熊本県 | 学校名 | 熊本県立菊池高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次：3単位） | | |
| I C T機器 | パソコン | | |
| 単元名 | 地域の課題解決に向けての取り組み | | |
| 単元目標 | 「人と人、社会をつなぐ未来のビジネスリーダーの育成」 | | |
| <p>※本校商業科では、探究学習ではなく課題研究を行っているため、課題研究の事例となります。</p> <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1)課題の設定 1年目に学習した地域の課題を解決するために、実現可能なプランを見極め、実践し、検証を深める。その中で、「情報を見極める力」「表現力」「他者と協働する力」「社会人基礎力」「課題解決力」などの付加価値を高めた生徒を育成することにより、持続可能な地域作りに貢献する人材育成を行う。 また、商業科目で習得した知識を生かし、地元の関係機関に地域活性化のための具体的なビジネスプランを立案・実行する学習プログラムを実践することにより、科目横断的な学習を効果的に取り入れる。</p> <p>(2)情報の収集 外部関係機関によるワークショップを実践し、情報収集の意義や目的を学び、地域の課題を解決するためのビジネスプランの実行に繋がる情報収集を行う。</p> <p>(3)実践 地域の課題解決策の一環として、イベント「菊高ジャック」を開催する。イベントを実行するに当たり、「主体的・対話的で深い学び」や「ビジネス的な見方・考え方の醸成」を図り、継続的に地域と連携した教育に取り組む。</p> <p>(4)整理・分析 ビジネスプランの実行後、商業科目を通して、多面的に情報を収集・整理し、意見交換を行う。</p> <p>(5)まとめ・表現 取り組みについてのまとめを PowerPoint で作成し、課題研究成果発表会や菊池川流域プロジェクトで発表する。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（取組2年目：1年間の流れ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決学習を取り入れた外部講師招聘授業 ・地域課題解決に向けたプランの発表（菊池市へ「菊高ジャック」の提案） ・外部関係機関とのワークショップ ・イベント「菊高ジャック」の開催 ・科目横断的な学習（ビジネス基礎・マーケティング・財務会計Ⅰ・課題研究） ・イベントの検証及び改善策の検討 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 2年目のスタート時点で、1年目の活動により生徒たちの身に付けた力を生かすことができた。大きかったことは、ワークショップやプレゼン大会等による発表の場において、主体性を身に付けることができていたことや、生徒たちの特性や学習進度、学習到達度等が顕著になり、特性を生かした適材適所での活動が自然にできるようになっていたことである。2年目は、生徒の資質に適した役割を与えることに留意してイベント「菊高ジャック」を実施し、「指導の個別化」「学習の個別化」が図れる活動となった。また、外部機関との連携を行うことにより、他者との協働についても充実した学びとなった。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析 学校のグランドデザインに沿った明確な評価基準やルーブリックを作成し、指導と評価のPDCAサイクルを検討することで、指導方法や評価の工夫改善ができた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---------|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 大分県 | 学校名 | 大分県立情報科学高等学校 |
| 科目名 | 課題研究 (3年次:3単位) | | |
| I C T機器 | タブレットPC (一人一台) とアプリ「MetaMoJi ClassRoom」 | | |
| 単元名 | MetaMoJi を使ったグループごとのアイデアソンに向け活用方法を学ぶ | | |
| 単元目標 | 自分たちの学校の良いところを自由に意見を出し、より良くなるための手段を発表する | | |

1 単元目標を達成する学習指導計画

(1) アイデアソンの実施。

MetaMoJi の機能を使ってグループごとに「自分たちの学校の良いところ」を自由に付箋で出し合う。

(2) 発表用のシートを作成する。

出し合った意見を項目ごとに整理して、発表用のシートにまとめる。

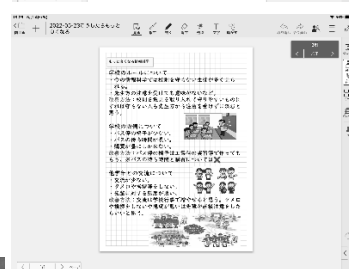
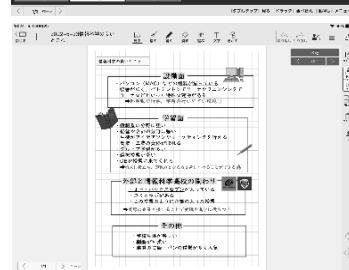
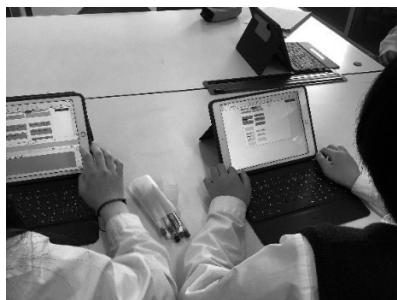
(3) 発表

完成したシートをタブレットで共有してグループごとに発表を行う。発表後には振り返りシートを利用して本時の活動を振り返る。また、本時の活動に対して自己評価を行う。

2 実践内容

(1) 授業概要 (本時)

- MetaMoJi の設定 (グループ作り、付箋の色決め、役割分担)
- MetaMoJi をつかって「学校のいいところ」を付箋で出し合う。
- お互いの意見を項目ごとにまとめる。
- 発表シートに意見をまとめる。
- さらに学校が良くなるための方法を深く掘り下げて考え、まとめる。
- グループごとに作ったシートを各自のタブレットで共有し、発表を行う。
- 各グループから出た意見を振り返り、各自で振り返りシートに記入する。



(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動

グループ活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。また、他人の意見にも素直に耳を傾け前向きなグループ活動になるよう周りに配慮することを意識する。

発表や振り返り活動などの協働活動では自分の考えをわかりやすく相手に説明する論理力を育てることに留意する。この課題研究の授業を通して、主体的に活動し、グループだけではなく授業者全体で協働的な学びの場として探究活動を推進する。

3 学習評価の結果とその分析

知識・技能：レポート提出やプレゼンテーションソフトの活用、振り返りシートでの自己評価

思考・判断・表現：アイデアソンでの意見だし、プレゼンテーションソフトを使っての発表、振り返りシートでの自己評価

主体性：班活動の様子、振り返りシートでの自己評価

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|---------------|
| 都道府県名 | 沖縄県 | 学校名 | 沖縄県立八重山商工高等学校 |
| 科目名 | 課題研究（3年次・3単位） | | |
| I C T機器 | P C（一人一台）とアプリ「Adobe Premiere」・PowerPoint | | |
| 単元名 | 学校行事商工祭で商品を仕入れる店舗のP R動画を作成する | | |
| 単元目標 | 仕入先の店舗の売上増加・知名度向上に繋がる効果的な動画を作成しよう！ | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 学校行事商工祭の販売実習の仕入先の P R 動画を効果的に作成するにはどうしたらいいか。【個別最適な学び】個人によるワークシート作成・提出と教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 SNS での商品販売動画の流行や、効果的な販売促進の動画について調べる。 【協働的な学び】情報収集をインターネット使いグループで行う。</p> <p>(3) 整理・分析 どういう動画が流行っているのか、どうしたら効果的な販売促進の動画を作成することができるのかを分析する。【協働的な学び】ブレインストーミングで意見を出し合う。</p> <p>(4) まとめ・表現 グループで出た意見を分析し、パワーポイントで発表を行う。その後、仕入先を訪問し、店舗撮影・商品撮影を行い、個人で動画の作成を開始する。【個別最適な学び】動画で編集の方法を確認し、Adobe Premiere を使い各自動画作成を行う。</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 探究活動のテーマに対してグループで、理想とする動画・その作成方法を考えていく。その際、自分たちの理想と不足している動画撮影技術・動画編集技術とのギャップに気づき、どうすれば理想とする動画を作成することができるかを考える。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 特に思考力・判断力・表現力の育成を目指して、協働的な学びの中で自分の考えを論理的に話すことに留意する。また、動画編集は個人でそのスキルに差があるため、一斉授業ではなくて動画で編集スキルを学びながら進めていくことで、個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動を推進する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：作品（作成した動画）やレポートでどのような知識・技術を学んだかを見る。 思考力・判断力・表現力：グループワーク・レポート・発表。 学びに向かう態度：パフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|--|-----|---------------|
| 都道府県名 | 新潟県 | 学校名 | 新潟県立新発田商業高等学校 |
| 科目名 | 総合実践（3年次・3単位） | | |
| I C T機器 | タブレット端末（一人一台） Google アプリケーション（Jamboard） | | |
| 単元名 | 地域課題を解決するために～ソーシャルビジネスの視点から～ | | |
| 単元目標 | 地域経済分析システム（RESAS）によるデータ活用・分析を通じて、地域課題解決のための方策や経営資源の活用方法を探究する | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>1 学期 「大倉喜八郎*の生涯と業績」（講演会） * 渋沢栄一と同時代を生きた地元出身の実業家。帝国ホテル、札幌麦酒、大成建設などの設立に参画。</p> <p>2 学期 1次 地域経済分析システム（RESAS）を活用して地域の課題を探る 2次 地域課題解決のための政策を提言する ・「地域創生政策アイデアコンテスト」（内閣府）へ作品提出 3次 まとめの授業（本時：2時間）</p> <p style="text-align: right;">} 12時間</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>① 講演会を振り返り、大倉喜八郎が実践した地域貢献活動（福祉・教育等の分野）のねらいについて考え、「ビジネス」の意味を探るとともに、ソーシャルビジネスの意義を理解する。</p> <p>② 「人口減少」から派生する地域課題をあげ、解決の方向性についてビジネスの視点（商業の4分野）から検討を加える。</p> <p>③ 離島人口増加の事例（新潟県粟島浦村・日経新聞記事）について、SWOT分析（離島の強み・弱み・機会・脅威）を行い、人口増加の理由について考察する。</p> <p>④ 「強みを活かし、弱みをどう克服していくか」について、グループ活動により意見交換・情報共有を行う。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①及び④の活動で、Google Jamboardを使用。個人の意見・考え方を整理した後、グループ単位で共有し、対話を通して思考を深める。 ・唯一絶対の答えが無いことを前提に、地域資源や地域の得意分野などをいかにマッチングしていくかという視点で考えさせる。 ・グループ内で賛同を得られた良いアイデアについて、社会を豊かにするソーシャルビジネスとしての展開が可能か、そのために必要な方策は何か、追及させる。 <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard上にテンプレートを用意し、付箋を自分の意見、他者への助言等で色分けして配置させた。議論された内容が概ね記録に残るため、パフォーマンス評価と合わせて思考・判断・表現の評価資料とした。 ・さまざまな地域課題について、県単位で考えるか市町村単位で考えるかによって、解決策の自由度が変わることに気づく生徒が多くいた。 | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--------------------------|-----|--------------|
| 都道府県名 | 秋田県 | 学校名 | 秋田県立湯沢翔北高等学校 |
| 科目名 | 総合的な探究の時間 | | |
| I C T 機器 | Chromebook、プロジェクター、スクリーン | | |
| 単元名 | | | |
| 単元目標 | | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <p>2年生総合ビジネス科（約60名程度）において、「湯沢市が抱えている課題と良くするためにできることは？」というテーマを掲げ、学校の所在地に対する現状分析を行い、そこで挙げられた課題をもとに、3年生の課題研究において「商品開発」や「観光資源のPR活動」などの活動につなげるための土台作りをする。また、地域の課題を挙げる際には、事前にSDGsに関連した動画「マイプロジェクトアワード」等を紹介し、意識付けをさせることでSDGsに関係がある課題等を収集させている。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <p>【全体活動】</p> <p>あらかじめ「総合的な探究の時間」のクラスルームを作成し、そこに本時の授業に関するプレゼンテーション資料を掲示する。担当教員から「ワールドカフェ」に関する説明を行う。（3分程度）</p> <p>【個別活動】</p> <p>Chromebookを使用し、湯沢市に関する情報収集を行う。（3～5分）</p> <p>→ Googleドキュメント等に情報をまとめ、その時間等の個人の課題として提出させる。</p> <p>【協働的な活動】</p> <p>個別活動で調べた「湯沢市に関する課題と良くするための解決策について」を5～6人グループを作り、ワールドカフェ方式で情報共有させる。</p> <p>→ 今回の授業では、各グループで模造紙とペンを用意し、意見交換の内容を自由に書き込む形式。</p> <p>～手順～</p> <p>① 各グループでテーブルホストを決める。</p> <p>② 6分程度の話し合いを3セット繰り返し、必ず1セットが終わったら、テーブルホスト以外の生徒が他のグループに移り、テーブルホストから班で出た意見をもとに話し合いを膨らませる。</p> <p>③ 3セットが終了したら、1番最初にいたグループに戻り、移動したグループでの話し合いの内容や自らのグループでは考えられなかった新たな気づきについて共有。（3分程度）</p> <p>④ 各グループで完成した模造紙を教員が写真に収め、クラスルームに掲示するとともに、クラスルームのコメント欄を活用して、本時の授業での新たな気づきや学びを振り返りさせる。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>普段から口数が少なく、コミュニケーションを取ることに苦手意識がある生徒についてもワールドカフェ形式にすることで、少しずつ打ち解ける様子が見受けられた。また、クラスルームのコメント欄を活用することで、より自分自身の意見を共有することができ、生徒の学習後の反応も良かった。</p> <p>ただ、やはり数人はコミュニケーションを取ることが難しく、意見交換に苦戦している様子もあったことから、Jamboardを活用した情報共有も実施している。グループでの話し合い結果をJamboardにまとめさせることで、教員側も課題の収集がしやすく、評価もつけやすかった。</p> <p>課題としてJamboardの共有がうまくいかないグループも見受けられ、話し合いの時間が確保できないところもあったため、あらかじめグループを決めるなど工夫が必要だとも感じた。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|--|--|-----|--------------|
| 都道府県名 | 群馬県 | 学校名 | 群馬県立前橋商業高等学校 |
| 科目名 | 起業実践（学校設定科目） | | |
| I C T機器 | Chromebook(個人1台)とアプリ「Google Workspace for Education」 | | |
| 単元名 | ビジネスプラン作成の基礎 | | |
| 単元目標 | 新たなビジネスの創造に向けて、課題を抽出しよう（4・5月） | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <p>(1) 課題の設定 「生活上の課題」、「商品・サービスの課題」、「社会の課題」、「地域の課題」の4ジャンルに分けて作成されたワークシートを記入させる。生徒自身の日常生活を振り返らせることで課題の抽出を促進する。【個別最適な学び】個人によるワークシート(Google Classroom 上)作成・提出と教師によるフィードバック</p> <p>(2) 情報の収集 特に「社会の課題」、「地域の課題」の抽出において、必要な情報を Web 検索により収集させる。【個別最適な学び】Chromebook を活用した情報収集。</p> <p>(3) 整理・分析 生徒は1ジャンルが終わるごとに、グループに分かれ、それぞれが考えた課題とその理由を発表する。抽出した課題をグループメンバーに「見える化」し、自分と他者との課題に対する認識の違いを知ることで、多様な視点から情報を整理・分析する。【協働的な学び】Google スプレッドシートを用いた情報の整理と共有、Google jamboard を用いた協働的な意見の収集と情報の分析</p> <p>(4) まとめ・表現 グループメンバーから出た課題から、グループとして一つの課題を選択し、課題解決に向けたビジネスプランを考案する。【協働的な学び】Google スライドを用いたグループ発表</p> <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要（本時） 個別に抽出した課題を、グループ（他者）で共有する。また、グループで一つの課題を選択し、協働的な作業を通して、課題解決に向けた新たなビジネスプランを創造していく。その際、その課題を解決する必要性および利益を生み出す可能性について深く考えることで、プランの実現可能性を見出していく。今後、クラスでプラン発表会と質疑応答を行うことを伝達し、プランの新規性・独創性を意識させる。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動 思考力・判断力・表現力の育成を目指して、個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく配置することを意識する。個別の課題を抽出する場面においては、日常生活や社会、地域のことを深く考えさせることで課題発見力や思考力を育てることに留意する。グループで課題を共有、プランを創造する場面においては、協働的な学びの中で、相手の話を整理して理解し、自分の考えをわかりやすく説明する力や主体的に他者と協働する力の育成に留意する。課題抽出からビジネスプラン作成までの一連の探究活動において、個別最適な学びと協働的な学びを融合することで、学びを深めるとともにビジネスの本質を考える姿勢の定着を推進する。</p> <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <p>知識・技術：ワークシートでどのような知識や技術を学んだか記述させる。 思考力・判断力・表現力：発表や提出物(Google スプレッドシート・Google jamboard)などについてポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を行う。 主体的に学習に取り組む態度：授業中の発言(内容・頻度)や教師による行動観察、提出物の記述によりパフォーマンス評価を行う。</p> | | | |

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合する探究的な学習の実践事例

| | | | |
|---|---|-----|--------------|
| 都道府県名 | 長野県 | 学校名 | 長野県丸子修学館高等学校 |
| 科目名 | 総合探究(3年次:2単位) 探究基礎(2年次:2単位) | | |
| ICT機器 | PC スマートフォン 電子黒板含めプレゼンテーション設備 | | |
| 単元名 | デジタルコミュニティ通貨「もん」の実証研究 | | |
| 単元目標 | 地元自治体とスマートシティ構築による地域活性化や中小企業支援を協働研究し、探究活動を通してビジネスの視点から社会を見る目を育む | | |
| <p>1 単元目標を達成する学習指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 上田市商工観光課との協働研究としてスマートシティの構築による地域活性化と中小企業支援活動の一方策として、デジタルコミュニティ通貨の利活用の効果を探究する。 テーマ設定から仮説を立案し、研究計画を立てそれに基づき研究活動を実践し、まとめた結果を発表する(公開ポスターセッション)。 研究方法は、デジタル通貨に関わる関係者へのインタビューや利用・運用の体験、利用拡大の営業活動を通して社会実験を推進し実証する。 ビジネスの視点から社会を見る目を養う。 <p>2 実践内容</p> <p>(1) 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度はQRコード代金決済による地域活性化という自治体の取組について研究。今年度は地域限定デジタル通貨「もん」による地域・産業の活性化を題材に上田市との協働研究活動を行う。 上田市のスマートシティづくりを目指す一環であることや最終目的は地域活性化と中小企業支援の可能性を探ることを確認する。 デジタルコミュニティ通貨のユーザー体験をして市民にとって「もん」とは何かを探る。 スポット店舗(設置店舗)でデジタル通貨の運用をする企業側も体験し、インタビューを行い企業側の視点から「もん」の扱いを探る。 デジタルコミュニティ通貨の利用拡大を図るため、利活用方法を探り具体的な企画提案をつくりながら、スポット店舗の新規開拓(営業活動)を行う。 学校にもスポットを設置して自ら運用し利用する。 市民への街づくりに関するインタビューを行う。 株式会社電通の講師による営業や広報の授業受講と副教材の作成 企業経営者や実務家を講師としたおもてなしやデジタルマーケティングの授業受講 <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生総合探究で取り組むチームとしての活動は、一人ひとりの主体的な活動により支えられ、それを全員が共有してまとめていくことによりプロジェクトを進めていく。 上田市商工観光課との連携や各関係者へのインタビューなどが活動の基盤になっているため、学校外の大人とのコミュニケーションによる協働研究により示唆や助言をいただきながら探究活動を繰り返す。 電通や実務家との連携により修得した専門的知識・技術は、営業活動や社会実験の実践に生かすために、思考・判断・表現して組み合わせることで知恵にかえていくことが必要になる。 <p>3 学習評価の結果とその分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 上田市からの示唆・助言への対応、外部講師の講義受講のまとめや副教材からの知識・技術がその後の実践活動を伴うことにより生きたものに変えていくことができた。 高校生は通常であればコミュニティ通貨の利用側の視点しかもつことはできないが、企業が運営していく視点や主催者の考え方や期待、営業活動の大変さなどを実感として同調することができ、思考・判断・表現の際には多様な視点で社会を見ていくことができるようになっている。 | | | |

おわりに

商業教育対策委員会では、今年度より始まった高等学校学習指導要領の事例集として、これまで令和元年「新高等学校学習指導要領の実施に向けて－新学習指導要領実施に向けた先進事例集－」、令和2年「魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて－新学習指導要領に基づく教育課程編成例－」、令和3年「社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて－Society5.0時代の新しい商業教育の実践例－」等、様々なアンケートをとらせていただいていたまいりました。

そして、今回、各都道府県の連絡理事校を通じて、「魅力ある商業教育の実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指して－個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究的な学習の実践例－」として各学校で行っている先進的な事例を募ることにしました。途絶えることがないコロナ禍への対応や様々な学校運営対応で大変お忙しい中、提出に御協力いただきました校長先生方に心より感謝申し上げます。

先に述べましたように、今年度から高等学校学習指導要領の年次進行が始まり、令和4年5月にお示しした前回のアンケート「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の課題－全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて－」でいただいた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実施上の課題の洗い出しと、その課題解決に向けたICTの有効活用の状況、その後の方向性について、アンケート集計を通じて今後も情報共有を進めていく必要があると考えております。

今回、この「個別最適な学び」と「協働的な学び」を、学習指導計画において、どのように設定、収集、整理・分析、まとめ・表現につなげているのか、そして実践内容として、探究活動で育成しようとしている資質・能力、授業実施上の工夫、さらに生徒の学習評価の結果と現状での分析として、評価についての工夫等をお聞きいたしました。いずれの内容も今後の参考になるものばかりで、今後の実践に向けての示唆に富むものばかりでした。

今後、「令和の日本型学校教育」を実施していく上で求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を、ICTを絡めながら一体的に充実させ、どのような授業の改善につなげているのか、また、どのように評価していけばよいのか、頂戴したそれら推進上の課題や先進的な取り組み例が、前回アンケートの後継として、学校運営上の一助となれば幸いです。

本部提案テーマ年度別一覧

| | |
|----------|--|
| 昭和60年 5月 | 理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について |
| 昭和60年10月 | 理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況 |
| 昭和61年 5月 | 企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について —アンケート調査に基づいて— |
| 昭和61年10月 | 就職状況の変化に対応する進路指導対策について —アンケート調査に基づいて— |
| 昭和62年 5月 | 商業科に関する新しい小学科の設置状況について |
| 昭和62年10月 | 生徒の急減期における商業高校としての対応 |
| 昭和63年 5月 | 教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望 —アンケート調査に基づいて— |
| 昭和63年10月 | 将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて— |
| 平成元年 5月 | 時代の変化に対応する商業教育の展望 —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例— |
| 平成元年10月 | 高等学校学習指導要領の実施にむけて —教科「商業」にかかわる一問一答集— |
| 平成2年 5月 | 問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開 —課題研究」の研究と実践の推進— |
| 平成2年10月 | 高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方 —新学習指導要領の取り扱いと学校における対応— |
| 平成3年 5月 | 21世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて— |
| 平成3年10月 | 21世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて— |
| 平成4年 5月 | 生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して— |
| 平成4年10月 | 新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成 |
| 平成5年 5月 | 商業教育に関する「聴取り調査」報告 |
| 平成5年10月 | 商業に関する学科の特色化・個性化について —教育課程を中心として— |
| 平成6年 5月 | 進路の多様化に対応する商業教育—大学進学— |
| 平成6年10月 | 進路の多様化に対応する商業教育 —専攻科及び高等専門学校の構想— |
| 平成7年 5月 | 進路の多様化に対応する商業教育—就職指導— |
| 平成7年10月 | 高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題— |
| 平成8年 5月 | 社会の進展と商業教育の充実 —これから求められる専門教育の育成— |
| 平成8年10月 | 社会の進展と商業教育の充実 —商業教育における基礎・基本の内容をさぐる— |
| 平成9年 5月 | 21世紀を展望した商業教育の在り方について —「生きる力」の育成に対応するための商業教育— |
| 平成9年10月 | 21世紀を展望した商業教育の在り方について —社会の変化に対応した商業教育— |
| 平成10年 5月 | 完全学校週五日制における商業教育の在り方 —新しい情報処理教育の在り方について— |
| 平成10年10月 | 完全学校週五日制における商業教育の在り方 —地域や産業界との連携と開かれた商業教育について— |
| 平成11年 5月 | 社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方 —新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題— |
| 平成11年10月 | 高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集— |
| 平成12年 5月 | 高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例— |

| | |
|----------|---|
| 平成12年10月 | 就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方 |
| 平成13年 5月 | 21世紀における商業教育—大学から見た商業教育— |
| 平成13年10月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校からの大学進学— |
| 平成14年 5月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校が育成する商業高校生像— |
| 平成14年10月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校における学校改革— |
| 平成15年 5月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校における起業家育成教育— |
| 平成15年10月 | 21世紀における商業教育の在り方 —学校・企業・地域等との連携を考える— |
| 平成16年 5月 | 全商本部提案要約集—平成元年～平成15年度— |
| 平成16年10月 | 次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)— |
| 平成17年 5月 | 21世紀における商業教育の在り方—生徒の職業観・勤労観を考える— |
| 平成17年10月 | 次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ— |
| 平成18年 5月 | 学習指導要領改訂への提言(中間まとめ) |
| 平成18年10月 | 学習指導要領改訂への提言 |
| 平成19年 5月 | 生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について |
| 平成19年10月 | 生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について ※ 冊子なし |
| 平成20年 5月 | これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について— |
| 平成20年10月 | これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について— |
| 平成21年 5月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集— |
| 平成21年10月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例— |
| 平成22年 5月 | 新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題 |
| 平成22年10月 | 新高等学校学習指導要領と今後の商業教育 |
| 平成23年 5月 | キャリア教育の現状と課題について |
| 平成23年10月 | キャリア教育・商業教育の在り方について —生徒のよりよい進路実現を目指して— |
| 平成24年 5月 | 新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅠ —魅力ある商業教育の発展を目指して— |
| 平成24年10月 | 新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅡ —魅力ある商業教育の発展を目指して— ※ 冊子なし |
| 平成25年 5月 | 思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅠ —商業教育の質の向上を目指して— |
| 平成25年10月 | 思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅡ —商業教育の質の向上を目指して— |
| 平成26年 5月 | 全商本部提案要約集—平成16年度～平成25年度— |
| 平成26年10月 | 次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅠ— |
| 平成27年 5月 | 次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅡ— |
| 平成27年10月 | 学習指導要領改訂への提言(中間まとめ) |
| 平成28年 5月 | 学習指導要領改訂への提言 |
| 平成28年10月 | 地域創生に資する商業教育の在り方について |
| 平成29年 5月 | 地域創生に資する商業教育の在り方についてⅡ —次世代の商業教育に向けて— |
| 平成29年10月 | グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について—次世代の商業教育に向けて— |
| 平成30年 5月 | グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ—次世代の商業教育に向けて— |
| 平成30年10月 | 商業高校の現状とこれからの商業教育を担う人材育成 |
| 令和 元年 5月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて—教科商業科に関する一問一答集— |
| 令和 元年10月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて—新学習指導要領実施に向けた先進事例集— |
| 令和 2年 5月 | 新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題 —魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて— |

- 令和 2年10月 魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて
—新学習指導要領に基づく教育課程編成例—
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う研究協議会中止のため本部提案なし
- 令和 3年 5月 新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題
—Society5.0時代の新しい商業教育の実現のために—
- 令和 3年10月 社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて
—Society5.0時代の新しい商業教育の実践例—
- 令和 4年 5月 ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の諸課題
—全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて—

商業教育対策委員会

令和4年度

| | | |
|---------|------|----------|
| 1. 委員長 | 西木成男 | 県・深谷商 |
| 2. 副委員長 | 小川孝 | 都・葛飾商 |
| 3. 委員 | 山本俊之 | 県・水戸商 |
| 4. " | 海老沼正 | 県・水海道第二 |
| 5. " | 岡野敏昌 | 県・鬼怒商 |
| 6. " | 蓮實芳守 | 県・鹿沼商工 |
| 7. " | 根岸卓 | 県・伊勢崎商 |
| 8. " | 内田靖 | 県・浦和商 |
| 9. " | 野口剛志 | 県・越谷総合技術 |
| 10. " | 鈴木栄次 | 県・千葉商 |
| 11. " | 森豊巳 | 県・君津商 |
| 12. " | 三枝正人 | 市・甲府商 |
| 13. " | 平野篤士 | 都・第一商 |
| 14. " | 石山智典 | 都・大田桜台 |
| 15. " | 河合俊直 | 県・平塚農商 |

魅力ある商業教育の実現に向けた令和の日本型教育の構築を目指して
— 個別最適な学びと協働的な学びを融合する探究的な学習の実践例 —

発 行 令和4年9月25日
発行編集 全国商業高等学校長協会
商業教育対策委員会
〒160-0015
東京都新宿区大京町26番地
T E L 03-3357-7911
F A X 03-3341-1039

